

＜健康食品等に関する日本語記事情報 統合版＞

2023 年前半（1 月号 No.1～6 月号 No.2）

本資料は、公益財団法人日本健康・栄養食品協会 学術情報部が、概ね隔週で会員向けに配信している「健康食品等に関する日本語記事情報」の 2023 年 1 月から 6 月配信分を統合したものです。

公益財団法人日本健康・栄養食品協会 <https://www.jhnfa.org/>

内容についてのお問合せ：学術情報部 E-mail：gakuj@jhnfa.org

健康食品等に関する 日本語記事情報（2023 年 1 月号 No.1）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）と冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております（民間の情報源には了承を得た上で転載）。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 安全性関連情報

[BfR]ヘンプを含む食品の健康リスクに関するよくある質問

食品安全情報 blog2 - 2023/1/6

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/01/06/174852>

補足：1月6日更新分の中ほどの太見出し。かなりボリュームがあります。

食品安全情報（化学物質） No.1 (2023.01.06)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202301c.pdf>

(別添) <http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202301ca.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

ステマは「不当表示」に 消費者庁が規制の方向性を示す

ITmedia NEWS - 2022/12/27

<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2212/27/news160.html>

消費者庁が開催する「ステルスマーケティングに関する検討会」は12月27日、広告でありながら消費者にはそうと伝えないステルスマーケティング（ステマ）は規制の必要性があるとする報告書をまとめた。現状は広告であるとの表示がない広告でも、不当表示に該当する文言がなければ規制できないが、ステマそのものを不当表示の一つとする方針を……

■ 行政・法令関連情報（その他）

第8回ステルスマーケティングに関する検討会の資料を公表しました。

消費者庁 - 2022/12/26

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/review_meeting_05/031493.html

12月27日開催分です。前のカテゴリでご紹介した記事はこれに関連しています。

報告書案

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/assets/representation_cms216_221226_03.pdf

「ステルスマーケティングに関する検討会報告書(案)」に関する意見募集の結果の公示について

消費者庁 - 2022/12/28 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/031692/>

第9回 景品表示法検討会の議事録を公表しました。

消費者庁 - 2022/12/29

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/review_meeting_04/030951.html

不当景品類及び不当表示防止法施行規則の一部を改正する内閣府令(案)について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/1/4

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=235070043&Mode=0>

厚生労働省、健康食品成分「イチイ」の果実を非医薬品リストから除外へ 対応を一転、1年間の猶予期間を設定

マイナビニュース - 2022/12/28

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20221228-2548639/>

特別用途食品の許可等に関する委員会の開催について

消費者庁 - 2023/1/10 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/031543/>

■ 海外公的機関情報

[BfR]ヘンプを含む食品及び飼料の健康リスクに関するよくある質問

食品安全情報 blog2 - 2022/12/28

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2022/12/28/165323>

ドイツ連邦リスク評価研究所 (BfR) の情報です。12月28日分の4番目の太見出し。

保健省、食品プラ容器や遺伝子組み換え食品に係るオンライン申請受け付け開始（タイ）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2022/12/26

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/12/f323ca97d744733f.html>

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

健康食品をヒット予測！『日経トレンドィ』編集長が考える、“これから売れる商品”とは？

ウェルネス総研レポート online - 2022/12/23 <https://wellnesslab-report.jp/2601/>

ヒットする商品にはワケがあります。数多ある商品の中で、消費者に選ばれる品を生み出すためには、どのような視点が必要なのでしょう？ 今回は、国内マーケットのトレンドに精通した「日経トレンドィ」編集長の澤原昇氏に、今後のヘルスケア商品の傾向について、お聞き-----

国内 No.1 AI 食事管理アプリ『あすけん』、「ダイエットトレンド」予測 2023 を発表！

2023 年こそ痩せたい人におすすめの「5 つの新・食習慣」をあすけん栄養士が提案

株式会社あすけん - 2022/12/23

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000075.000058653.html>

累計会員数 800 万人超*¹、国内 No.1*²の AI 食事管理アプリ『あすけん』の開発・運営を行う株式会社 asken(東京都新宿区、代表取締役社長 中島洋、以下「当社」)は、『あすけん「ダイエットトレンド」予測 2023』を発表しましたので、お知らせ-----

富士経済、デザート・米飯類・めん類の国内市場調査、2023 年市場予測はフローズンデザートが 2022 年見込比 2.5%増の 5794 億円

マイライフニュース - 2022/12/28

<https://www.mylifenews.net/data/2022/12/20232022255794.html>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、加工食品（27 カテゴリー403 品目）のうち、他の機能系商品との競合などがみられるチルドデザート、マルチパックアイスが好調なフローズンデザート、健康意識の高まりで需要が増加しているドライデザート、高騰する小麦に価格優位性を持つ米飯類、本格志向商品のニーズが高いめん類、オートミールや栄養バランス食（ソリッド）が好調なその他ステープルの計 6 カテゴリー66 品目の調査を「2023 年 食品マーケティング便覧 No.3」にまとめ-----

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

「風味」「エビデンス」訴求による市場開拓(特集／健康茶)

健康メディア.com - 2022/12/23

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16982

今年の健康茶市場は、腸活訴求のよもぎ茶や美容訴求のルイボスティー、ノンカフェインのハーブティーやフルーツティの需要が目立った。エビデンス訴求商品では、ムクナ豆のL-ドーパ成分に着目した商品開発も。熱に弱いL-ドーパの性質を克服した国内初の茶製品が登場-----

栄養素の宝庫、サステナブル性に脚光（特集：サケ由来機能性素材）

健康メディア.com - 2023/1/4 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17013

プロテオグリカン、海洋性プラセンタ、核酸などサケ由来の機能性素材が東南アジアで伸長している。現地では、「サケ＝高級魚」のイメージが定着。前年比2ケタ以上の成長率を示す原料も少なくない。栄養価の高さに加えて、サステナブル性にも優れていることから、健食・化粧品共に需要が拡大。四足動物からサケ由来の原料に切り替えを進める美容ブランドも増加しているようだ。一方で、----

機能性表示が続々、表示内容も多彩に（特集：注目のダイエット食品）

健康メディア.com - 2023/1/6 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17022

ダイエット食品においても機能性表示食品が存在感を増している。ブラックジンジャー、葛の花、ターミナリアベリリカ、サラシア、アフリカマンゴノキ、リンゴポリフェノールーなど、機能性表示対応素材が増え、製品開発が活発化。市場では、「お腹まわり」「ウエスト」「体重」「脂肪」「BMI」「ヒップ」などの文言を活用したサプリメント、飲料などが流通する。最近では「むくみ」といった文言を活用した商品も目立つ-----

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

国内の食品企業として初のトランジション・リンク・ローン※1 実行のお知らせ

～令和4年度温暖化対策促進事業費補助金※2及び産業競争力強化法に基づく成果連動型利子補給制度を適用～

キリンホールディングス株式会社 - 2022/12/26

https://www.kirinholdings.com/jp/newsroom/release/2022/1226_01.html

キリンホールディングス株式会社（社長 磯崎功典）は、国内の食品企業として初のトランジション・リンク・ローンによる資金調達（以下、本ローン）を2023年1月に実行する予定です。本ローンは、2022年12月更新の「キリン・サステナブルファイナンス・フレームワーク」※3に基づくものであり、当社がScope1とScope2の温室効果ガス（GHG）排出量削減に向けた取り組みとして推進する省エネ、および再生可能エネルギー関連のプロジェクトに充当する予定です。また、本ローンについては、経済産業省による令和4年度温暖化対策促進事業費補助金及び産業競争力強化法に基づく成果連動型利子補給制度（カーボンニュートラル実現に向けたトランジション推進のための金融支援※4）が適用-----

革新的な加水分解技術を持つ「日本ハイドロパウテック株式会社」と資本業務提携

株式会社ロッテ - 2023/1/6 <https://www.lotte.co.jp/info/news/pdf/20230105084255.pdf>

野菜摂取量推定機「ベジチェック®」令和四年度（第三十六回）「新技術・食品開発賞」を受賞

カゴメ株式会社 - 2022/12/23

<https://www.kagome.co.jp/library/company/news/2022/img/2022122301.pdf>

世界で台頭する「培養肉・代替肉ベンチャー」の新潮流

「株式会社オルタナ/オルタナオンライン」（無断転載を禁じます） - 2022/12/21

<https://www.alterna.co.jp/63629/>

動物を殺さない「代替肉」「培養肉」への投資が急増している。今後9年間で245億円以上の投資を発表したデンマークを皮切りに、カナダ、オーストラリア、オランダ、EU、シンガポール、イスラエル、米国と続く。世界で台頭する「培養肉・代替肉ベンチャー」の新潮流を紹介する。（NPO法人アニマルライツセンター代表理事＝岡田 千尋）

■ 消費者意識等の調査・分析

今回は特に見当たりませんでした。

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

低糖質・高タンパク質食生活で作業記憶能が低下、群馬大学が検証

大学ジャーナルオンライン - 2023/1/9 <https://univ-journal.jp/204141/>

群馬大学の島孟留講師らの研究グループは、マウスを用いて、4週間の低糖質・高タンパク質食摂取が作業記憶能を低下させ、海馬での神経の新生や成長・生存に関係するタンパク質の mRNA 量を低下させることを見出し……

ポリフェノール「イソラムネチン」による心房細動予防メカニズムを解明―産総研ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/12/23

<http://www qlifepro.com/news/20221223/isorhamnetin.html>

NASH 抑制作用、抗糖尿病効果が判明しているイソラムネチンに着目

国立産業技術総合研究所（産総研）は 12 月 22 日、天然に存在するポリフェノールの一種であるイソラムネチンが不整脈の一種である心房細動の発症を予防する生理活性を持つことを見出したと発表した。この研究は、同研究所食薬資源工学オープンイノベーションラボラトリの青沼和宏特別研究員、富永健一副ラボ長、筑波大学生命環境系の磯田博子教授、医学医療系の許東洙准教授の研究グループによるもの。研究成果は、「Clinical Science」に掲載……

▼関連リンク

- ・産業技術総合研究所 研究成果

https://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2022/pr20221222/pr20221222.html

高血圧発症メカニズム、腎臓と皮膚による電解質・体液制御機構が関与―香川大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2023/1/4 <http://www qlifepro.com/news/20230104/shr.html>

本態性高血圧症モデルの自然発症高血圧ラットで

香川大学は 12 月 27 日、本態性高血圧症のモデルの自然発症高血圧ラット（SHR）を用いて、腎臓-皮膚連関の観点から新たな高血圧の発症機序を発見したと発表した。この研究は、同大医学部薬理学所属の医学部医学科 4 年生の小倉卓浩氏、西山成教授ら、デューク・シンガポール国立大学の研究グループによるもの。研究成果は、「Hypertension Research 誌」に掲載され……

▼関連リンク

・香川大学 プレスリリース <https://www.kagawa-u.ac.jp/29360/>

食事パターンは「遺伝的な酒の強さ」だけでなく「実際の飲酒量」で決まる可能性—順大

QLifePro 医療ニュース - 2023/1/5 <http://www qlifepro.com/news/20230105/aldh2-2.html>

ALDH2 遺伝子多型と食事パターンの関連は不明だった

順天堂大学は 12 月 26 日、文京区在住の高齢者 1,612 人を対象とした調査により、酒の強さを決める遺伝子が食事パターンと関連するが、実際の飲酒量によって食事パターンが再規定されていることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院医学研究科スポーツ医学・スポーツロジーの杉本真理大学院生、田村好史前任准教授、河盛隆造特任教授、代謝内分泌内科学 綿田裕孝教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Nutrients」オンライン版に掲載され-----

▼関連リンク

・順天堂大学 プレスリリース <https://www.juntendo.ac.jp/news/20221226-01.html>

体温調節制御メカニズムの全貌解明につながるマスター神経細胞を同定—名大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/12/27

<http://www qlifepro.com/news/20221227/prostaglandin-ep3-body-temperature.html>

脳の視索前野、体温調節を司る重要な司令塔の神経細胞については不明点が多い

名古屋大学は 12 月 26 日、脳の中で体温調節の司令塔として機能する神経細胞群をラットで同定したと発表した。この研究は、同大大学院医学系研究科統合生理学分野の中村佳子講師、中村和弘教授、順天堂大学大学院医学研究科脳回路形態学の日置寛之教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Science Advances」にオンライン掲載-----

▼関連リンク

・名古屋大学 研究成果発信サイト

<https://www.nagoya-u.ac.jp/researchinfo/result/2022/12/post-421.html>

有機ゲルマニウムの鎮痛作用メカニズム解明、難治性疼痛治療の開発に期待—近大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2023/1/10

<http://www qlifepro.com/news/20230110/ge-132-pain.html>

有機ゲルマニウムが硫化物と反応することで鎮痛効果をもたらすかを検証

近畿大学は1月6日、健康食品として市販されている有機ゲルマニウムが、生体内で知覚神経を興奮させる作用のある硫化物を捕捉することで、鎮痛作用をもたらすことを明らかにしたと発表した。この研究は、同大薬学部医療薬学科病態薬理学研究室の川畑篤史教授、関口富美子准教授、坪田真帆講師、同有機薬化学研究室の田邊元三教授、株式会社浅井ゲルマニウム研究所（北海道函館市）の島田康弘氏、中村宜司氏、山形大学大学院医学系研究科創薬科学講座の山口浩明教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Redox Biology」にオンライン掲載---

▼関連リンク

- ・近畿大学 NEWSCAST <https://newscast.jp/news/0369171>

加齢黄斑変性などの神経炎症リスク、肥満の解消後も自然免疫に記憶されるー京大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2023/1/10

<http://www qlifepro.com/news/20230110/past-obesity-neuroinflammation.html>

加齢黄斑変性の発症に関与する肥満、痩せることで発症を抑える効果があるかは不明

京都大学は1月6日、肥満を改善させることで加齢黄斑変性（AMD）発症が抑えられるかを検討したところ、予想に反して、過去の肥満が自然免疫系に長期間記憶されており、晩年の神経炎症やAMDに悪影響を与えることを発見し、そのメカニズムを突き止めたと発表した。この研究は、同大医学部附属病院眼科の畑匡侑特定講師（研究当時 モントリオール大学ポスドク）、モントリオール大学のPrzemyslaw Sapielha教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Science」に掲載され---

▼関連リンク

- ・京都大学 最新の研究成果を知る

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research-news/2023-01-06-0>

リンパ管壁のタンパク質分解が全身の免疫バランスに波及する -- 新たな血管保護の仕組みを解明 --

大学プレスセンター - 2022/12/28 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-49767.html>

昭和大学（東京都品川区／学長：久光正）の宮崎拓郎准教授（医学部生化学講座）、宮崎章教授（同）を中心とした研究グループは、東京大学、愛知医科大学、ロンドン大学との共同研究により、細胞内プロテアーゼ「カルパイン」による過剰なタンパク質分解によりリンパ管に起因する免疫抑制が低下し、血管にて動脈硬化症が引き起こされる仕組みを世界で初めて明らかにしました。本研究成果は、2022年12月15日（米国東部標準時間）に米国心

臓協会誌「Arteriosclerosis, Thrombosis, and Vascular Biology」 (impact factor 10.514) のオンライン版に掲載され----

ミトコンドリアを活性化する「5-ALA」の力と細胞再活性への期待

ウェルネス総研レポート online - 2022/12/28

<https://wellnesslab-report.jp/2608/>

ミトコンドリアを活性化する 5-ALA (ファイブアラ、5-アミノレブリン酸) が今、新型コロナウイルス感染症の治療や予防に関する特許を取得したこともあって注目を集めています。これはヒトの体内でも合成されるほか、納豆やほうれん草など食品にも含まれている天然のアミノ酸です。昨今の「細胞再活性化」に対する関心が高まりつつあるなか、5-ALA に関する研究では数々のおどろくべき報告も。今回は、長崎大学 大学院 熱帯医学・グローバルヘルス研究科・研究科長の北 潔教授に、5-ALA に関する研究結果や今後の展望に----

以下の 6 件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事 (2022 年 12 月 23 日~2023 年 1 月 10 日) から選定したものです。

持久力運動中の炭水化物の酸化率は、エネルギー可用性の高低で異なるのか？

<https://sndj-web.jp/news/002093.php> (2022/12/23)

利用可能なエネルギーが十分な時とそうでない時で、炭水化物の酸化率が異なるのか否かを検討した研究結果が報告された。立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科の後藤一成氏らの研究によるもので、「PLOS ONE」に論文が掲載された。極端な条件設定ではなく、多くの持久系スポーツアスリートが経験する可能性のある、一般性の高い条件設定で行われている点が特徴としてあげられ-----

発表！ 2022 年、スポーツ栄養 Web で最も読まれたニュース・トピックスランキング トップ 30!!

<https://sndj-web.jp/news/002102.php> (2022/12/29)

世界のアスリートのサプリメント使用状況を考察したスコアピングレビュー

<https://sndj-web.jp/news/002098.php> (2023/1/4)

世界中のアスリートのサプリメント利用状況をスコアピングレビューにより考察した論文が報告された。アスリートのサプリ利用率は報告によってまちまちであり、また利用される

サプリの種類の性差などが浮かび上がった。その一方で、サプリ使用の理由や情報源については一貫性がみられたと-----

“暗闇のホルモン”メラトニンは、“日光のビタミン”ことビタミンDに続くのか？

<https://sndj-web.jp/news/002103.php> (2023/1/5)

「Is Melatonin the "Next Vitamin D"? (メラトニンは次のビタミンD?)」というタイトルのレビュー論文が発表された。ビタミンDは、当初は骨代謝との関連で注目され骨粗鬆治療薬としても用いられるようになったが、免疫機能を高めたり抗炎症作用など多彩な作用を有することが明らかになり、現在でも新たな知見がしばしば報告されている。睡眠関連ホルモンとして研究されてきたメラトニンも、そのような展開をみせるのだろうか。米国とオーストラリアの研究者による報告の一部を紹介する。4万字以上の長文の論文中では、アスリートでのメラトニン使用のメリットについても触れられて-----

8週間のβ-アラニン摂取で、男子バスケット選手の炎症反応が低下し最大無酸素パワーが増大

<https://sndj-web.jp/news/002104.php> (2023/1/6)

バスケットボール選手でのβ-アラニン摂取の有用性が報告された。8週間の介入でプラセボに比べて炎症マーカーの有意な低下と、最大無酸素パワーの有意な上昇が認められたという。ルーマニアの研究者らの-----

「高タンパク食でテストステロンが低下する」というメタ解析の結果をどう解釈するか？

<https://sndj-web.jp/news/002105.php> (2023/1/7)

「High-protein diets and testosterone (高タンパク食とテストステロン)」というタイトルの論文が発表された。テストステロンは男性ホルモンであり、タンパクの同化を促進し筋量や骨量を増加して、スポーツパフォーマンスにとってプラスに作用する。ところが最近、摂取タンパク質量とテストステロンレベルとの関連を検討した研究報告を対象とするメタ解析の結果、高タンパク食ではテストステロンが低下する可能性が示され (DOI: 10.1177/02601060221083079)、議論を呼んでいる (冒頭にタイトルを示した今回取り上げる論文は、その議論を整理する目的で執筆された、英ウスター大学の研究者による論文-----

■ その他の食品関連科学・技術情報

合成カンナビノイドの摂取を検出する3つのバイオマーカー特定—乱用の可能性監視へ シンガポール

サイエンスポータルアジアパシフィック - 2022/12/

https://spap.jst.go.jp/asean/news/221205/topic_na_02.html

辛くないトウガラシ「ししとう」が辛味を喪失した遺伝メカニズムを解明 信州大学

大学ジャーナルオンライン - 2023/1/6 <https://univ-journal.jp/203947/>

■ その他の科学・技術情報

資生堂、立体形状と肌内部の散乱光を解析する、世界初の光学計測システムを開発 ~加齢による肌の透明感減少に関わる主要な要素を発見~

株式会社資生堂

https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003538&rt_pr=trm47

資生堂は、ノルウェー科学技術大学との共同研究により、顔の立体形状に加えて、これまで分析が難しかった肌内部の散乱光を、非侵襲的にビジュアルや数値で総合的に計測・解析できる画期的な光学計測システムを開発しました(図1)。このシステムを使い、のべ1,000名以上の肌を計測し、肌の透明感に重要な内部散乱光を解析したところ、加齢によって内部散乱光が減少すること、また、内部散乱光にはメラニンや角層の状態など5つの要素が関連することが明らかになりました。本研究の成果のうち、光学計測システムの開発については、論文誌「Journal of Imaging Science and Technology」へ投稿し、「Charles E. Ives Journal Award」を受賞しています(※1)。また、本研究の成果の一部は、Optics & Photonics Japan 2022 (2022/11/13-11/16) でも発表----

ジーンクエストと東京大学、日本人のプレジジョン栄養に重要な遺伝子多型を同定したことを論文で発表

株式会社ジーンクエスト - 2022/12/21 <https://genequest.jp/topics/news/0/582>

株式会社ジーンクエスト(本社:東京都港区、代表取締役:高橋 祥子)および、国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科 健康栄養機能学社会連携講座(東京都文京区、加藤 久典特任教授)による共同研究により、お酒の代謝に関わる遺伝子多型(SNP)※1の遺伝型別に多様な食行動と体格(BMI※2)の関連度合いが異なることを発見し、その成果が専門誌「Nutrients」にて2022年12月1日に公開----

以上

健康食品等に関する 日本語記事情報（2023年1月号 No.2）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）と冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております（民間の情報源には了承を得た上で転載）。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 安全性関連情報

[TGA] ビタミン B6 を含む健康サプリメントが末梢神経障害を引き起こす可能性がある

食品安全情報 blog2 - 2023/1/12

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/01/12/174610>

補足：12日分の最初の太見出しです。オーストラリア保健省（Department of Health）に属する薬品・医薬品行政局（Therapeutic Goods Administration: TGA）の公表資料が紹介されています。

一部抜粋

“ビタミン B6 が末梢神経障害を引き起こす可能性は以前から知られている。-----。だが TGA は、一部の人はビタミン B6 が末梢神経障害を引き起こす可能性があることに気づ

いておらず、このビタミンがマルチビタミンやミネラル製剤など多くの健康サプリメントに入っていることに気づいていないことを示唆する有害事象報告を引き続き受け取っている。”

食品安全情報（化学物質） No.02 (2023.01.18)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202302c.pdf>

別添 <http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202302ca.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

[記事のカテゴリーに戻る](#)

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

第 6 回及び 7 回ステルスマーケティングに関する検討会の議事録を公表しました。

消費者庁 - 2023/1/17

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/review_meeting_005/

■ 行政・法令関連情報（その他）

海外における食品添加物規制（着色料）の早見表の公開

農林水産省 - 2023/1/23 <https://www.maff.go.jp/j/press/shokuhin/seizo/230123.html>

加工食品の輸出を促進するため、一般財団法人食品産業センターが、今年度農林水産省の補助事業「令和 3 年度補正 加工食品の国際標準化事業」を活用し、着色料について早見表を作成----

第 103 回コーデックス連絡協議会(開催案内)

厚生労働省 - 2023/1/10 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_29537.html

厚生労働省、消費者庁及び農林水産省は、令和 5 年 1 月 31 日（火）に、コーデックス委員会における活動状況の報告と検討議題に関する意見交換を行うため、「第 103 回 コーデックス連絡協議会」を開催します。なお、今回は、ウェブ上での傍聴を受け付け----

「食薬区分における成分本質（原材料）の取扱いの例示リスト」の一部改正に関する意見募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/1/11

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495220306&Mode=0](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495220306&Mode=0)

「専ら医薬品として使用される成分本質（原材料）リスト」への追加へのピンポセチンの追加。

「食品衛生法施行規則の一部を改正する省令案」に関する御意見の募集について寄せられた御意見について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/1/19

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=495220194&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=495220194&Mode=1)

密封包装食品関連です。

■ 海外公的機関情報

以下の 20 件は、**食品安全委員会 食品安全総合情報システム**

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2023/1/11 確認) の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)

2. [国際連合食糧農業機関\(FAO\)、食物アレルギーのリスク評価に関する FAO/世界保健機関\(WHO\)合同専門家会議 PART2「食品における優先的アレルギーの閾値の見直し及び設定」の会議報告書を公表](#)

4. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品中又は食品の表面に使用される香料のリスク評価に要求されるデータに関する科学的ガイダンスを公表](#)

6. [米国環境保護庁\(EPA\)、IRIS ハンドブック及びパーフルオロブタン酸\(PFBA\)及び関連塩類の IRIS 評価最終版を公表](#)

9. [ベルギー連邦フードチェーン安全庁\(AFSCA\)、PFASによる環境汚染に関連して、ワロン地方で実施された食品の検査結果を公表](#)
10. [ニュージーランド環境保護庁\(NZEPA\)、PFAS含有泡消火薬剤の規制強化を公表](#)
16. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、全国食事調査のための方法論及びツールに関する文献レビューの結果を外部委託機関による科学的報告書として公表](#)
20. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、二酸化硫黄と亜硫酸塩\(Sulfite\)を対象とした欧州食品安全機構\(EFSA\)の最新の評価に関する情報\(Nr. 039/2022\)を公表](#)
21. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、食品中のピロリジジナルカロイド\(Pyrrrolizidinalkaloiden\)に関する最新のFAQを公表](#)
24. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品を通じた栄養素及び汚染物質への複合ばく露のリスク・ベネフィット評価に関するイベントレポートを公表](#)
29. [欧州疾病予防管理センター\(ECDC\)、リステリア症に関する2021年疫学報告書を公表](#)
34. [欧州委員会\(EC\)、化学製品の分類、表示、包装に関する改正規則を提案し、内分泌かく乱物質及びその他の有害化学物質に関する新しい危険有害性クラス\(hazard class\)を導入した旨を公表](#)
40. [オーストリア保健・食品安全局\(AGES\)、クマリン\(Cumarin\)の概況報告書を公表](#)
52. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、マイコトキシン効果の毒性学的調査に対する革新的in vitroアプローチに関するEU-FOR A SERIES 5報告書を公表](#)
58. [フランス食品環境労働衛生安全庁\(ANSES\)、食品添加物二酸化チタン\(E171\)に対する「ナノ特異的な」リスク評価手法の最初の適用に関する意見書を公表](#)
60. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品に含有される昆虫とアレルギー性評価との関連性に関するEU-FOR A SERIES 5報告書を公表](#)
61. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品である昆虫タンパク質のアレルギー性評価に関するEU-FOR A SERIES 5報告書を公表](#)

63. [米国環境保護庁\(EPA\)、農薬製品における 12 種類の PFAS の使用中止を公表](#)

66. [英国毒性委員会\(COT\)、アクリルアミドの遺伝毒性に関する欧州食品安全機関\(EFSA\)の 2022 年評価のディスカッションペーパーを公表](#)

72. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、スローガンではなく科学として食品安全文化を推進する、体系的な文献レビューを公表](#)

73. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2022 年 12 月 7 日~12 月 13 日\)](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

TPC マーケティングリサーチ、昆虫食市場について調査、2021 年は前年から約 6 割増の 10.8 億円に拡大

マイライフニュース - 2023/1/23 <https://www.mylifenews.net/drink-food/7442/>

TPC マーケティングリサーチは、国内の昆虫食市場について調査を実施した。その結果、2021 年における昆虫食市場は、前年から約 6 割増の 10.8 億円に達した。今後の国内市場の成長に向けては、トライアル層のロイヤルユーザー化だけでなく、より広いユーザー層へアプローチが必要とみられ-----

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

with コロナで肌ケアニーズが拡大 海外需要旺盛に（特集：ヒアルロン酸 Na）

健康メディア.com - 2023/1/17 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17083

長引く新型コロナウイルスの感染拡大により新しい生活様式が強いられるなか、マスク着用によって引き起こされる肌トラブルが急増している。民間企業が実施したアンケート調査では約半数がマスク常用による「肌荒れ」状態に。特にニキビや吹き出物に関する悩みが多く、乾燥時期も相まって、かゆみに悩む人も増えている。原因はマスク着用による摩擦と乾燥。肌バリア機能の低下が慢性化し、「マスクネ」「アクネ・メカニカ」という新語も誕生した。原料サプライヤーの話ではマスクネ対策で引き合いがあるという。一方、海外でもヒアルロン酸のニーズは高まる。化粧品、食品共に利用が進んでおり、今後の輸出拡大にも期待が寄せら-----

VM 補給からスポーツ、免疫、デトックスまで、広がる裾野（特集／クロレラ）

健康メディア.com - 2023/1/17 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17079

クロレラ市場の裾野が広がっている。エビデンスの拡充、高付加価値原料の開発を背景に、従来のビタミン・ミネラル補給、ホールフーズとしての市場構築に加えて、スポーツ、免疫、デトックス、ヴィーガンなどをテーマとした商品での採用が進む。フェムケアクロレラ、クロレラプロテインなど、クロレラを由来とする新素材開発も加速しており、市場再興への下地が整いつつ-----

「完全栄養食」「プロテイン」「グミ」などミネラル強化食品の裾野拡大（特集：ミネラル）

健康メディア.com - 2023/1/19

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17089

基本栄養素“ミネラル”強化を謳った商品開発が活発だ。昨今では完全栄養食やプロテイン、シリアル、グミなどの一般食品まで利用の裾野が拡大。様々な食品ジャンルでの商品化が進んでいる。サプライヤーサイドでは、「天然」「マスキング」「溶解性」「胃腸負担軽減」など差別化商品の開発を後押し。「スポーツ」「フェムケア・フェムテック」用途のほか、代替肉の雑味低減や食感改良を訴求する動きもみられはじめた。日本人のミネラル充足率は、カルシウムや鉄の摂取不足が常態化。カルシウム、鉄、マグネシウム、亜鉛などの摂取率向上が課題となっている。ミネラル食品市場の現状を-----

「ファンクショナルフードは老化を制御できるか？」をテーマに

「食品と開発」（健康メディア.com） - 2023/1/19

https://www.kenko-media.com/food_devlp/archives/6286

ファンクショナルフード学会は、1月6日、7日の2日間、愛知県名古屋市(会場：ウインクあいち)で第19回学術集会を開催した。「ファンクショナルフードは老化を制御できるか？」をテーマに、抗老化に関わる炎症抑制など作用メカニズムの解明に関する研究成果を中心とした演題が盛り込まれ、若手研究者からの講演発表も行われた。ハイブリット式で行われ、現地、オンラインあわせて約80人が参加-----

コロナ禍で躍進、青汁の差別化、ペット向けなど需要旺盛（Zoom Up：クマ笹）

クマ笹の需要が高まっている。漢方生薬や民間療法としての実績を持つクマ笹は、免疫賦活、殺菌、抗炎症、抗ストレス、オーラルケアなどさまざまな用途に応用されている。コロナ禍においては、健康維持や免疫への関心の高まりから、コアユーザーの多いエキスを中心に、青汁の差別化としての採用が拡大傾向に。ライトユーザーの新規獲得に寄与する茶類でも新たな顧客獲得が進むほか、飼料やペットフード向けなどの製品でも新規の需要が誕生している。クマ笹初の機能性表示食品も登場しており、幅広い分野へ裾野が拡大して……

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

東京商工リサーチが主要食品メーカー121社の「価格改定・値上げ」を調査、食品の価格改定は今年すでに1万品超を予定

マイライフニュース - 2023/1/23 <https://www.mylifenews.net/drink-food/7344/>

東京商工リサーチ（TSR）は国内の主要食品メーカー121社を対象に、今年1月以降の出荷・納品分で価格改定を公表した商品について調査した。

為替相場は、一時期に比べ、円安が落ち着いているものの、原材料や資源価格の高騰で食品の値上げが相次いでいる。仕入コスト上昇が続き、2023年の出荷分で主要食品メーカー121社のうち、半数以上の64社（構成比52.8%）がすでに価格改定を公表している。品目数は計1万36品におよび、約7割が年度末の2・3月に集中している。原材料そのもののコスト高に加え、パッケージや包材などの資材価格や物流費の上昇など、複数の要因を値上げの理由にあげている。メーカーによっては今春の値上げに次いで、年下半期にも値上げを検討する商品もあり、価格改定の波は続き……

■ 消費者意識等の調査・分析

ツムラ、第3回なんとなく不調に関する実態調査、「なんとなく不調」を感じる人は75%に、コロナ禍3年間高いまま

マイライフニュース - 2023/1/23 <https://www.mylifenews.net/health-medical/7418/>

ツムラは、「第3回 なんとなく不調に関する実態調査」を行った。同調査は2020年から開始し、今回で3回目となる。調査の結果、全国20～40代の男女1800人のうち、なんとなく不調を感じる人は75.6%で、第1回目の調査から3年間、7割前後で推移し依然として「なんとなく不調」を感じる割合は高いままだとわかった。50代、60代も含めてなんとなく不調を抱える人の背景を探ると、ストレスを感じたり、病院の受診を躊躇しがちな人ほど、なんとなく不調を感じていることがわかった。また、コロナ禍でもコミュニケーション

頻度が増えた人は、健康意識も高く、心身の調子も良いことがわかった。今回の調査結果について、外科医で漢方専門医でもある今津嘉宏先生にコメントしてもら-----

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

食事指導で肥満を抑制できない原因を発見、無意識的な刺激が脳活動に影響—大阪公立大

QLifePro 医療ニュース - 2023/1/11

<http://www qlifepro.com/news/20230111/eating-behavior-magnetoencephalography.html>

食行動時の無意識的な機構が、肥満抑制に重要であるという仮説の妥当性は示されていない

大阪公立大学は1月10日、食行動制御などを行う前頭葉の一部の領域である下前頭回において、意識的な食刺激と無意識的な食刺激に対する脳の活動が異なっていることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院医学研究科運動生体医学の石田梨佳氏（同研究科前期博士課程修了）、石井聡講師、吉川貴仁教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「PLOS ONE」にオンライン掲載されて-----

▼関連リンク

・大阪公立大学 プレスリリース

https://www.omu.ac.jp/info/research_news/entry-03696.html

漬物やキムチの乳酸菌による肥満抑制の分子メカニズムを解明—京大ほか

QlifePro 医療ニュース - 2023/1/20

<http://www qlifepro.com/news/20230120/leuconostoc-mesenteroides.html>

プロバイオティクスやプレバイオティクス、腸内環境改善の科学的作用機序は不明だった

京都大学は1月18日、漬物やキムチのような発酵食品の生産に用いられる乳酸菌の1種「*Leuconostoc mesenteroides*」が、砂糖を基質として高産生する菌体外多糖「EPS（exopolysaccharide）」を摂取することにより、宿主の腸内環境が変化し、主要な腸内細菌代謝物である短鎖脂肪酸の産生量を増加させることで、肥満を防ぐことを、マウス実験により明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院生命科学研究科 木村郁夫教授（東京農工大学大学院農学研究院 特任教授）、東京農工大学大学院農学研究院 宮本潤基テニウアトラック准教授、Noster 株式会社 清水秀憲研究グループ長（京都大学大学院生命科学研究科 受託研究員）らの研究グループによるもの。研究成果は、「Gut Microbes」にオンライン掲載-----

▼関連リンク

・京都大学 最新の研究成果を知る

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research-news/2023-01-18-3>

過食・高脂肪食摂取による肥満から誘発の肝疾患、発症制御因子を同定 —京大ほか

QlifePro 医療ニュース - 2023/1/20 <http://www.qlifepro.com/news/20230120/gpr84.html>

有効な治療法が確立されていない NASH

京都大学は1月18日、過食・高脂肪食摂取により誘導される脂肪毒性から、生体内でその時、産生される中鎖脂肪酸と GPR84 受容体が肝機能保護に働くことをマウス実験によって明らかにしたと発表した。この研究は、同大学院生命科学研究所の木村郁夫教授（東京農工大学大学院農学研究院特任教授）、大植隆司同助教、東京農工大学大学院農学府の野仲葉月大学院生（研究当時）、京都大学大学院薬学研究所の西田朱里院生らの研究グループによるもの。研究成果は、「JCI Insight」にオンライン掲載-----

▼関連リンク

- ・京都大学 最新の研究成果を知る

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research-news/2023-01-18-4>

ビール苦味成分である熟成ホップ由来苦味酸の摂取が、健常成人の自律神経活動を調整し、注意力を向上させることを臨床試験で確認

—熟成ホップ由来苦味酸による認知機能・精神機能改善メカニズムの一端を解明—

慶應義塾大学 - 2023/1/16

<https://www.keio.ac.jp/press-releases/files/2023/1/16/230116-1.pdf>

慶應義塾大学文学部心理学研究室の梅田聡教授、キリンホールディングス株式会社 R&D 本部キリン中央研究所の研究グループは、熟成ホップ由来苦味酸の単回摂取が注意力を必要とする認知機能検査中の自律神経活動を調節し、注意力を向上させる機能があることを、健常成人を対象とした、ランダム化プラセボ対照二重盲検クロスオーバー比較（注 1）の臨床試験で確認しました。今まで熟成ホップ由来苦味酸のメカニズムはヒトにおいては解明されていませんでしたが、本結果はその一端を解明する研究成果-----

睡眠中の脳の学習理論

—伝達情報量最大化で神経回路の変化・記憶の定着を説明する—

理化学研究所 - 2023/1/12 https://www.riken.jp/press/2023/20230112_1/index.html

理化学研究所（理研）脳神経科学研究センター数理脳科学研究チームの吉田健祐研修生、豊泉太郎チームリーダーの研究チームは、睡眠中の徐波[1]の間に起こる神経活動と神経回路

の変化（シナプス可塑性[2]）、記憶の定着や忘却に関する複数の実験結果を「情報量最大化[3]」によって統一的に説明する理論を構築-----

悪玉脂質を産生する腸内細菌が肥満を悪化させる

－腸内細菌を介した肥満の発症・悪化メカニズムの解明－

理化学研究所 - 2023/1/18 https://www.riken.jp/press/2023/20230118_1/index.html

理化学研究所（理研）生命医科学研究センター 粘膜システム研究チームの大野 博司 チームリーダー、竹内 直志 特別研究員（研究当時）らの共同研究チームは、「トランス脂肪酸[1]」など健康を害する脂質を産生する腸内細菌が肥満や高血糖などの代謝疾患を悪化させることを発見しました。

本研究成果は、特定の腸内細菌がその産生物質（代謝物[2]）を介して私たちの代謝機能やその異常に深く関与していることを示しており、今後、腸内細菌やその産生物質をターゲットとした肥満に対する新しい治療の創出に貢献すると期待-----

高齢者の認知機能に対するハーブ抽出物の効果～ランダム化対照試験

ケアネット - 2023/1/20 <https://www.carenet.com/news/general/carenet/55736>

アルツハイマー病モデルに関する *in vitro* および *in vivo* の研究において、ロスマリン酸がアミロイドβの形成やアミロイドβタンパク質のオリゴマー化や沈着を阻害できると報告されている。ロスマリン酸 500mg を含有する食用ハーブであるメリッサオフィシナリス（*M. officinalis*）抽出成分は、健康成人や軽度のアルツハイマー型認知症患者に対し忍容性、安全性が良好であると考え----

原著論文：<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/36502333/>

金沢大学プレスリリース - 2023/1/17

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/wp-content/uploads/2023/01/230117-1.pdf>

活性型ビタミン D3 がヒ素を介した発がんのリスクを抑制することを発見

芝浦工業大学 - 2023/1/19 <https://www.shibaura-it.ac.jp/news/nid00002921.html>

芝浦工業大学（東京都江東区／学長 山田純）システム理工学部生命科学科・矢嶋伊知朗教授らの研究チームは、カルシトリオール（活性型ビタミン D3）が、ケラチノサイトと呼ばれる特定の種類の皮膚細胞において、ヒ素を介した発がんを抑制することを明らかにしました。

世界では1億4千万人以上の人々が飲料水を通してヒ素にさらされており、慢性的なヒ素の曝露は、皮膚がんを含む様々ながんを引き起こすことが知られています。ヒ素汚染地域であらかじめビタミンD3を摂取しておけば、5年後、10年後のがん発症リスクを低減し、長期にわたって健康を維持できる可能性があります。今後は、がんを含むヒ素を介した様々な疾患の予防や治療に貢献していきます。

※この研究成果は、「American Journal of Cancer Research」オンライン版に掲載されています。

変形性膝関節症の発症メカニズム、名古屋大学などが解明

大学ジャーナルオンライン - 2023/1/21 <https://univ-journal.jp/206317/>

名古屋大学の飯島弘貴 YLC 特任助教らの国際共同研究グループにより、変形性膝関節症は加齢に伴い硬くなった関節軟骨が長寿タンパク質を抑制することで発症することが明らかになった。研究には、米国のハーバード大学、ピッツバーグ大学、メイヨークリニック、カリフォルニア工科大学、および京都大学が参加-----

きのこの継続摂取が腸内の短鎖脂肪酸の増加と免疫機能の増強につながることを明らかに

ホクト株式会社 - 2023/1/16

<https://www.hokto-kinoko.co.jp/z0y6LaZKWu/wp-content/uploads/2023/01/news-release-20230116.pdf>

ホクト株式会社（本社：長野県長野市、代表取締役社長 水野雅義、以下「当社」）は、株式会社メタジェン（本社：山形県鶴岡市、代表取締役社長 CEO 福田真嗣）と共同研究を行い、きのこの継続摂取が腸内の短鎖脂肪酸の増加と免疫機能の増強に関わることを見出しました。その成果が科学雑誌「Frontiers in Nutrition」に2023年1月9日付で掲載され---

グアーガム分解物のメンタルヘルスへの有効性を確認 腸内環境改善を介して睡眠の質を改善、やる気を維持

太陽化学株式会社 - 2023/1/17

<https://www.taiyokagaku.com/uploads/2023/01/7d334665b489e595df821d630b905882.pdf>

太陽化学株式会社(代表取締役社長：山崎 長宏)、摂南大学農学部応用生物科学科 井上 亮教授、株式会社栄養・病理学研究所(代表取締役社長：塚原 隆充)、京都府立医科大学寄附講座「生体免疫栄養学(太陽化学)講座」内藤 裕二教授らによる研究グループは、健康成人の腸

内環境およびメンタルヘルスに対するグアーガム分解物の有効性について検証し、学術誌「Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition」に発表-----

ダイセルとメタジェンの共同研究成果が科学雑誌「Frontiers in Nutrition」に掲載

-ウロリチン A の血管内皮機能改善効果と腸内細菌叢との関係が明らかに-

株式会社ダイセル - 2023/1/18 <https://www.daicel.com/news/assets/pdf/20230118.pdf>

株式会社ダイセル（本社：大阪市北区、代表取締役社長 小河義美）は、腸内環境を適切にデザインすることで病気ゼロの実現を目指す株式会社メタジェン（本社：山形県鶴岡市、代表取締役社長 CEO・CGDO 福田真嗣）と共同研究を行い、ウロリチン A には血管内皮機能（※1）改善効果があること、ウロリチン A の血管内皮機能改善効果が個人の腸内環境に影響されることを明らかにしました。この研究成果が科学雑誌「Frontiers in Nutrition」に 2023 年 1 月 5 日付で掲載され-----

アトピー性皮膚炎の痒みの原因物質を特定し、阻害剤で痒みが改善

大学ジャーナルオンライン - 2023/1/19 <https://univ-journal.jp/205820/>

富山大学と佐賀大学の研究グループは、アトピー性皮膚炎において痒みを引き起こす原因物質がペリオスチンであることを突き止め、ペリオスチン阻害剤が有効な痒み治療薬となることを明らかに----

HYPER CUBE、岡山市で AI アバター使ったフレイル健康チェック診断の検証を実施

IoTNEWS - 2023/1/20 <https://iotnews.jp/medical-healthcare/214260/>

HYPER CUBE（ハイパーキューブ）は 1 月 20 日、岡山市と、岡山市主催のフレイル予防イベントや市内の薬局で、高齢者向け対話型 AI（人工知能）アバターを使ったフレイル健康チェックの有効性やサービスの検証を、1 月 27 日から 2 月 28 日まで実施すると発表した。

「フレイル」は、加齢とともに心身が虚弱になっていくことを指す。早期に予防の取り組みを行うことで、元気な状態を取り戻せるとされていると-----

第 288 回

近未来テクノロジー見聞録

薬物や食べ物への"渴望"度合いを予測する脳活動のパターンを特定！

マイナビニュース - 2023/1/17

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/kinmirai-technology-kenbunroku-288/>

1月25日配信の英文記事情報でご紹介した以下の論文について解説されています。

「Nature Neuroscience」掲載論文：「A neuromarker for drug and food craving distinguishes drug users from non-users」<https://www.nature.com/articles/s41593-022-01228-w>

サルナシの果汁にタバコ含有肺発がん物質起因の肺腫瘍の減少効果、岡山大などが確認

マイナビニュース - 2023/1/19

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230119-2567740/>

乳酸菌が産生する多糖体にインフルエンザの感染抑制効果など、明治が確認

マイナビニュース - 2023/1/19

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230119-2567667/>

以下の1件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2023年1月11日～24日）から選定したものです。

動物性タンパク質の摂取量は骨密度と正相関する一方で、植物性タンパク質の摂取量は逆相関

<https://sndj-web.jp/news/002117.php> (2023/1/18)

タンパク質の摂取量と全身および脊椎の骨密度との関連を検討した結果が報告された。総タンパク質摂取量や動物性タンパク質の摂取量はそれらの骨密度と正の相関が認められ、反対に植物性タンパク質の摂取量は骨密度と逆相関しているという。欧州で行われた4件の高齢者対象研究のデータを統合して解析した結果であり、著者らは「植物性食品ベースの食事が骨密度に及ぼす影響について、さらなる研究が必要とされる」と述べて……

■ その他の食品関連科学・技術情報

コオロギが世界の食料危機を救う、生産量拡大へスマート飼育の実証実験開始

MONOist - 230120 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2301/20/news086.html>

食用コオロギの生産から商品開発、販売まで行う徳島大学発のベンチャー企業グリラスとNTT 東日本は、IoT（モノのインターネット）機器などを活用した食用コオロギのスマート飼育に向けて実証実験を開始すると発表……

日本を代表するトウガラシ「鷹の爪」の全ゲノムを解読～多様なトウガラシを生み出すための基盤に～

京都大学 - 2023/1/12 <https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research-news/2023-01-12-2>

玄米の健康機能を担う主要成分としてフェルラ酸シクロアルテニルを同定

岡山大学 - 2023/1/11 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1038.html

ジャガイモの消化を遅らせ、ブドウ糖への変換を制御する新加工技術開発 シンガポール

Science Portal Asia Pacific（独立行政法人科学技術振興機構） - 2023/1/13

https://spap.ist.go.jp/asean/news/230102/topic_na_01.html

■ その他の科学・技術情報

今回は特に見当たりませんでした。

■ その他

「Foodnavigator-asia」に、1月19日付けで日本語記事（英文記事の翻訳）がいくつか掲載されていましたので、ご紹介いたします。タイトルのクリックで閲覧可能です。

[ポリシー ピック:オーストラリア、ニュージーランド、日本の規制に関する最新情報](#)

[パッケージング ハプニング: Mondelez のリサイクルソフトプラスチックパック、日本の有機ロゴマーク規定、Coffee Roasters のネスプレッソ対応ポストバイオティックコーヒーなどを紹介](#)

[スタートアップ スポットライト: The Leaf Protein Co、Avant、Yacon New Zealand などの特集が組まれています](#)

[ブラン ニュー: Carlsberg、Unilever、アサヒ、その他ビッグブランド特集](#)

[ジャパン フォーカス: キリンのウイスキー輸出ブーム、アサヒビールの復活、明治の個人向けプロテイン技術、他](#)

以上

健康食品等に関する 日本語記事情報（2023年2月号 No.1）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）と冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております（民間の情報源には了承を得た上で転載）。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 注目情報

[有機フッ素化合物の健康影響調査、2023年度から国が開始（独自コメント）](#)

1月26日に、内閣府食品安全委員会が、有機フッ素化合物（**総称 PFAS**）の代表的な物質である PFOS と PFOA について、食品等を通じて体内に取り込まれた場合の健康影響調査の来年度開始を決定しました。このことはテレビや新聞でも報道されており、目や耳にした方もいらっしゃると思います。これまでの日本のメディア報道は、米軍基地による PFAS 汚染といった話題が中心でしたが、今後、更に注目度が上がる可能性があります。

PFAS は難分解性のため「永遠の化学物質」とも呼ばれています。PFAS を代表する PFOS や PFOA について海外情報を通じて気になり始めたのは 2001 年末頃です。こうしたことから、PFAS についてこれまで日本語記事情報でも、海外規制機関の動向として何度かご紹介してまいりました。今回の報道で、こうした問題は 10 年後、20 年後のレベルで顕在化することもあるのだと実感している次第です。食品関連企業にとっては迷惑な話ですが、将来的に原材料調達の中で何らかの取組を求められる可能性もあります。いたずらに恐怖を煽るような報道に踊らされることなく、国内外の規制機関の動向に注意を払って頂きたいと思います。

■ 安全性関連情報

食品安全情報 blog2 - 2023/2/1

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/02/01/180315>

[FDA]FDA はベビーフード中の鉛のアクションレベルに関する事業者向けガイダンスを発表

2月1日分の最初の見出しです。同日配信の英文記事情報でもご紹介しております。

その他

-事実対恐怖

2月1日分で下にならスクロールすれば見えてきます。最近、日本のニュースでも目にする有機フッ素化合物 PFAS に関して、環境保護団体 EWG が恐怖を煽っているとする批判的意見が掲載されています。

-SMC UK

超加工食品と異なるがんリスクを調べた研究への専門家の反応

超加工食品によりがんのリスクが上がるとした最新の研究を疑問視する別の研究者らの見解が紹介されています。なお、この研究については、同日配信の英文記事情報でもご紹介しております。

韓国製インスタントラーメンから農薬検出、タイ FDA が注意喚起

タイランドハイパーリンクス - 2023/1/26 <https://www.thaich.net/news/20230126cw.htm>

食品安全情報（化学物質） No. 3/ 2023（2023. 02. 01）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202303c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

以下、今回目に付いた見出しです（別セクションで紹介しているものも含まれます）。

【WHO】 世界保健機関

1. 50億人が心疾患につながるトランス脂肪から守られていない
3. 食物アレルギーのリスク評価：パート 2：優先アレルギーの見直しと食品中の閾値の設定：会合報告

【EFSA】 欧州食品安全機関

2. セレンの許容上限摂取量に関する科学的意見

【RIVM】 オランダ国立公衆衛生環境研究所

1. 欧州 PFAS 禁止案が正式に提出される

【FDA】 《米》食品医薬品局

1. FDA はベビーフード中の鉛のアクションレベルに関する事業者向けガイダンスを発表
6. FDA は包装前面表示に関する消費者調査について手続き通知を発行する
（「6」については、同日配信の英文記事情報でもご紹介しております）

【EPA】 《米》環境保護庁

1. EPA は 2024-2027 会計年度の国家執行及び遵守イニシアチブに、気候変動、PFAS を加えることを提案
2. EPA は PFAS 限度や栄養についての新しい研究を含む排水規制と研究の新しい計画を発表

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

「一般消費者が事業者の表示であることを判別することが困難である表示」告示案及び「一般消費者が事業者の表示であることを判別することが困難である表示」運用基準案に関する意見募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/1/25

<https://public-comment.e->

gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=235070044&Mode=0

あやうく見落とししかけましたが、いわゆるステマ広告（ステルスマーケティング）関連の告示などに対するパブコメ募集です。

「一般消費者が事業者の表示であることを判別することが困難である表示(案)」に関する公聴会の開催について

消費者庁 - 2023/1/27 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/031963/>

いわゆるステマ広告（ステルスマーケティング）関連の公聴会の開催案内です。

第 10 回 景品表示法検討会の議事録を公表しました。

消費者庁 - 2023/1/31

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/review_meeting_04/031362.html

健康食品に関する景品表示法及び健康増進法上の留意事項について(冊子)を公表しました

消費者庁 - 2023/1/31

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/extravagant_advertisement/

アシスト株式会社に対する景品表示法に基づく課徴金納付命令について

消費者庁 - 2023/1/24 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/031886/>

消費者庁は、本日、アシスト株式会社に対し、同社がアクガレージ株式会社と共同して供給する「ジュエルアップ」と称する食品及び「モテアンジュ」と称する食品に係る表示について、景品表示法第 8 条第 1 項の規定に基づき、課徴金納付命令を発出……

メディア報道によると、ステルスマーケティング（いわゆるステマ）を利用した宣伝について、課徴金納付命令が出るのは初めてとのことです。

■ 行政・法令関連情報（その他）

生命科学・医学系研究等における個人情報の取扱い等に関する合同会議（第 8 回）関連

厚生科学審議会 科学技術部会 医学研究における個人情報の取扱いの在り方に関する専門委員会（第8回） 資料

厚生労働省 - 2023/1/26 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_30487.html

厚生科学審議会 再生医療等評価部会 遺伝子治療等臨床研究における個人情報の取扱いの在り方に関する専門委員会（第11回） 資料

厚生労働省 - 2023/1/26 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_30490.html

べにふうき緑茶中のメチル化カテキンの定量－高速液体クロマトグラフ法の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/2/6

<https://public-comment.e>

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003650&Mode=0](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003650&Mode=0)

ウンシュウミカン中のβ-クリプトキサンチンの定量－高速液体クロマトグラフ法の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/2/6

<https://public-comment.e>

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003651&Mode=0](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003651&Mode=0)

■ 海外公的機関情報

[FDA]FDAはCBDとダイエタリーサプリメントに関連する3件の市民請願への回答を発表

食品安全情報 blog2 - 2023/2/3

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/02/03/172851>

2月3日分の最初の見出しです。

以下の11件は、**食品安全委員会 食品安全総合情報システム**

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2023/1/25 確認) の中から、気になったものを選定しました。

見出しのクリックで内容をご覧ください。

- 3. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としてのナタネの種子の安全性に関する科学的意見書を公表](#)
- 16. [カナダ食品検査庁\(CFIA\)、特定食品中のオクラトキシン A を対象とした食品化学分野における調査の最終報告書を公表](#)
- 17. [カナダ食品検査庁\(CFIA\)、乳児用シリアル中のデオキシニバレノールを対象とした食品化学分野における調査の最終報告書を公表](#)
- 29. [米国環境保護庁\(EPA\)、さらに 9 種類の PFAS について、放出及びその他の廃棄物管理に関する報告を義務付けることを公表](#)
- 32. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間 \(2023 年 1 月 6 日~1 月 10 日\)\)](#)
- 33. [国際連合食糧農業機関\(FAO\)、食物アレルギーのリスク評価に関する FAO/世界保健機関\(WHO\)合同専門家会議 PART 4 「食物アレルギーの見直し及び除外の設定」のサマリー及び結論を公表](#)
- 34. [米国環境保護庁\(EPA\)、全米の PFAS 発生源に関する情報を提供する新しい PFAS 分析ツールを公表](#)
- 35. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、食品への直接添加が許可された食品添加物であるビタミン D3 に関する最終規則を公表](#)
- 41. [米国環境保護庁\(EPA\)、プラスチック化学製造で使用される PFAS について国家検査戦略に基づく次の検査命令を公表](#)
- 43. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2023 年 1 月 4 日~1 月 5 日\)](#)
- 44. [ベルギー連邦フードチェーン安全庁\(AFSCA\)、PFAS のリスク地域で、動物の一次産品生産に従事する事業者による自主管理の枠組みで実施するモニタリングのためのガイドライン\(更新版: version3.0\)を公表](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

[矢野経済研究所、国内の健康・機能性食品素材（原料）市場の調査、2021 年度の市場規模は前年度比 103.1%と好調に推移](#)

マイライフニュース - 2023/2/1 <https://www.mylifenews.net/health-medical/8324/>

矢野経済研究所は、国内の健康・機能性食品素材（原料）市場を調査し、各素材別の動向、参入企業動向、将来展望を明らかにした。その結果、コロナ禍によって新たに浮上した健康問題解決のための素材の需要喚起と、一般食品への採用増が市場規模を押し上げ、2021年度の健康・機能性食品素材（44 素材）の市場規模は、前年度比 103.1%と好調に推移-----

富士経済、清涼飲料と嗜好品の国内市場の調査、2023 年市場予測では炭酸飲料が 5767 億円・麦茶（リキッドタイプ）が 2038 億円に

マイライフニュース - 2023/1/24 <https://www.mylifenews.net/drink-food/7510/>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、加工食品（27 カテゴリー403 品目）のうち、生鮮野菜の喫食頻度増加によって野菜飲料を中心に伸び悩む果実飲料、エクステンション品が好調な炭酸飲料、乳価改定に伴う値上げの影響がみられる乳性飲料を調査した。また、止渴需要が追い風となる嗜好飲料、スポーツ時に加えオフィスワーカーの外出時の飲用が増えている健康飲料、大容量の国産ミネラルウォーター類などが好調なその他飲料、市販用と業務・加工用共に好調なレギュラーコーヒーを含む嗜好品を加えた計 7 カテゴリー69 品目の調査を「2023 年 食品マーケティング便覧 No.4」にまとめ-----

医療機関のサプリメント販売伸長（特集：医家向けサプリメント）

健康メディア.com - 2023/1/30

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17128

医療機関向けサプリメントの販売が好調だ。本紙が今回取材した医家向けサプリメントの販売メーカー数十社は、いずれも出荷数に関して、前年を超えたという声が聞かれた。2014年、厚労省の「医療機関におけるサプリメント等の食品の販売を明確化する事務連絡」以降、医家向けサプリメントが浸透。また未病の高まりから医師のサプリメントに対する見方に変化が出てきた。ある企業は、-----

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

サプリから一般加工食品まで野菜パウダー活用拡大（ZOOM UP：パワーベジタブル）

健康メディア.com - 2023/1/24 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17116

「1 日 350g 野菜を食べよう」という情報は定着したが、肝心の実態は 10 年以上も改善が見られず、国内の野菜摂取不足は年々深刻化している。こうした中、野菜パウダーを活用したサプリメントやスープ、ふりかけ、青汁、スムージー、健康志向の製菓などで手軽に摂

取する傾向が増加。農水省による新たな野菜摂取量の“見える化”に関する取り組みも報告され、今後の野菜摂取不足の改善に新たな道筋が示されようとして……

“美肌” With コロナで市場拡大へ（特集：注目のインナービューティ 商材）

健康メディア.com - 2023/1/30 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17132

健食市場において「美容・美肌」は、確固不動の人気カテゴリーだ。本紙が受託加工メーカーを対象に年に2回実施するアンケート調査においても、「ダイエット」「免疫」「ロコモ対策」などを抑えて常に上位にランクイン。昨年12月の最新調査でも1位を獲得した（有効回答131社）。その市場規模は、コラーゲン、ヒアルロン酸、プラセンタ、セラミドなど定番素材だけで考えても2,500億円超（本紙推計）。最近ではNMNや乳酸菌などの利用、サブリ剤形以外で美肌効果を訴求する青汁や酵素飲料、プロテイン等も上市され、インナービューティ市場の拡大が……

機能性表示食品、500品目前に（特集：注目の”健脳”素材）

健康メディア.com - 2023/2/2 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17170

2022年の健脳サプリメント、機能性表示食品の市場は、3月の消費者庁による認知機能関連の機能性表示食品115社への改善指導の影響もあり、成長率が鈍化した。とはいえ、引き続き認知機能関連の機能性表示食品の開発は活況を呈しており、機能性表示食品の受理数は490品と、この1年間で約110品目増加。500品到達が目前の状況……

【調査】国内CBD市場を取り巻く問題について ～「安心・安全」なCBD製品を国内で利用していただくために～

Anresco Japan 株式会社 - 2023/1/31

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000003.000103320.html>

米国で食品及びカンナビス関連製品における検査・分析サービスを提供するAnresco Laboratoriesの日本支社、Anresco Japan 株式会社（本社：東京都中央区、代表：神津 大地）は、「国内における新たな合成カンナビノイド市場を取り巻く問題について」調査を行いましたので発表……

CBD（カンナビジオール）

抗不安、睡眠改善などの働きも？ 大麻草由来の成分 柳本 操＝ライター 2023.1.19

Beyond Health（日経BP総合研究所） - 2023/1/19

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

今回は特に見当たりませんでした。

■ 消費者意識等の調査・分析

新田ゼラチン、40歳以上に聞くプレフレイル実態調査、コロナ禍で高まる「フレイル予防」の重要性も認知度はわずか11.0%

マイライフニュース - 2023/2/1 <https://www.mylifenews.net/health-medical/8329/>

新田ゼラチンは、健康な状態と要介護状態の中間に位置し、身体的機能や認知機能の低下が見られる状態を指す「フレイル」について、その実態を明らかにするために、全国40歳以上の男女600人に「プレフレイル実態調査」を行った。適切な治療や予防を行うことで要介護状態に進むことを防ぐ可能性がある「フレイル」の実態を考察し、予防について考える。その結果、コロナ禍で高まる「フレイル予防」の重要性も認知度はわずか11.0%だった。アンケート調査では40歳以上の53.4%が「フレイル」または「プレフレイル」に該当-----

値上げで最もブランドスイッチが起こりやすいのは「ヨーグルト」 レシートデータ分析で判明！食品のPB商品への買い換えが加速

株式会社 mitoriz - 2023/2/6 <https://www.mitoriz.co.jp/pressrelease/20230206-3777/>

株式会社 mitoriz（本社：東京都港区、代表取締役社長：木名瀬博）は、国内最大級の消費者購買行動レポートデータサービス「Point of Buy®（以下、POB）」の会員3,018名に、mitorizが独自に選定した4カテゴリ(60品目)について「値上げ前・値上げ後のお買い物」に関するアンケートとレシートデータ分析を実施-----

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

老化T細胞が老化・炎症を引き起こす仕組みを解明

—加齢性疾患の新たな治療法の開発に期待—

理化学研究所 - 2023/1/26 https://www.riken.jp/press/2023/20230126_1/index.html

理化学研究所（理研）生命医科学研究センター 免疫シグナル研究チームの今西 貴之 上級研究員、齊藤 隆 チームリーダーらの国際共同研究グループは、T細胞[1]が老化するメカ

ニズム、および老化 T 細胞が引き金となって炎症性老化（インフラマエイジング）[2]を発症する機構を明らかに-----

細胞死を引き起こすサヨナラ遺伝子

ー存在しないと考えられていた遺伝子の発見ー

理化学研究所 - 2023/2/2 https://www.riken.jp/press/2023/20230202_1/index.html

理化学研究所（理研）生命機能科学研究センター ー動的恒常性研究チームのユ・サガン チームリーダー（理研 開拓研究本部 Yoo 生理遺伝学研究室 主任研究員）、池川 優子 大学院生リサーチ・アソシエイトらの国際共同研究グループは、過去 20 年以上にわたってショウジョウバエ[1]には存在しないと考えられていた細胞死[2]を引き起こす遺伝子[3]を発見し、「サヨナラ遺伝子」と命名しました。

本研究成果は、従来の定説を覆す発見であり、細胞死の制御機構の普遍性について新たな概念を提示するもの-----

後天的なストレスがエピゲノムを介して老化を制御する仕組みの解明ー老化におけるエピゲノム(アナログ情報)記憶と細胞のアイデンティティの消失ー

慶應義塾大学医学部 - 2023/1/20

<https://www.keio.ac.jp/ja/press-releases/2023/1/20/28-134797/>

慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室の早野元詞特任講師は、米国ハーバード大学医学大学院のデイビッド A シンクレア博士らとの共同研究にて、DNA 損傷によって誘導されるエピゲノムの変動が後天的に老化を制御する仕組みを明らかにしました。本研究では、60 名以上の研究者が参加する大規模な共同研究において、新しい老化のモデル動物である ICE (for Inducible Changes to the Epigenome) マウスを作成し、以下の点を報告-----

細胞老化を促進し、寿命を制限するメカニズムを解明

MONOist - 2023/2/6 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2302/06/news099.html>

東京大学は、出芽酵母を用いて rDNA の不安定化に関与している老化遺伝子を同定した。加齢に伴い転写伸長因子 Spt4 が増加し、リボソーム遺伝子上の非コード RNA の転写活性を増強することで、rDNA の不安定化と細胞老化を促進-----

日本人エピゲノム年齢推定法の開発と百寿者研究により、健康長寿に関与するゲノム上の特徴を発見

岩手医科大学いわて東北メディカル・メガバンク機構

慶應義塾大学医学部 - 2023/2/2

<https://www.keio.ac.jp/ja/press-releases/2023/2/2/28-134994/>

株式会社 KDDI 総合研究所

ヒトの持久運動パフォーマンス向上に貢献する腸内細菌を発見－慶大先端研ほか

QLifePro 医療ニュース - 2023/1/27

<http://www qlifepro.com/news/20230127/bacteroides-uniformis.html>

▼関連リンク

・慶應義塾大学先端生命科学研究所 ニュース&イベント

<https://www.iab.keio.ac.jp/news-events/2023/01261155.html>

個々の腸内細菌による運動パフォーマンスへの関与やメカニズムは不明だった

慶應義塾大学先端生命科学研究所は1月26日、ヒトの腸内細菌の1種「Bacteroides uniformis（バクテロイデス ユニフォルミス、以下 B. uniformis）」が持久運動パフォーマンスを向上させること、また、この腸内細菌が栄養源として利用しやすい環状オリゴ糖「 α -シクロデキストリン」を摂取することで、ヒトの持久運動パフォーマンスも向上できることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大先端生命科学研究所の福田真嗣特任教授（順天堂大学大学院医学研究科細菌叢再生学講座特任教授・神奈川県立産業技術総合研究所腸内環境デザイングループグループリーダー・JST ERATO 副研究総括を併任）と、アサヒクオリティードイノベーションズ株式会社の森田寛人研究員、狩野智恵研究員、青山学院大学の内山義英教授、原晋教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Science Advances」にオンライン掲載……

とろみ付き炭酸飲料の「炭酸」に、嚥下改善効果があると判明－東京医歯大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2023/2/3

<http://www qlifepro.com/news/20230203/deglutition-disorder.html>

▼関連リンク

・東京医科歯科大学 プレスリリース <https://www.tmd.ac.jp/press-release/20230201-2/>

とろみ付き炭酸飲料中の「炭酸」の効果は不明だった

東京医科歯科大学は2月1日、誤嚥防止に用いられているとろみ調整食品でとろみを付けた炭酸飲料中の炭酸に、嚥下改善効果があることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野の戸原玄教授、中川量晴

准教授、吉見佳那子特任助教、齋木章乃大学院生らの研究グループと、国立長寿医療研究センター 老年内科の前田圭介医長との共同研究によるもの。研究成果は、「Scientific Reports」に掲載-----

スマホ+AIで脳健康をチェック ドコモが試作アプリを公開

ITMedia - 2023/1/26 <https://www.itmedia.co.jp/mobile/articles/2301/26/news166.html>

NTT ドコモは、1月26日に「脳健康チェック AI」と、東北大学と共同で開発した「脳健康トレーニング AI」を発表した。社会課題となっている認知症や、口や脳の機能低下に伴う課題の解決を----

以下の2件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2023年1月25日～2月7日）から選定したものです。

卵の摂取による心血管疾患リスクへの影響は、飽和脂肪酸の摂取量によって異なる

<https://sndj-web.jp/news/002124.php> (2023/1/25)

卵の摂取量と心血管疾患（CVD）リスクとの関連は、飽和脂肪酸（SFA）の摂取量によって異なるのではないかとする研究結果が、ギリシャから報告された。SFAの摂取量が少ない人で、卵摂取量が多いこととCVDリスクの低さとの関連が顕著に認められる-----

寒さを利用した代謝改善には夕方より朝の運動が良い可能性 寒冷誘発性熱産生の日内変動の検討

<https://sndj-web.jp/news/002126.php> (2023/1/27)

寒冷誘発性熱産生の日内変動を検討した結果、男性と女性とで異なる変動を示したとするデータが報告された。男性は夕方よりも朝に、寒冷暴露によるエネルギー消費が大きくなるが女性ではそのような傾向が認められず、一方、脂質代謝への影響は女性で強く認められたという。著者らは、代謝改善のために運動をするなら朝の寒冷な環境下で行うほうが、より効果的と言えるのではないかと述べて-----

■ その他の食品関連科学・技術情報

東工大、ペプチドを利用し高感度なグラフェン匂いセンサの開発に成功

マイナビニュース - 2023/2/3 <https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230203-2582994/>

世界最軽量アルミ飲料缶の実現に向け缶底部の耐圧性向上技術を千歳工場に導入

MONOist - 2023/2/3 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2302/03/news032.html>

東洋製罐は2023年1月26日、独自の缶底耐圧強度向上技術「Compression Bottom Reform (CBR)」を用いたアルミ飲料缶の生産を同社の千歳工場（北海道千歳市）で開始したと発表した。同技術に関しては今回が国内初の製品化事例と-----

■ その他の科学・技術情報

植物油脂の合成には葉緑体と小胞体の酵素が協調して働く

ーバイオディーゼル生産技術への応用に期待ー

理化学研究所 - 2023/2/1 https://www.riken.jp/press/2023/20230201_1/index.html

理化学研究所（理研）環境資源科学研究センター 植物脂質研究チームの中村 友輝 チームリーダーらの研究チームは、植物の酵素 LPP α 2 と LPP ϵ 1[1]が協調して油脂[2]の合成と植物体の成長に重要な役割を果たすことを明らかにしました。

本研究成果は、代謝改変技術[3]によりバイオディーゼル[4]などの有用な化合物を植物体内で合成する技術開発に貢献すると期待-----

■ その他

食の持続可能性を目指して「消費マインド」を変える商社発ベンチャーが、東京・表参道で掲げる挑戦

日経 BP - 2023/1/31 https://project.nikkeibp.co.jp/mirakoto/atcl/mirai/h_vol109/

以上

健康食品等に関する

日本語記事情報（2023年2月号 No.2）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）と冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております（民間の情報源には了承を得た上で転載）。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 安全性関連情報

[BfR]二酸化硫黄と亜硫酸塩：EFSAの再評価により多量摂取で健康リスクが確認された；データ状況はまだ不完全

食品安全情報 blog2 - 2023/2/8

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/02/08/175329>

2月8日分の中ほどの見出しです。ドイツ連邦リスク評価研究所（BfR）情報。

[BfR]スペルトでもアレルギーを誘発する可能性がある-スペルトが小麦の一種であることは一般にあまり知られていない

食品安全情報 blog2 - 2023/2/10

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/02/10/151457>

2月10日分の最初の見出しです。ドイツ連邦リスク評価研究所（BfR）情報。

食品安全情報（化学物質）No. 4/ 2023（2023. 02. 15）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202304c.pdf>

今回気になった見出しは以下の通りです（前号や今号の他のセクションで取り上げたものも含まれています）。

【ECHA】（欧州化学品庁）

1. ECHA が PFAS 規制案を公表する

【FSS】（スコットランド食品基準庁）

1. カロリー超過に取り組むため製品を組成変更する企業を手助けする新たなパートナーシップについて

【BfR】（ドイツ連邦リスク評価研究所）

1. スペルトでもアレルギーを誘発する可能性がある-スペルトが小麦の一種であることは一般にあまり知られていない
2. 二酸化硫黄と亜硫酸塩：EFSA の再評価により多量摂取で健康リスクが確認されたデータ状況はまだ不完全

【FDA】（米食品医薬品局）

1. FDA は CBD とダイエタリーサプリメントに関連する 3 件の市民請願への回答を発表
3. FDA は高フラバノールココアパウダーのココアフラバノールと循環器疾患のリスク削減との限定的健康強調表示を発表

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

今回は特に見当たりませんでした。

■ 行政・法令関連情報（その他）

令和5年2月14日薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会新開発食品調査部会新開発食品評価調査会指定成分等含有食品等との関連が疑われる健康被害情報への対応ワーキンググループ（第4回）資料（非公開）

厚生労働省 - 2023/2/13 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_31067.html

食薬区分における成分本質（原材料）の取扱いの例示の一部改正について

厚生労働省 - 2023/2/17 <https://www.mhlw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/T230220I0040.pdf>

ビンポセチンを専ら医リストに追加。

「「フードテック推進ビジョン（案）」及び「ロードマップ（案）」についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/2/17

[https://public-comment.e-](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=550003602&Mode=1)

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=550003602&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=550003602&Mode=1)

募集時資料

フードテック推進ビジョン（案）：

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/PcmFileDownload?seqNo=0000244871>

ロードマップ案：

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/PcmFileDownload?seqNo=0000244872>

■ 海外公的機関情報

[FDA]FDA は高フラバノールココアパウダーのココアフラバノールと循環器疾患のリスク削減との限定的健康強調表示を発表

食品安全情報 blog2 - 2023/2/8

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/02/08/175329>

2月8日分の最初の見出しです。前号の英文記事情報でもご紹介しましたが、あらためて。

米環境保護庁、飲料水の有機フッ素化合物 PFAS 削減対応に 20 億ドルの拠出を発表（米国）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2023/2/14

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/02/c9afcf7958456fec.html>

遺伝子組み換えトウモロコシ使用を制限する政令を新たに公布（メキシコ、米国）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2023/2/16

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/02/5f161d5866ac6793.html>

遺伝子組み換え食品規制に係る説明会での新情報（タイ）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2023/2/14

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/02/732dab671837fd46.html>

医療用・商用大麻の栽培、販売を解禁（ラオス）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2023/2/9

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/02/ffc44dcb116f58b4.html>

[ヘルスカナダ]意見募集：カナダ飲料水中パー及びポリフッ素化アルキル化合物目標案

食品安全情報 blog2 - 2023/2/15

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/02/15/174419>

2月15日分の2番目の太見出しです。

以下の15件は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2023/2/8 確認) の中から、気になったものを選定しました。

見出しのクリックで内容をご覧ください。

前号 (2023/2/8 配信) の別セクションでご紹介したトピックスも含まれています。

4. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、カンナビジオールとダイエタリーサプリメントに関連する3件の市民請願に対する回答を公表](#)
6. [国際連合食糧農業機関\(FAO\)、第95回FAO/世界保健機関\(WHO\) 合同食品添加物専門家会議\(JECFA\)におけるスピルリナ抽出物についての化学・技術評価\(CTA\)を公表](#)
13. [ドイツ連邦消費者保護・食品安全庁\(BVL\)は、欧州連合\(EU\)で新たに食品として認可された昆虫について公表](#)
14. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、食品包装の前面表示に関する消費者調査の手続き通知を発行](#)
15. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、乳幼児用食品中の鉛の措置基準に関する業界向けガイダンス案を公表](#)
16. [ドイツ連邦食糧農業省\(BMEL\)は、代替肉及代替乳に関するQ&Aを公表](#)

- 20. [世界保健機関\(WHO\)、「2023年へのカウントダウン、トランス脂肪酸の撤廃に関するWHO報告書2022年」を公表](#)
- 22. [米国環境保護庁\(EPA\)、PFASの制限や栄養分に関する新しい研究を含む、廃水規則及び研究に関する計画を公表](#)
- 24. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、セレンに対する耐容上限摂取量\(UL\)に関する科学的意見書を公表](#)
- 31. [米国環境保護庁\(EPA\)、内分泌影響をスクリーニングするためのニューアプローチ方法論に関する意見公募を行うことにより、内分泌かく乱物質スクリーニング・プログラムを再構築することを公表](#)
- 35. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2023年1月18日~1月24日\)](#)
- 49. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2023年1月11日~1月17日\)](#)
- 50. [ドイツリスク評価研究所\(BfR\)、PFASの制限案をREACH規則に従って欧州化学庁\(ECHA\)に提出することを発表](#)
- 61. [オーストリア保健・食品安全局\(AGES\)、ノンアルコール及びアルコール飲料に含まれるメントフラン、プレゴン及びクアシンに関する最終報告書を公表](#)
- 64. [ドイツリスク評価研究所\(BfR\)は、スペルト小麦についてアレルギーを誘発する可能性があるが、小麦の種類としての国民の認識が低いとの意見書\(No.001/2023\)を公表](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

富士経済、調味料・調味食品の国内市場調査、2023年市場予測では米油が265億円、めん用たれ・ソース（市販用）が48億円に

マイライフニュース - 2023/2/7 <https://www.mylifeneews.net/drink-food/8865/>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、コロナ禍の内食化と健康志向の高まりに伴って、健康機能訴求や汎用性の高い商品などが伸びている調味料と、レトルトカレーやどんぶりの素などが好調の調味食品の、計2カテゴリー75品目の調査結果を「2023年 食品マーケティング便覧 No.5」にまとめた。トピックスとして、2023年市場予測（2022年見込比）では、健康志向の高まりを背景に市場が拡大し、特に市販用の伸びが大きい米油が265億円（7.3%増）を見込む。めんつゆや白だしなどに対して、食べ応えのある具入り商品で差別化を図るめん用たれ・ソース（市販用）が48億円（4.3%増）に達する見通し……

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

“栄養価値・機能性”で訴求力強化 広がる用途提案 (特集：スーパーフード最前線)

健康メディア.com - 2023/2/13 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17206

スーパーフードは1980年代、北米の医師や専門家らが食事療法として取り上げたことが起源。海外の人気モデルや女優がSNS等で発信したことで世界的に広がった。日本市場では、スピルリナやキヌア、チアシード、モリンガ、アムラ、カラハリスイカ、マキベリー、バタフライピー、じゃばら、オートミール、ココナッツ、アサイーなど、多種多様な素材が流通。一般加工食品や飲料、サプリ、化粧品まで、幅広いジャンルで採用されている。「栄養価が高く、健康に有効な食品」「特定の栄養・有効成分を突出して多く含む食品」として国内市場を形成したスーパーフードはその後、抗酸化、疲労感軽減、アイケア、抗アレルギー、血流改善、保湿などのエビデンスを構築、機能性表示受理につながった素材も……

エビデンスベースの関節対応素材に注目 (特集：注目の関節対応素材)

健康メディア.com - 2023/2/13

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17199

「関節」領域の「機能性表示食品」の受理数が300品を超えた(2023年1月現在)。グルコサミンを筆頭に、非変性Ⅱ型コラーゲン、プロテオグリカンが猛追、新たなヘルスクレームや関与成分も登場している。市場では、「抗ロコモティブシンドローム」「スポーツ・アスリート対応」に加えて、「巣ごもりによる骨・関節の衰え対策」をテーマに、引き続き、関節対応サプリメントの開発が活発……

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

カゴメと NEC が世界の農業に革新を起こす！ ～互いの強みを活かした異業種協業で生み出す新たな価値～

business leaders square wisdom - 2023/2/14

<https://wisdom.nec.com/ja/feature/sdgs/2023022401/index.html?cid=wisdom202303article-jhnfa-58>

気候変動、人手不足、環境配慮といった数々の課題を乗り越えながら、いかに栽培効率を高め、農作物を安定的に収穫・供給するか——。この難題に向けて、大手食品メーカーのカゴメと NEC は2015年から共創を開始。試行錯誤を繰り返しながら、ようやく「サステナブル」と「高収益性」の手応えをつかんだ。そして2022年、AIを活用して加工用トマトの

営農支援を行う合弁会社をポルトガルに設立。両社の事業は新たなフェーズを迎えている。事業化に至るまでの7年間でどのような壁に阻まれ、その壁をどう乗り越えてきたのか。さらに今後はどのようなビジョンを描いているのか。プロジェクトを推進してきた両社のリーダーに話を聞き-----

資生堂、プラスチック製容器の新循環モデル「BeauRing」の実証試験を開始 ポーラ・オルビスホールディングスとともに、4月から横浜市でスタート

株式会社資生堂 - 2023/2/10

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003558>

株式会社資生堂（以下、資生堂）は、プラスチック製容器を収集し、プラスチック製容器へ再生する循環型プロジェクト「BeauRing（ビューリング）」を立ち上げます。プロジェクトの実現に向けた試験的な取り組みとして、2023年4月から、資生堂の全ブランド容器のうち使用済みプラスチック製化粧品容器を対象とした一部の店頭での収集を開始します。また、今回得られるお客さまからの収集量などの試験結果をもとに、地域、店舗チャネルの拡大を検証-----

■ 消費者意識等の調査・分析

今回は特に見当たりませんでした。

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

軽度認知障害の新規スクリーニング法を開発、5分程度で測定可能ー筑波大

QLifePro 医療ニュース - 2023/2/8 <http://www.qlifepro.com/news/20230208/mci-2.html>

▼関連リンク

・筑波大学 TSUKUBA JORNAL

<https://www.tsukuba.ac.jp/journal/medicine-health/20230207141500.html>

認知症やMCI患者の多くに伴う歩行異常やバランス障害に着目

筑波大学は2月7日、バランス能力を測定する新しい指標「VPS（姿勢安定性視覚依存度指標）」を開発し、これを用いることで「軽度認知障害（MCI）」の高感度なスクリーニングが可能となることを臨床研究により実証したと発表した。この研究は、同大医学医療系ニュートリゲノミクスリサーチグループの矢作直也准教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「BMC Geriatrics」に掲載され-----

慢性腎臓病、「変化した循環 EV」が血管石灰化を引き起こすことを発見—東京医歯大

QLifePro 医療ニュース - 2023/2/14

<http://www qlifepro.com/news/20230214/ckd-ev.html>

▼関連リンク

・東京医科歯科大学 プレスリリース

<https://www.tmd.ac.jp/press-release/20230213-1/>

CKD-MBD 治療薬や透析など、いずれの治療でも血管石灰化は完治できない

東京医科歯科大学は2月13日、血液中を循環する細胞外小胞（small extracellular vesicles、EV）を介した慢性腎臓病（chronic kidney disease、CKD）による血管石灰化の新たな分子病態を解明し、治療戦略を創出したと発表した。この研究は、同大学院医歯学総合研究科 腎臓内科学分野の萬代新太郎助教（同大学病院血液浄化療法部）、内田信一教授、小出高彰大学院生らの研究グループによるもの。研究成果は、「Circulation Research」オンライン版に掲載-----

ビタミンDサプリメントと糖尿病リスク削減を調べた研究への専門家の反応

食品安全情報 blog2 - 2023/2/8

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/02/08/175329>

2月8日分の最後の方の見出しです。同日配信の英文記事情報で紹介している研究について、批判的なコメントが紹介されています。

脂肪細胞の中性脂肪を減らす植物由来混合エキスを発見 脂肪を熱に変換する機能を持つUCP1を増やすことで脂肪分解を亢進

株式会社ポーラ - 2023/2/20

<https://www.pola.co.jp/company/news/po20230220/index.html>

株式会社ポーラ（本社：東京都品川区、代表取締役社長：及川美紀）は、脂肪細胞の中性脂肪を減らす植物由来混合エキス（ラビットアイブルーベリー（葉・茎エキス）・ダイダイエキス・緑茶エキスの組み合わせ）を発見しました。脂肪を熱に変換する機能を持つUCP1※のタンパク質量が増加していることにより、脂肪の分解が亢進されていることが示唆されました。この知見は、ポーラから発売される製品に応用-----

【プレスリリース】『“高カカオチョコを「食後に」食べるだけ”で 高血糖対策、高カカオチョコレートの血糖値の抑制効果 ～ ヒト試験で 明らかに～』プレスリリースを配信しました。

一般社団法人 大人のダイエット研究所 - 2023/1/20

<https://otona-diet.jp/release/6008.html>

忙しい大人のための食の推進活動を行う一般社団法人 大人のダイエット研究所（事務所：東京都渋谷区 代表：岸村康代 以下、当研究所）では、ストレスなく手軽に始められる生活習慣改善や、身近な食材を活用した健康アドバイス、栄養バランスの良いランチボックス監修などをしてきました。この度、糖尿病予防の一つとして定着しつつあるベジタブルファースト※ などの“食べる順番の工夫”による食後高血糖の抑制に着目し、高カカオチョコレート、食前ではなく「食後」に摂取した場合でも、血糖値上昇抑制効果が得られることが明らかに-----

ここまで進んだ「老化制御サイエンス」

加齢でシミやしわが増える本当のワケ

熊本大学国際先端医学研究機構特任准教授の佐田亜衣子氏に聞く

取材・文／福島 安紀＝医療ライター 2023.2.17

Beyond Health（日経 BP 総合研究所） - 2023/2/17

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/feature/00043/021000020/>

抹茶がうつ症状を軽減させる！ 熊本大がマウス実験で効果を確認

マイナビニュース - 2023/2/6 <https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230206-2584638/>

*以下の5件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」
掲載記事（2023年2月8日～21日）から選定したものです。*

唐辛子の成分カプサイシンは筋持久力を高めるが、有酸素持久力への効果は不確か

<https://sndj-web.jp/news/002145.php> (2023/2/8)

唐辛子の辛味成分であるカプサイシンと、辛くない唐辛子の成分であるカプシエートの持久力パフォーマンスへの影響に関するメタ解析の結果が報告された。筋肉の持久力に対しては有意な影響が認められたが、有酸素運動持久力に対しての影響は曖昧との-----

18～19歳で超加工食品の摂取が多いと握力が弱く、未加工食品の摂取量が多いと強い

<https://sndj-web.jp/news/002146.php> (2023/2/9)

食生活と握力との間に有意な関連のあることが報告された。18歳～19歳を対象とする研究で、未加工食品の摂取量が多い群は握力が強く、超加工食品の摂取量が多い群は握力が弱いことが示されたという。ブラジル発の研究……

スポーツイベント会場で売っている加糖飲料のサイズに上限を設けると、観客の消費行動に有意な影響

<https://sndj-web.jp/news/002150.php> (2023/2/14)

スポーツイベント会場の中で販売する加糖飲料のサイズに上限を設けることで、観客の加糖飲料の摂取量が有意に減るという研究結果を紹介する。米国で行われた、バスケットボールの大会を対象とした調査の……

亜鉛の摂取量が多い人はテロメアが長い 女性、摂取エネルギー量の少ない人、肥満者で有意な関係

<https://sndj-web.jp/news/002155.php> (2023/2/16)

食品からの亜鉛の摂取量が多い人はテロメアが長いとする論文が、米国国民健康栄養調査データを横断的に解析した結果として報告された。この関係は、女性、肥満者、摂取エネルギー量の少ない人で認められたと……

食事を抜くと寿命が縮まる! 米国国民健康栄養調査の縦断解析 1日1食では心血管死が83%UP

<https://sndj-web.jp/news/002156.php> (2023/2/18)

米国国民健康栄養調査の参加者を追跡するという縦断研究の結果、食事を抜く習慣のある人は死亡リスクが高いことが明らかになった。朝食を抜く人は心血管死リスクが40%高く、昼食を抜く人や夕食を抜く人は全死亡リスクが12～16%高いという。また、1日3食食べている人では、隣接する2回の食事の間隔が4.5時間以下の場合に、全死亡リスクが17%高いことなどもわかった。米国の栄養と食事のアカデミー（旧：米国栄養士会）発行の「Journal of the Academy of Nutrition and Dietetics」に論文が掲載……

■ その他の食品関連科学・技術情報

ポッカサッポロフード&ビバレッジ、原豆乳製造の技術継承で熟達者の知見をAI化

IoT News - 2023/2/15 <https://iotnews.jp/manufacturing/217351/>

サッポロホールディングス（HD）グループのポッカサッポロフード&ビバレッジは2月15日、群馬工場の豆乳ヨーグルトのために搾った豆乳「原豆乳」の製造で、熟達者の知見をAI化した技術継承の取り組みを開始したと発表-----

サプリ錠剤の高機能化を実現する独自技術に注目（特集：錠剤化技術・添加剤）

健康メディア.com - 2023/2/16

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17227

錠剤化技術が進化している。サプリメントの錠剤は、医薬品錠剤と同様、外観の欠け、割れの防止とともに、体内での成分溶出という「硬さ」と「脆さ」の相反を両立させる必要がある。中でも医薬品錠剤で必須となる錠剤の崩壊性および溶出制御は、サプリメント錠剤においても要求される。「高成形性」「徐放性」「溶出制御」など高機能化を実現するためには、原料の物性に応じた錠剤化技術が不可欠-----

■ その他の科学・技術情報

複数の物質を感度よく迅速に検出できる「スーパーセンサー」開発 インド

アジア・太平洋科学技術ニュース - 2023/2/10

https://spap.jst.go.jp/india/news/230202/topic_ni_04.html

インド工科大学マドラス校(IIT-M)は1月17日、応用力学部のジェイ・クズハンダイ・シャムリー(J. Kuzhandai Shamlee)氏の研究チームが複数の物質を感度よく迅速に検出できるマルチモードタイプのUベント光ファイバーセンサー(U-FOS)を開発したと発表した。U-FOSは幾何補正の手法を用いて、性能の改良が行われた。研究成果は学術誌 Biosensors and Bioelectronics:X に掲載-----

■ その他

世界アンチ・ドーピング機構（WADA）が2023年の禁止物質・禁止方法リストを発効

<https://sndj-web.jp/news/002157.php> (2023/2/20)

世界アンチ・ドーピング機構（World Anti-Doping Agency ; WADA）は、2023 年禁止物質および禁止方法のリストが 1 月 1 日に発効したことを広報し、周知徹底を求めている。2023 年のリストは、2022 年 9 月 23 日に WADA 執行委員会によって承認され、同年 9 月 29 日に公開され-----

2023 年 2 月 15 日付けの食品安全情報 blog2 「その他」 セクションから 2 件のコンテンツをご紹介します

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/02/15/174419>

いずれも最近の超加工食品パッシングに批判的なコンテンツです。2 月 15 日分の中盤以降にあります。

- 科学者が私の健康的な食事をチェックしたら隠されたジャンクフードだらけだったーどうやってみつけるか教える
- 「フードコンパス」は健康的食品ランキングの針路を外している

日本テクト・アインホールディングス・NTT Com、薬局で認知機能のチェック・相談を行う実証実験を開始

IoT News - 2023/2/10 <https://iotnews.jp/medical-healthcare/216765/>

日本テクトシステムズ株式会社（以下、日本テクト）、株式会社アインホールディングス、NTT コミュニケーションズ株式会社（以下、NTT Com）は、脳の健康への意識を高めることを目的とし、薬局で認知機能を手軽にチェックするとともに、認知機能に関する不安を相談できる環境を提供する実証実験を開始-----

以上

健康食品等に関する

日本語記事情報（2023 年 3 月号 No.1）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 注目記事

朝食・昼食・夕食+間食の栄養学的な評価が可能な簡易ツールを開発 東京大学

スポーツ栄養 WEB - 2023/2/24 <https://sndj-web.jp/news/002161.php>

東京大学大学院医学系研究科の研究グループは、日本人成人から収集した詳細な食事調査データと食行動に関する既存の科学的知見をもとに、朝食・昼食・夕食・間食の栄養学的質を評価することを目的とした簡易食習慣評価ツールを開発した。研究の詳細が、英国栄養学会発行の「The British journal of nutrition」に論文掲載されるとともに、同大学のサイトにプレスリリースとして掲載-----

■ 安全性関連情報

英国毒性委員会(COT)、「緑茶カテキン類による肝障害に関する第2次 声明案」を公表

食品安全委員-食品安全総合情報システム - 2023/2/28（資料日付 2023/2/2）

<https://www.fsc.go.jp/fsciis/foodSafetyMaterial/show/syu06000540535>

「緑茶カテキン類による肝障害に関する第2次声明案」における COT の結論（抜粋）-----。最近のエビデンスからは、観察されている肝毒性は摂取者の特異的体質反応の結果である可能性が示唆されている。-----。総括して、800 mg/日の EGCG は安全であると推

測されるという EFSA の結論が、もはや適切ではないことを示唆する新たなデータはない。800 mg/日未満の用量において、EGCG が原因となる何らかの効果を特定した研究は確認されないが、高感受性集団が依然として有害影響を受ける可能性を排除することはできない。現在、緑茶又は EGCG に対して無毒性量(NOAEL)あるいは健康影響に基づく指標値(HBGV)を設定できないため、より多くの情報に基づきガイダンスを策定するためには、さらなるデータが必要となる。

[FDA]CFR Title 21 Sec. 73.575 二酸化チタン

食品安全情報 blog2 - 2023/3/1

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/03/01/172703>

3月1日分の中ほどの太見出しです。

二酸化チタン製造業者協会によると、「入手可能な安全性試験では、二酸化チタンを着色添加物として使用することについて安全上の懸念は示されていない。FDAからは、二酸化チタンを着色添加物として規格と使用条件に従って食品に安全に使用することを引き続き許可する。」との回答があったとのこと。米FDAは、安全性に懸念を示す欧州食品安全機関(EFSA)とは異なるスタンスのようです。

-Cleveland クリニックの研究がよくある人工甘味料が心臓発作と脳卒中の 高い率に関連することを発見

食品安全情報 blog2 - 2023/2/28

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/02/28/181359>

**2月28日分の下の方の見出しです（太見出し「論文」の中で紹介）。
血中エリスリトール濃度の高さと心臓発作や脳卒中などのリスクとの関連。**

-人工甘味料（エリスリトール）と心血管系疾患を調べた研究への専門家の反応

食品安全情報 blog2 - 2023/3/2

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/03/02/173837>

**3月2日分の下の方の見出しです（太見出し「論文」の中で紹介）。
上のエリスリトールの論文に対する専門家の意見が紹介されています。評価が分かれています。**

-また心配事がー今回はエリスリトール

食品安全情報 blog2 - 2023/3/6

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/03/06/173440>

3月6日分の中ほどから少し下の方の見出しです（太見出し「その他」の2番目）。

食品安全委員会 有機フッ素化合物（PFAS）ワーキンググループ（第1回）の開催について

食品安全委員会 - 2023/2/21

https://www.fsc.go.jp/senmon/sonota/annai/wg_pfas_annai_1.html

2月27日に非公開で開催済みですが一応ご紹介いたします。メディア報道によると、自ら評価に関するワーキンググループとのこと。

会議資料 <https://www.fsc.go.jp/fsciis/meetingMaterial/show/kai20230227so1>

食品安全情報（化学物質）No. 5/ 2023（2023. 03. 01）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202305c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

インターネットにおける健康食品等の虚偽・誇大表示に 対する改善指導について（令和4年 10月～12月）

消費者庁 - 2023/2/27

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/extravagant_advertisement/assets/representation_cms213_230227_01.pdf

消費者庁では、令和4年10月から12月までの期間、インターネットにおける健康食品等の虚偽・誇大表示の監視を実施しました。

この結果、インターネットにおいて健康食品等を販売している230事業者による231商品の表示について、健康増進法第65条第1項の規定に違反するおそれのある文言等があったことから、これらの事業者に対し、表示の改善指導を行うとともに、当該事業者がショッピングモールに出店している場合には、出店するショッピングモール運営事業者に対しても、表示の適正化について協力を依頼しました。

消費者庁では、引き続き、健康食品等の広告その他の表示に対する継続的な監視を実施し、法に基づく適切な措置を講じて-----

景品表示法に基づく法的措置件数の推移及び措置事件の概要の公表(令和5年1月31日現在)

消費者庁 - 2023/3/1 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/024740/>

■ 行政・法令関連情報（その他）

会議資料詳細 第3回 報道関係者との意見交換会

会議開催日 2023年3月1日

<https://www.fsc.go.jp/fsciis/meetingMaterial/show/kai20230301k1>

第104回コーデックス連絡協議会(開催案内)

厚生労働省 - 2023/2/22 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_31217.html

厚生労働省、消費者庁及び農林水産省は、令和5年3月16日（木）に、コーデックス委員会における活動状況の報告と検討議題に関する意見交換を行うため、「第104回コーデックス連絡協議会」を開催します。なお、今回は、ウェブ上での傍聴を受け付け-----

■ 海外公的機関情報

[FDA]FDAは植物ベースの牛乳代替品に関するラベル表示のガイダンス案を発表

食品安全情報 blog2 - 2023/3/1

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/03/01/172703>

3月1日分の中ほどの太見出しです。

以下の13件は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2023/2/28 確認) の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)

2. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、16 週齢未満の乳児用食品中の食品添加物としてのローカストビーンガムの再評価、及び全人口集団用の食品中の食品添加物としての当該物質の再評価の追跡調査に関する科学的意見書を公表](#)
6. [台湾衛生福利部、「ユーカリノキ及びそのエキスの使用制限」の制定について公表](#)
8. [ドイツリスク評価研究所\(BfR\)、甘味料に関する意見書 \(No.007/2023\)を公表](#)
9. [欧州化学品庁\(ECHA\)、PFAS 規制案\(附属書 XV\)を公表](#)
10. [オランダ国立公衆衛生環境研究所\(RIVM\)、オランダ、ドイツ、デンマーク、ノルウェー、スウェーデンによる PFAS の制限提案の詳細が発表された旨を公表](#)
19. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、高フラバノール・ココアパウダー中のココア・フラバノールと心血管疾患のリスク低下に関する限定的健康強調表示について公表](#)
21. [カナダ保健省\(Health Canada\)、エリストリールを非加熱喫食用\(RTE\)朝食用シリアル及びそのコーティング剤への使用拡大のために許可された甘味料リストの変更を通知](#)
26. [英国毒性委員会\(COT\)、「緑茶カテキン類による肝障害に関する第 2 次声明案」を公表
「安全性関連情報」の中で取り上げています。](#)
27. [ドイツ連邦食糧農業省\(BMEL\)、食品に含まれる昆虫に関する Q&A を公表](#)
30. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品接触材料に使用されるワックス\(パラフィン系、精製済み、石油系または合成炭化水素原料由来、低粘度\)の安全性評価を公表](#)
46. [米国環境保護庁\(EPA\)、安全でない PFAS が再び商取引されることを禁止するために重要な一歩を踏み出すと公表](#)
49. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する欧州議会の決議を官報で公表\(情報収集対象期間:2023 年 1 月 25 日~2023 年 1 月 31 日\)](#)
50. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2023 年 1 月 25 日~2 月 7 日\)](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

[「NNB10 キートレンド」はこうやって読み解く！](#)

[日本人が知っておきたい食品健康ビジネス最先端【前編】](#)

ウェルネス総研オンラインレポート - 2023/3/3 <https://wellnesslab-report.jp/2655/>

健康食品に寄せる消費者の心理やニーズは様々な社会情勢の影響を受ける一方で、そのトレンド変化は緩やかではあるものの確固たる理由が存在します。世界中で堆積されてきた失

敗事例や科学的根拠を基に進化してきたトレンド、その背景にある社会情勢を把握するのはとても骨の折れる作業です。

これらを制する羅針盤となるようなトレンドレポート「NNB10 キートrend 2023」（発刊 NNB、New Nutrition Business）を日本向けに紹介している株式会社グローバルニュートリショングループ 代表取締役 武田 猛氏に、これをどのように読み解き、自社のマーケティング戦略に活かしていけばよいか国内外での相違も含めてうかがいました。前編では、NNB の特徴や活用方法、また5つのメガトレンドについて解説いただき-----

【後編】 (2023/3/7) <https://wellnesslab-report.jp/2687/>

東京商工リサーチ、主要食品メーカー200社の「価格改定・値上げ」調査、食品の価格改定は1万5000品目超に

マイライフニュース - 2023/2/28 <https://www.mylifenews.net/drink-food/10704/>

東京商工リサーチ（TSR）は国内の主要食品メーカー200社を対象に、2023年1月以降の出荷・納品分で価格改定を公表した商品について調査した。その結果、食品の価格改定は、1万5000品目超になった。6社が「たまご不足」を理由に挙げて-----

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

「食品メーカーの商品開発が加速、ラインアップの多様化が進むプラントベースフード

ダイヤモンド・チェーンストア・オンライン - 2023/2/23

<https://diamond-rm.net/technology/foodtech/348693/>

プラントベースフードといえば「大豆ミート」、そう答える人は少なくない。しかし、今や、「動物由来の原材料を配合せず、植物由来の原材料を使用した、味の評価の高い食品」は大豆ミートだけではない。メーカー各社の開発力により、新しいジャンルの食品として広がりを見せて-----

“味のプロ”が供給する機能性素材（Zoom Up：香料サプライヤーの健食戦略）

健康メディア.com - 2023/2/23

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17242

食品香料は、飲料や菓子、飴、デザートなど幅広く活用される。同じカテゴリーのアイテムでも、配合した“香り”や“味”が売り上げを大きく左右する。機能性や体感性が求められる健康食品では、無理なく続けられる「美味しさ」も重要なポイントだ。一般加工食品では、「減塩」「減糖」「ゼロカロリー」といった健康志向に応える機能性香料も流通。食品向け 3000 種ともいわれる調香ノウハウを背景に、「吸入だけでも食品と同様の機能性」を確認した機能性素材なども登場-----

生命の根源物質“ミトコンドリア”を活性化（Zoom Up：5-ALA）

健康メディア.com - 2023/2/23

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17236

5-アミノレブリン酸リン酸塩（5-ALA）は、疲労感軽減や運動効率改善、睡眠の質向上などのエビデンスを訴求ポイントに、多種多様な商品開発が進んでいる。昨年は5-ALA初の機能性表示食品ドリンクが上市されたほか、インフォームドチョイス認証取得原料も登場した。サプライヤー各社では5-ALAの“コロナ不活化データ”に依存することなく、生命の根源物質であるミトコンドリアの活性化による様々な機能性を-----

「栄養成分」＋「味・香り」で採用広がる（Zoom Up：ゴマ由来素材）

健康メディア.com - 2023/2/23

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17233

ゴマ由来素材の引き合いが増えている。ゴマ本来の香り・味の良さに加え、セサミンに代表されるゴマリグナンなど栄養成分の認知も浸透し、コロナ禍の健康志向を追い風に多岐にわたる製品で採用が広がっている。主要サプライヤーでは、リグナンリッチな原料の引き合いが伸長。サプリメントでは、“黒胡麻”“醗酵”が売れ筋で、高麗人参やにんにく、オメガ3などとのプレミックスサプリも人気がある。機能性表示食品の登場など新展開も-----

飽和感否めず、未利用ユーザー開拓がカギに（特集：青汁）

健康メディア.com - 2023/2/26 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17273

2022年通期の青汁製品市場（グリーンスムージー／グリーンフード含む）は、前年比約0.2%増の推計1,078億円（小売ベース）一。辛うじて3年連続で市場は回復したものの、成長率は大幅に鈍化、市場の飽和感が否めない状況にある。有機製品や機能性表示食品、無糖飲料タイプなど、売上を伸ばした製品も見られたが、現状のコアユーザー中心の市場には限界が見られる。こうした中、大手企業を中心にZ世代など若年層を含む未利用ユーザーの開拓に着手する動きが加速。春先には大手企業による大々的なPR活動の計画も-----

“全世代”で需要増 キーワードは「ディスプレイ疲労」や「アイフレイル」（特集：注目のアイケア素材）

健康メディア.com - 2023/2/28 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17286

オンライン化が急速に進むと共に、画面を注視する「スクリーンタイム」がますます長時間化。「スマホ老眼」が問題化し、スマホ利用時間を削減する「タイパ」の追求もトレンドとなっている。視力低下は身体機能や認知機能にも悪影響を与えることから、「アイフレイル」として予防する必要があると言われ、啓発が進む。小中学校の学習教材にもタブレットが普及し、保護者による子どものアイケアへの関心も高まる。アイケアサブリは従来の中高年に加え、若年層、ジュニア層へと需要が広がり一般食品の開発も活発化。今後の市場拡大が予想……

コロナ禍で善戦、495 億円で回復基調（特集：酵素・酵母食品）

健康メディア.com - 2023/3/1 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17290

昨年の酵素・母食品市場は 495 億円で、コロナ禍で善戦した。通販チャネルは堅調に推移したほか、店舗チャネルや、サロンルートも足取りが緩やかながらも回復の兆しがみられる。With コロナ生活で、健康維持・体質改善を目的とした「断食（ファスティング）」への関心が高まり、関連商材が再注目されている。“腸活” “免疫維持” “オートファジーダイエット”などが話題となる中、新たなユーザー獲得にも繋がっている。最近では、フェムケア商材としても注目に。また、原料・販売メーカーによるエビデンスデータの蓄積が進んでおり、ブームやインバウンド特需に依存しない市場形成が始まって……

機能性表示食品が続々（Zoom Up：糖管理サポート素材）

健康メディア.com - 2023/3/2 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17293

一度発症すると完治が難しいと言われる糖尿病。初期には自覚症状がほとんどなく、気づいた時には進行しているため、「サイレントキラー」の一つだと言われる。厚労省の調査では、国内の有病者は約 1,000 万人。「糖尿病が強く疑われる人」を含めると約 2,000 万人に上る。糖尿病は若年層や女性にも広がり、世代を問わず問題となっている。糖尿病は未病段階の期間が長いいため、早期発見とともに運動や食事、日常での糖管理が大切と言われ、サプリメントのニーズは高まり続けて……

「多彩な健康機能」「機能性表示」「SDGs」（特集：オリーブ）

健康メディア.com - 2023/3/2 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17297

オリーブ関連商品は、抜群の認知を誇り、食用オイル、健康食品、化粧品など様々な分野で利用されている。オイルは、家庭用食用油の 1/4 を占める 400 億円市場に成長。食生活において身近な存在に。健食業界では、果肉や葉に含まれる有用成分の健康機能の解明が進み、近年は機能性表示食品も続々登場。通販、店販で「LDL の酸化を抑制する」「加齢によって衰える筋肉量を維持する」といったサプリメントを目にする機会が増えている。また、「幹細胞」「美容」「男性機能」「肝機能」などにおけるエビデンスデータをもとに、原料サプライヤーの用途提案も進む。さらに、未利用資源の有効活用、残渣を利用した機能性素材の開発などが SDGs の観点から注目され-----

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

生薬の AI 自動選別でツムラとロビットが資本業務提携、非破壊での成分解析装置も

MONOist - 2023/2/22 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2302/22/news056.html>

医薬品メーカーであるツムラと AI を活用した製造現場ソリューションを展開するロビットは、漢方製剤の原料生薬の選別／製造工程自動化の早期実現のため、資本業務提携を行ったと発表-----

「国内食品製造事業者の持続可能な原材料調達の優良企業」においてキリンホールディングスが「官房長賞」を受賞

キリンホールディングス株式会社 - 2023/3/6

https://www.kirinholdings.com/jp/newsroom/release/2023/0306_01.html

キリンホールディングス株式会社（社長 磯崎功典）は、「国内食品製造事業者の持続可能な原材料調達の優良企業」において、持続可能な原材料調達に関する取り組みが優れている企業として、3月3日（金）に「官房長賞」を受賞し表彰されました。この表彰は、国内食品製造事業者の持続可能性に配慮した原材料調達の取り組みを広く社会へ周知することを目的として、農林水産省の委託事業-----

■ 消費者意識等の調査・分析

値上がりに関する意識調査、2022年に商品やサービスの「値上がりを感じた」人は8割超に、最も値上がりを実感したのは「食品・食材」

マイライフニュース - 2023/2/28 <https://www.mylifenews.net/study-work/10806/>

生活者をターゲットにした新商品や新サービスの“わたしの知りたい”が見つかる情報メディア「マイライフニュース」を運営するヒューマン・データ・ラボラトリーは、原材料・エネルギー価格の高騰や急激な円安等による商品やサービスの値上がりについて、生活者の意識を探るため、全国の男女 523 名を対象にアンケート調査を行った（2022 年 12 月 12 日～19 日）----

ホットペッパーグルメ外食総研、物価高で高まる節約志向の実態と外食での節約行動を調査、物価高で節約志向が高まった人は 49.4%

マイライフニュース - 2023/3/1 <https://www.mylifenews.net/drink-food/10914/>

リクルートの外食市場に関する調査・研究機関「ホットペッパーグルメ外食総研」は、物価高で高まる節約志向の実態と外食での節約行動について消費者アンケートを実施した。その結果、最近の物価高で節約志向が高まった人は 49.4%となった。外食での節約方法 TOP3 は、「クーポン」「スマホやカード支払いでポイント取得」「インターネット予約でポイント取得」-----

2 人に 1 人が週 1 日以上ペースで 1 日 3 食、誰とも食事をしない！でも「孤食＝寂しい」とは限らない!? “あえて 1 人が良い” 孤食派が 3 割

株式会社 mitoriz（旧ソフトブレン・フィールド）調べ - 2023/3/1

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000009.000106780.html>

株式会社 mitoriz（本社：東京都港区、代表取締役社長：木名瀬博）は、消費者購買行動レポートデータサービス「Point of Buy®（以下、POB）」の会員 2006 名に「食事に関するアンケートによる孤食の調査」を実施-----

[29509] 筋肉・筋力に関するアンケート調査

マイボイスコム - 2023/2/27

https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=29509

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

不安行動軽減に関与する特定の腸内細菌を動物モデルの実験で発見—三重大

QLifePro 医療ニュース - 2023/2/22

<http://www qlifepro.com/news/20230222/p-sabiae.html>

▼関連リンク

- ・三重大リサーチナビ プレスリリース

<https://www.mie-u.ac.jp/R-navi/release/cat713/post-66.html>

P. sabiae を投与した水槽で 1 か月間ゼブラフィッシュを飼育し、行動や腸内細菌叢を解析
三重大学は 2 月 16 日、腸内細菌「Paraburkholderia (P. sabiae)」を投与した水槽でゼブラフィッシュを飼育することで、その後の不安行動が軽減されること、また、同現象に腸内細菌叢やその機能の変化が関わることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大教育学部理科教育講座の市川俊輔准教授、同大学院地域イノベーション学研究科の臧黎清特任講師、同医学系研究科の島田康人講師（兼 次世代創薬ゼブラフィッシュスクリーニングセンター代表）らの研究グループによるもの。研究成果は、「Frontiers in Microbiology」に掲載され-----

野菜・果物摂取頻度が少ないほど死亡リスク増大、保存期 CKD でも示唆 - 新潟大

QLifePro 医療ニュース - 2023/2/22

<http://www qlifepro.com/news/20230222/ckd-5.html>

▼関連リンク

- ・新潟大学 プレスリリース <https://www.niigata-u.ac.jp/news/2023/347955/>

保存期 CKD など野菜・果物摂取を控える指導は妥当？

新潟大学は 2 月 21 日、CKD のない人・保存期慢性腎臓病（CKD）・血液透析患者で、野菜や果物の摂取頻度と死亡リスクとの関連が異なるのかについて、コホート研究で調べた結果を発表した。

この研究は、同大大学院医歯学総合研究科臓器連関学講座の若杉三奈子特任准教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Journal of Renal Nutrition」に掲載され-----

脂肪性肝炎の悪化や線維化の進行に「腸内細菌叢の変化」が関与 - 富山県立大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2023/2/27

<http://www qlifepro.com/news/20230227/metabolic-2.html>

▼関連リンク

- ・富山県立大学 プレスリリース

https://www.pu-toyama.ac.jp/news/news_outline/2023/02/21/15925/

脂肪性肝炎の発症や肝臓の線維化進行における腸内細菌叢の関与をモデルマウスで解析

富山県立大学は2月21日、腸内細菌叢の変化が、メタボリックシンドロームの肝病変である脂肪性肝炎の発症や線維化の進行に関わることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大工学部医薬品工学科の長井良憲教授、葛西海智氏（大学院博士前期課程）、古澤之裕准教授、河西文武講師、徳島大学大学院医歯薬学研究部の常山幸一教授、清水真祐子講師、富山県薬事総合研究開発センターの柳橋努主任研究員、高津聖志所長らの研究グループによるもの。研究成果は、「International Journal of Molecular Sciences」にオンライン掲載され-----

変形性膝関節症、少ない負荷で筋同時収縮を評価できる新手法を確立— 埼玉県立大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2023/3/2

<http://www.qlifepro.com/news/20230302/knee-oa.html>

▼関連リンク ・埼玉県立大学 プレスリリース

<https://www.spu.ac.jp/news/?itemid=1774&dispmid=508>

膝関節に過度な負担をかける最大筋力の計測を必要としない新評価法の開発へ

埼玉県立大学は3月1日、歩行中の膝関節周囲筋活動パターンが特徴的な変形性膝関節症（膝 Osteoarthritis ; 膝 OA）に関して、膝関節周囲筋の同時収縮を定量的に評価する新たな解析手法の有効性を明らかにしたと発表した。この研究は、同大研究開発センターの久保田圭祐特任助教、同大学院研究科の金村尚彦教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Gait and Posture」に掲載-----

脳内アミノ酸トランスポーターが、肥満センサーとして働くことを発見— 岐阜薬科大ほか

QlifePro 医療ニュース - 2023/3/6 <http://www.qlifepro.com/news/20230306/lat1.html>

▼関連リンク

・岐阜大学 プレスリリース

<https://www.gifu-u.ac.jp/news/research/2023/03/entry03-12226.html>

視床下部神経細胞の分岐鎖アミノ酸トランスポーター「LAT1」、恒常性調節との関連は？

岐阜薬科大学は3月3日、脳内アミノ酸トランスポーターが、肥満センサーとして働くことを発見したと発表した。この研究は、同大薬理学研究室の深澤和也助教、同大薬理学研究室・同大学院連合創薬医療情報研究科・同大高等研究院 One Medicine トランスレーショナルリサーチセンター（COMIT）の檜井栄一教授らの研究グループと、米国ノースウエスタン大学、金沢医科大学、金沢大学、名古屋市立大学、国立障害者リハビリテーションセン

ター、東京医科歯科大学、米国国立衛生研究所（NIH）との共同研究によるもの。研究成果は、「JCI insight」に掲載され-----

心理社会的ストレスと腸内細菌の関係性における新知見 腸内環境を整えることがストレス対策につながる可能性に！

株式会社ファンケル - 2023/3/2

https://www.fancl.jp/news/20230021/news_20230021.html

株式会社ファンケルは、ストレスが心と身体の健康に及ぼす影響に関する研究を進めています。本研究では健康な人を対象に、心理社会的ストレス※1を感じている際の脳におけるストレス反応と腸内細菌※2の関連について、さまざまな測定と分析をしました。その結果、脳のストレス反応と腸内細菌には関連があり、ストレス反応が高い人ほど、腸内細菌のバランスがうつ病患者のそれと部分的に類似していることが確認されました。これらの結果から、うつ病などの精神疾患がなくとも腸内細菌が心理社会的ストレスに対する脆弱性と関連している可能性が示唆され-----

尿酸値が高い状態で血管の炎症反応が引き起こされるメカニズムの一部 を示唆～第56回 日本痛風・尿酸核酸学会総会にて尿酸塩結晶が血管の 細胞に与える影響の続報を発表～

株式会社明治 - 2023/2/27

https://www.meiji.co.jp/corporate/pressrelease/2023/0227_02/index.html

株式会社 明治（代表取締役社長：松田 克也）および鳥取大学 医学部 ゲノム再生医学講座再生医療学分野の経遠 智一助教らの研究グループは、尿酸値が高い高尿酸血症の状態で見られる尿酸塩結晶※1が血管の細胞に与える影響に関する研究成果を、2023年2月23日～24日に開催された「第56回 日本痛風・尿酸核酸学会総会」にて発表しました。本研究成果は「第55回 日本痛風・尿酸核酸学会総会」および「第51回 日本免疫学会学術集会」に続き、さらなる成果を追加した続報としての発表-----

まいたけ多糖類によるがんの抑制機構の研究結果についてのお知らせ ～神戸薬科大学との共同研究が「Life Sciences」に掲載～

株式会社雪国まいたけ - 2023/2/21

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/1375/tdnet/2241812/00.pdf>

株式会社雪国まいたけ（本社：新潟県南魚沼市、代表取締役社長：湯澤尚史）は、神戸薬科大学微生物化学研究室の小西守周教授、中山喜明准教授、増田有紀講師、清水涼平特任助

教との共同研究におきまして、まいたけに含まれる多糖体が、単球系骨髄由来抑制細胞（M-MDSC）を免疫活性型 M1 マクロファージに変換することで、腫瘍組織の免疫抑制状態を解除し、がんの成長を抑制することを明らかに-----

ウロリチン A の研究開発成果が令和 5 年度日本栄養・食糧学会 技術賞を受賞

株式会社ダイセル - 2023/3/1 <https://www.daicel.com/news/assets/pdf/20230301.pdf>

株式会社ダイセル（本社：大阪市北区）は、機能性食品素材のウロリチン A に関する研究開発について、令和 5 年度日本栄養・食糧学会 技術賞を受賞いたしました。本賞は、栄養科学または食糧科学の発展に貢献する産業上の技術開発として認められたものを対象に、公益社団法人日本栄養・食糧学会が授与する-----

腸内細菌叢の代謝物質が高血圧の軽減に寄与 オーストラリア

Science Portal Oceania - 2023/2/24

https://spap.jst.go.jp/oceania/news/230204/topic_no_04.html

バラの香り成分は免疫細胞による炎症反応の抑制に作用する 理科大が発見

マイナビニュース - 2023/2/21

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230221-2598281/>

順大や IBM など、認知機能推定 AI 活用の「金融商品適合性チェック支援 AI アプリ」

マイナビニュース - 2023/2/28

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230228-2603824/>

認知能力の強化・認知症予防が期待できるアプリ「ReSmart」リリース

Ledge.ai - 2023/2/28 https://ledge.ai/aka_resmart/

AKA 株式会社は 2023 年 2 月 28 日、認知能力アップとモニタリングの方法を変えるモバイルアプリケーション「ReSmart（リスマート）」をリリースしたことを発表した。同社は人工知能エンジン及び人工知能ソーシャルを開発して-----

以下の2件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2023年2月22日～3月7日）から選定したものです。

日本人向け「プレジジョン栄養」の実践に重要な遺伝子多型を発見 東京大学などの研究グループ

<https://sndj-web.jp/news/002163.php> (2023/2/28)

各個人の状態に最適な栄養を提案し実行する「プレジジョン栄養」の実践に重要な手がかりが報告された。東アジア人特有の遺伝子多型が多様な食行動と体格との関連を修飾することや、遺伝子多型のタイプ別に体格に影響しやすい食行動が推察できるという。東京大学などの研究グループの研究によるもので、詳細が「Nutrients」に論文掲載されるとともに、同大学のサイトにプレスリリースとして掲載された。著者らは、「これらの成果は、日本人のプレジジョン栄養の知識基盤となることが期待される」と述べて-----

ピスタチオを食べるとトレーニングによる筋肉痛が軽減され、筋力維持にもつながる可能性

<https://sndj-web.jp/news/002166.php> (2023/3/2)

ピスタチオのエルゴジェニック効果を示唆する研究結果が報告された。3オンス（約85g）のピスタチオを2週間毎日摂取すると、トレーニング後の筋肉痛が軽減され、回復も速まる可能性が-----

■ その他の食品関連科学・技術情報

【PRESS RELEASE】工学院大学との産学共同研究 ホーリーバジルの品種間の違いが微量香気成分の組成に由来 ～日本農芸化学会 2023年度広島大会にて発表～ - ヤマモリ株式会社 (yamamori.co.jp)

ヤマモリ株式会社 - 2023/3/6

総合食品メーカーのヤマモリ株式会社（本社：三重県桑名市、代表取締役社長：三林圭介）は、学校法人 工学院大学（先進工学部応用化学科 飯島 陽子教授）とのバジルの香気成分についての産学共同研究にて、ホーリーバジルの品種間の違いが微量香気成分の組成に由来することを確認しました。その内容を日本農芸化学会 2023年度広島大会（会期：令和5年3月14～17日・オンライン開催）にて発表-----

薄い塩水を甘く感じる理由とは？ 岡山大が味覚に関する長年の謎を解明

マイナビニュース - 2023/3/2

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230302-2605628/>

植物ベースの乳化剤でマヨネーズ調整—食品製造で革新的なソリューション提案 シンガポール

Science Portal Asia Pacific - 2023/2/22

https://spap.jst.go.jp/asean/news/230204/topic_na_03.html

椿本チエインが人工光型の大型植物工場を建設、自動化技術生かし需要増に対応

MONOist - 2023/2/27 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2302/28/news032.html>

椿本チエインは、同社初となる人工光型の大型植物工場を福井県美浜町に建設する。自動化技術や栽培ノウハウを生かした大型植物工場の建設により、中食、外食市場で拡大する植物工場野菜への需要に応え-----

■ その他の科学・技術情報

今回、特に見当たりませんでした。

■ その他

女性特有の健康課題やオーラルケアの重要性に関する情報普及により従業員の心身の健康維持・増進を図る健康経営への取り組みを推進～2023年1月にライオン株式会社との協業で、両社の強みを活用したセミナーを実施～

株式会社明治 - 2023/2/28

https://www.meiji.co.jp/corporate/pressrelease/2023/0228_01/index.html

以上

健康食品等に関する 日本語記事情報 (2023年3月号 No.2)

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、(公財)日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

(例: 法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等)

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報 (記事見出し、出典・日付、URL)、冒頭文または記事のポイントとなる部分 (民間の情報源には了承を得た上で転載) を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 注目記事

日本人のエネルギー摂取、約4割が「超加工食品」から 東大が調査

財経新聞 - 2023/3/12 <https://www.zaikei.co.jp/article/20230312/713104.html>

東京大学は10日、日本人の3~4割が菓子パンや清涼飲料水、ソーセージなどの「超加工食品」からエネルギーを摂取しているとの調査結果を発表した。特に若い世代で傾向が顕著だった。超加工食品の摂取は食事の質を低下する可能性が……

**上の記事で紹介されている研究ですが、より学術的に書かれていますので取り上げました。
超加工食品摂取量と個人的特性との関連、全国規模調査結果を公表—東大**

QLifePro 医療ニュース - 2023/3/14

[http://www.qlifepro.com/news/20230313/ultra-processed-food.html](http://www qlifepro.com/news/20230313/ultra-processed-food.html)

▼関連リンク・東京大学 プレスリリース

<https://www.m.u-tokyo.ac.jp/news/press.html#20230310>

ソーセージや菓子パンなどの超加工食品、摂取量と個人的特性を調べた日本初の研究

東京大学は3月10日、日本人成人2,742人から得られた8日間にわたる詳細な食事記録データをもとに、超加工食品の摂取量を調査し、年齢、体格、喫煙状況などの個人的特性との関連を調べた結果を発表した。この研究は、同大学院医学系研究科社会予防疫学分野の篠崎奈々客員研究員、村上健太郎助教、佐々木敏教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Nutrients」に掲載され-----

■ 安全性関連情報

前号（2023年3月号 No.1）で、食品安全情報 blog2 の掲載情報としてご紹介したものが、詳しくまとめられているので、あらためて紹介させていただきます。全文閲覧には登録が必要です。

甘味料エリスリトールに心血管リスク、想定される機序は？

ケアネット - 2023/3/8 <https://www.carenet.com/news/general/carenet/56027>

人工甘味料は砂糖の代用として広く使用されているが、人工甘味料の摂取が2型糖尿病や心血管疾患と関連するという報告もある。米国・クリーブランドクリニック・ラーナー研究所の Marco Witkowski 氏らは、アンターゲットメタボロミクス研究において、糖アルコールに分類される甘味料エリスリトール（多くの果物や野菜に少量含まれる）が3年間の主要心血管イベント（MACE：死亡、非致死的心筋梗塞、非致死脳卒中）の発生と関連していることを発見し、その後の米国および欧州の2つのコホートを用いた研究でも、その関連は再現された。また、エリスリトールは in vitro において血小板反応性を亢進し、in vivo において血栓形成を促進することを明らかにした。健康成人にエリスリトールを摂取させたところ、血小板反応性の亢進および血栓形成の促進についての閾値を大きく超える血漿中エリスリトール濃度の上昇が引き起こされた。Nature Medicine 誌オンライン版 2023年2月27日号の-----

ドイツ連邦リスク評価研究所(BfR)、妊婦がカンゾウを摂取することによる子供の心身の発達への影響に関する情報を公表

食品安全委員会 食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2023/3/8 確認) より

<https://www.fsc.go.jp/fsciis/foodSafetyMaterial/show/syu06010570314>

ドイツ連邦リスク評価研究所(BfR)は2月14日、妊婦がカンゾウを摂取することによる子供の心身の発達への影響に関する情報(No. 010/2023)を公表した。概要は以下のとおり。

フィンランドの観察研究において、妊娠中にカンゾウを週 250 g(グリチルリチン酸約 500 mg に相当)以上摂取していた母親の子どもと、カンゾウを全く摂取していない、あるいは週に 125 g 程度しか摂取していなかった母親の子どもが比較された。その結果、前者のグループの子どもは、母親が全くカンゾウを摂取しなかったか、あるいは週当たりの摂取量がかなり少なかった子どもと比較して、心身の発達に関するいくつかのパラメータに関して相違があることが判明-----

[BfR]食品中のピロリジジナルカロイド類に関する Q&A

食品安全情報 blog2 - 2023/3/13

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/03/13/173903>

3月13日分の上から1/4ほどスクロールして見える見出しです。ピロリジジナルカロイド類は、植物に含まれる天然毒素の1種で、欧米ではミツバチを通じて汚染されたハチミツが話題になりました。

詳細は、農林水産省「食品中のピロリジジナルカロイド類に関する情報」で

https://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/foodpoisoning/naturaltoxin/pyrrolizidine_alkaloids.html

[Codex]プレスリリース

-FAO/WHO ウェビナーで細胞ベース食品の安全性評価の始まりとなる新しい報告書を発表

食品安全情報 blog2 - 2023/3/16

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/03/16/173756>

3月16日分の上から3番目の太見出しです。

食品安全情報（化学物質）No. 6/ 2023（2023. 03. 15）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202306c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

まず、今回のコンテンツの中で注目記事として挙げられていたものから幾つかご紹介いたします。

【WHO】 ナトリウム摂取の低減化に関する WHO 世界報告書を発表

【EC】 欧州委員会規則の改訂

- 食品汚染物質の最大基準値の改訂：ヒ素
- セミカルバジドの RPA の適用規定の改訂

セミカルバジドに関する関連情報：

食品安全委員会「ハザード概要シート（案）（セミカルバジド）」に次のような記述があります。"セミカルバジドは、フラン系合成抗菌剤のニトロフラゾンの代謝物として生じることから、「ニトロフラゾン不検出」を確認するための分析対象化合物とされていたが、ニトロフラゾンの使用の有無にかかわらず粉卵や瓶詰食品などからセミカルバジドが検出されることが明らかとなったことから、ニトロフラゾンについてはニトロフラゾン自身を分析対象化合物とすることとされ、新たにセミカルバジドの毒性リスクが評価されている。"

https://www.fsc.go.jp/sonota/hazard/doyaku_5.pdf

そのほか気になった見出しは以下の通りです。すでに違うセクションでご紹介したのものも含まれています。

【WHO】

3. 魚食のリスクとベネフィットについての FAO/WHO 合同専門家会合の専門家募

【BfR】

1. 妊婦の甘草の摂取は子供の心身の発達を損なうか？

【FDA】

7. FDA はダイエタリーサプリメントとして販売される製品に使用される成分の新しいディレクトリを立ち上げる

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

今回は特に見当たりませんでした。

■ 行政・法令関連情報（その他）

食品表示基準等の一部改正案に関する意見募集の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/3/9

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=235080068&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=235080068&Mode=1)

クルミのアレルギー表示義務化に関する内容です。

くるみの特定原材料への追加及びその他の木の実類の取扱いについて (令和5年3月9日事務連絡)

消費者庁 - 2023/3/9

https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/food_sanitation/allergy/assets/food_labeling/cms204_230309_03.pdf

食品表示基準、「食品表示基準について」及び「食品表示基準 Q&A」 を改正しました

消費者庁 - 2023/3/9

https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/food_labeling_act/

「特別用途食品の表示許可等について」の一部改正案に関する意見募集 について

消費者庁 - 2023/3/9 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/032366/>

「企業の持続可能性と消費者志向経営との関係性に関する研究」のプログ レッシブ・レポートを公表しました。

消費者庁 - 2023/3/13 https://www.caa.go.jp/policies/future/icprc/#progressive_report

■ 海外公的機関情報

[USDA]USDAは「米国産」表示のための新たな要件を提案

食品安全情報 blog2 - 2023/3/7

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/03/07/180111>

3月7日分の最初の見出しです。

[FDA]FDAはダイエタリーサプリメントとして販売される製品に使用さ れる成分の新しいディレクトリを立ち上げる

食品安全情報 blog2 - 2023/3/13

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/03/13/173903>

3月13日分の中ほどの見出しです。海外記事情報の前号でもご紹介しました。

米環境保護庁、飲料水中のPFASについての国家統一基準案を発表（米国）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2023/3/15

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/03/cf98185875c88be3.html>

以下の9件は、**食品安全委員会 食品安全総合情報システム**

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2023/3/8 確認) の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)

7. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、植物原料の乳代替品のラベル表示に関するガイダンス案を公表](#)
25. [ニュージーランド環境保護庁\(NZEPA\)、残留性有機汚染物質であるパーフルオロヘキサンスルホン酸\(PFHxS\)の規制について、意見募集の実施を公表](#)
27. [台湾衛生福利部、「ブロッコリー種子エキスの食品原料としての使用制限と表示規則」の草案を公表](#)
41. [オーストリア保健・食品安全局\(AGES\)は、重点活動「マスタードオイルに含まれるエルカ酸」に関する最終報告書を公表](#)
42. [ドイツ連邦食糧農業省\(BMEL\)は、商業用ヘンプ（麻）のテトラヒドロカンナビノール\(THC\)規制値の引き上げに関するプレスリリースを公表](#)
53. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、妊婦がカンゾウを摂取することによる子供の心身の発達への影響に関する情報を公表](#)
61. [米国環境保護庁\(EPA\)、バイデン・ハリス政権が飲料水中のPFAS等の新興汚染物質に対処するため、州及び準州に20億ドルの超党派インフラ資金提供を行うことを公表](#)
63. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、香料グループ評価76改訂2\(FGE.76Rev2\)に関する科学的意見書を公表](#)
65. [カナダ保健省\(Health Canada\)、飲料水中のPFASの目標値\(objective value\)の提案を公表し、同提案へのコメント募集を開始](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

富士経済、機能性表示食品・特定保健用食品など国内市場調査、機能性表示食品の2022年市場見込は2021年比24.0%増の5462億円に

マイライフニュース - 2023/3/14 <https://www.mylifenews.net/health-medical/12186/>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、機能性表示食品の躍進が続き、複数のヘルスクレームを組み合わせたマルチヘルスクレームの展開にも注目が集まる保健機能食品（特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品）の市場動向を調査した。その結果を「H・Bフーズマーケティング便覧 2023 No.3 機能性表示別市場分析編」にまとめた。トピックスとしては、2022年市場見込（2021年比）では、機能性表示食品の国内市場が、脂肪対策需要の高まりに加え、ストレス緩和などを訴求した商品が市場をけん引し、5462億円（24.0%増）に達する見通しだ。脂肪に関するヘルスクレームは、大型ブランドが脂肪に関するヘルスクレームを活用して参入し、拡大に貢献し、3224億円（17.3%増）と予測……

「機能性表示食品」「海外進出」で存在感（特集：健康食品 GMP）

健康メディア.com - 2023/3/13 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17332

国内の健康食品 GMP 認証は、厚労省平成 17 年通知を受け、製品と原材料を認証する団体として、日本・健康栄養食品協会（日健栄協）と日本健康食品規格協会（JIHFS）の 2 団体により 2005 年にスタート。18 年間に亘る健食 GMP 取得企業数は 2 団体合計で 186 社 217 社（2 月 22 日現在）。近年は、GMP 取得工場での製造が推奨されている機能性表示食品制度に加え、改正食衛法の指定成分制度における GMP の義務化、GMP 必須となる ASEAN 10 カ国など国内外で存在感が増している。HACCP 義務化を受け、新たに健食 GMP に関心を持つ事業者も増加傾向に……

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

高麗人参の新たな市場開拓始まる（特集：高麗人参）

健康メディア.com - 2023/3/13 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17335

「フェムケア（美容）」「免疫対策」をテーマに、高麗人参の新たな市場開拓が進んでいる。「高麗人参＝滋養強壮・疲労回復」のイメージに依存する事なく、サプライヤー各社がエビデンス蓄積・原料開発に尽力したことが結実。美容・冷え対応、免疫対策マーケットで頭角を現している。加えて、先月には、「LDL コレステロール対策」領域で高麗人参初となる機能性表示食品が登場するなど、さらなる市場拡大に向けた下地が……

免疫対策で 引き合い（Zoom Up：ベータグルカン）

健康メディア.com - 2023/3/13

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17339

COVID-19の長引く感染拡大は人々の免疫への関心を高めた。特にセルフディフェンスの意識が強い海外では、健康食品やサプリメントを積極的に利用した「イミュンヘルス」が定着。ビタミンC、Dや亜鉛をはじめ、エルダーベリー、β-グルカンなど利用が進む。海外調査会社の発表では、β-グルカンの世界市場は現在約4億ドル。2026年には6億ドル規模に到達すると試算されている。国内でもコロナ禍で免疫機能についての関心は高く、免疫賦活作用を有する酵母由来β-グルカンの今後の利用拡大に期待が……

「食感・品質改良」+「栄養価」で新市場創出へ（特集：プラントベース）

健康メディア.com - 2023/3/16

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17342

プラントベースフードのバリエーションが広がっている。海外市場は、高い栄養価やサステナブルを訴求する商品開発など、付加価値提案が活発に。植物性と動物性をミックスさせるハイブリッド版も目立つ。国内市場は肉代替品のみならず、昨今では水産や鶏卵、乳製品の代替食品も。食感や呈味改善、色味再現の取り組みが急ピッチで進んでいる。マスマーケットに普及させる取り組みでは、DHAなどの栄養価を付与する取り組みもみられはじめ……

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

今回は特に見当たりませんでした。

■ 消費者意識等の調査・分析

【栄養足りていますか？】48.3%が、5大栄養素を普段から気にして「食事をしている」 日本トレンドリサーチ・5大栄養素にかけている金額に関する調査

株式会社 NEXER - 2023/3/8

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000783.000044800.html>

日本トレンドリサーチ（運営会社：株式会社 NEXER）は、株式会社ドクターズチョイスと共同で「5大栄養素」に関するアンケートを実施し、結果をサイト内にて公開したので紹介……

・「日本トレンドリサーチ」の該当記事 <https://trend-research.jp/16938/>

・株式会社ドクターズチョイス <https://drs-choice.co.jp/>

[29508] 疲れ・疲労に関するアンケート調査（第5回）

マイボイスコム https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=29508

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

NAFLDにおける肝線維化進展の抑制に「日本食」が有効な可能性—大阪公立大

QlifePro 医療ニュース - 2023/3/10

<http://www qlifepro.com/news/20230310/naflid-4.html>

▼関連リンク ・大阪公立大学 プレスリリース

https://www.omu.ac.jp/info/research_news/entry-05010.html

日本を含むアジア諸国では、どのような食習慣がNAFLD患者の病態と関連するのか？

大阪公立大学は3月9日、非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）136人の食事、筋肉量、肝線維化進展度の関連性を解析した結果、12の食品・食品群の摂取量から計算される日本食スコアが高いグループは、肝線維化進展度が抑制的であることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院生活科学研究科の松本佳也准教授、医学研究科の藤井英樹講師らの研究グループによるもの。研究成果は、「Nutrients」にオンライン掲載-----

加齢やMDに伴う筋萎縮、ミトコンドリアCa²⁺濃度上昇が原因—東北大ほか

QlifePro 医療ニュース - 2023/3/22

<http://www qlifepro.com/news/20230322/duchene-muscular-dystrophy-c-elegans.html>

▼関連リンク ・東北大学 プレスリリース

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2023/03/press20230320-02-ca.html>

過剰なミトコンドリアCa²⁺蓄積、筋萎縮や崩壊への影響は？

東北大学は3月20日、モデル生物線虫*C. elegans*の筋細胞ミトコンドリアのCa²⁺濃度を可視化する実験系を導入し、加齢や疾患に伴うミトコンドリアCa²⁺濃度と筋機能の関連を解析した結果、加齢に伴うミトコンドリアCa²⁺濃度の上昇が、ミトコンドリアの断片化と退縮を引き起こすことを見出したと発表した。この研究は、同大大学院生命科学研究所の東谷篤志教授、寺西美佳助教、名古屋大学大学院医学系研究科の小林剛講師、東北大学医学系研究科・医工学研究科の阿部高明教授らをはじめとする国際的な共同研究グループによるもの。研究成果は、「The FASEB Journal」に掲載-----

線虫を用いて小食とオートファジー、老化に関する分子機構を解明 台湾

Science Portal Asia Pacific - 2023/3/9

https://spap.jst.go.jp/other_asia/news/230302/topic_nt_01.html

老化を司るテロメアを維持！FPP(パパイヤ発酵食品)による ヒトでの有効性・安全性を大里研究所 WEB にて公開

@Press - 2023/3/10 <https://www.atpress.ne.jp/news/345419>

大里研究所(所在地：岐阜県揖斐郡、理事長：林 幸泰)は、同研究所が開発した FPP(パパイヤ発酵食品)の研究において、イタリア・ReGenera R&D International for Aging Intervention のマロッタ教授らが、健康な中高齢者を対象としたテロメア動態における FPP の有効性を 2 年間にわたる無作為化二重盲検比較臨床試験により検証した結果を学術誌「Journal of Biological Regulators and Homeostatic Agents」に発表し、この度、日本で初めて大里研究所ホームページにて公開したことをご報告いたします。

URL：<https://www.ori-japan.com/research/subject/cat26/fpp-8.html>

大豆たんぱく質をはじめとした抗筋萎縮におけるペプチドの可能性

ウェルネス総研レポートオンライン - 2023/3/13 <https://wellnesslab-report.jp/2748/>

近年、高齢化に伴う寝たきり状態下での筋萎縮や低栄養が社会問題の 1 つとなっており、筋肉維持のためには、良質なたんぱく質の摂取が重要ですが、その中でも、筋萎縮とたんぱく質の関係に着目したユニークな研究を行っている、徳島大学大学院医歯薬学研究部生体栄養学分野の二川健教授に、お話を伺い-----

以下の 3 件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事 (2023 年 3 月 8 日~22 日) から選定したものです。

高タンパク質の朝食で昼食・夕食後の血糖上昇が抑制されるが、昼食の欠食でその効果は失われる

<https://sndj-web.jp/news/002185.php> (2023/3/10)

朝食をタンパク質リッチな食事にとすると、朝食後ばかりでなく、昼食後と夕食後の血糖上昇も抑制されるというデータが報告された。ただし昼食をスキップした場合、夕食後の血糖

上昇抑制作用は失われるという。早稲田大学先端生命医科学センターの柴田重信氏らが、非アスリート対象に行ったクロスオーバー試験の結果であり、「Nutrients」に論文が掲載-----

塩味をうま味に置き換えれば、英国では最大 18.6%、米国は 13.5%、日本は 21.1%の減塩を達成可能

<https://sndj-web.jp/news/002186.php> (2023/3/13)

「うま味」を活用することで、世界の生活習慣関連疾患を大きく減らすことができるかもしれない——。そんな期待を抱かせる 3 本の論文を紹介する。いずれも、東京大学大学院医学系研究科国際保健政策学教室・東京財団政策研究所の野村周平氏らが行った研究であり、英国人、米国人、そして日本人の食塩摂取量の一部を、うま味を生かした食品に変えることで、塩分摂取量がどの程度減るかを試算した結果-----

欧米の一般的な食事との比較では、ケトジェニック食でも脂質酸化の亢進は起こらない？

<https://sndj-web.jp/news/002177.php> (2023/3/14)

ケトジェニック食は、エネルギー基質をグリコーゲンから脂質に切り替え、持久力の向上につながる可能性があるとされている。しかし、もともと摂取エネルギー量に占める脂質の割合が高い欧米型の食事との比較では、食後の脂質酸化の有意な亢進はみられないとする研究結果が報告された。著者らは、ケトジェニック食にすることに伴う炭水化物摂取量の減少により、負の影響が生じる懸念があると述べて-----

■ その他の食品関連科学・技術情報

健康食品・サプリの開発へ！ 野菜に含まれる超硫黄分子の定量検出に成功

大阪公立大学 - 2023/2/22 https://www.omu.ac.jp/info/research_news/entry-04668.html

本研究のポイント

- ◇ 野菜に含まれている超硫黄分子※1 の定量検出に成功。
- ◇ タマネギ・ニンニクなどのネギ属だけでなく、ブロッコリー・コマツナなどのアブラナ属にも硫黄が多く含まれていることを発見。
- ◇ 食品中の超硫黄分子に関する研究の基盤を確立。

前のセクションの「スポーツ栄養 Web」記事の中で紹介されている論文の一つです。

食塩の「うま味」への置き換えで成人の食塩摂取量を 2 割程度削減できる可能性－東大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2023/3/22

<http://www.qlifepro.com/news/20230322/umami.html>

▼関連リンク ・東京大学 プレスリリース

<https://www.m.u-tokyo.ac.jp/news/press.html#20230320>

食品中の食塩相当量を、うま味成分に置き換えた場合のインパクトを評価

東京大学は 3 月 20 日、日本発の「うま味」には、成人における 1 日あたり食塩摂取量に対し、22.3%の減塩インパクトが期待できること明らかにしたと発表した。この研究は、同大学院医学系研究科国際保健政策学分野の野村周平特任助教らの研究グループによるもの。研究成果は、「BMC Public Health」に掲載され……

前号 (3/8 配信) でマイナビニュース (3/2 付け) の記事としてご紹介しましたが、情報源のご意向により見出しと URL のみでしたので、今号で別サイトの記事をあらためて取り上げました。

薄い塩水はほんのり甘い、食塩中の塩化物イオンの作用を岡山大学などが発見

大学ジャーナルオンライン - 2023/3/10 <https://univ-journal.jp/213778/>

岡山大学大学院の研究グループは東京歯科大学短期大学と共同で、食塩を構成する成分の 1 つである塩化物イオンが、甘味やうま味の受容体に作用して味覚を引き起こすことを発見……

植物の雌雄の決定に定説を覆す新しい仕組みが関与する可能性、岡山大学など

マイナビニュース - 2023/3/8 <https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230308-2611489/>

■ その他の科学・技術情報

今回は特に見当たりませんでした。

■ その他

SDGs は人類史上類を見ない規模の世界共通ビジョンである

幻冬舎ゴールドオンライン - 2023/3/6 <https://gentosha-go.com/articles/-/49812>

SDGs は、Sustainable Development Goals の頭文字をとったもので、日本語では持続可能な開発目標と翻訳されている。株式会社電通による 2022 年 4 月の「SDGs に関する生活者調査」※1 では認知率 86% という結果であり、認知度は高まっている。しかし、企業による取り組み度合いの差は大きく、取り組んでいる企業と取り組んでいない企業（取り組んでいるように見せているだけの SDGs ウォッシュを含む）との格差は広がるばかりである。今回、企業が SDGs 経営を導入して持続可能なビジネスモデルを構築する方法を 3 回にわたって紹介する。第 1 回は SDGs 経営とはどのようなものか、なぜ取り組むべきなのかを紹介...

香港、世界最長寿の秘密を探る

ヘルシーで美味しい、中国料理特化型の代替肉に注目

第 25 回 人気代替肉ブランド「プラント・シーフ」の舞台裏に迫る

甲斐 美也子 = 香港在住ジャーナリスト 2023.3.13

Beyond Health (日経 BP 総合研究所) - 2023/3/13

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/column/00011/030300028/>

英語情報サイト「Foodnavigator-asia」に、3月9日付けで日本語記事（英文記事の翻訳）がいくつか掲載されていましたので、ご紹介いたします。タイトルのクリックで閲覧可能です。

[ポリシー ピック：フィリピンの塩分規制見直し、ドバイのアルコール税撤廃、2023年の主要な影響力のある政策](#)

[より健康的な選択：罪悪感のないキャンディー、ヘルシーな間食、シルバー世代のイノベーション](#)

[サイエンス ショート：塩の代謝効果、韓国食の脂肪肝リスク、茹でピーナッツのアレルギー低減](#)

[サステナビリティ 抜粋：韓国の再生 PET 承認、Nestle の紙製パッケージ、シンガポールの容器返却構想](#)

[ジャパン フォーカス：アサヒのプレミアム化とパッケージング戦略、味の素のサステナビリティ課題、麒麟のビール消費データ等](#)

以上

健康食品等に関する 日本語記事情報（2023年4月号 No.1）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 注目記事

「食品企業のためのサステナブル経営に関するガイダンス」の公表について

農林水産省 - 2023/3/29 https://www.maff.go.jp/j/press/shokuhin/fainance/230329_8.html

■ 安全性関連情報

令和5年3月29日薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会新開発食品調査部会新開発食品評価調査会指定成分等含有食品等との関連が疑われる健康被害情報への対応ワーキンググループ（第5回）資料

厚生労働省 - 2023/3/28 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_32199.html

追記：主な議題は、いわゆる「健康食品」の健康被害防止のための検討課題についてです。毎回感じますが、前半の”冠”タイトル（会議正式名称）が長すぎて、何のための会議が分かりにくいですね。

「令和5年度食品の安全性に関する有害化学物質及び有害微生物のサーベイランス・モニタリング年次計画」を策定しました

農林水産省 - 2023/3/31 <https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/seisaku/230331.html>

農林水産省は、食品の安全性に関するリスク管理に不可欠なデータを得るため、農畜水産物、加工食品、飼料中の有害化学物質や有害微生物の実態調査等を実施しています。この度、「令和5年度食品の安全性に関する有害化学物質及び有害微生物のサーベイランス・モニタリング年次計画」を策定しました。

「令和3年度アミノ酸液を原材料に含むしょうゆ中のクロロプロパノール類含有実態調査」の結果について

農林水産省 - 2023/3/24 <https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/seisaku/230324.html>

農林水産省は、食品の安全性を向上させるため、一部のしょうゆに使用されるアミノ酸液の製造過程で意図せずして生成する有害化学物質であるクロロプロパノール類の濃度を製造方法の改善によって低減する対策について、平成18年度より関係業界と連携して進めています。

令和3年度に、アミノ酸液を原材料に含むしょうゆのうち、自社で製造したアミノ酸液を平成18年度当時に使用していた製造事業者の製品を対象に代表的なクロロプロパノール類濃度の実態を調査した結果、対策実施前の平成18年度より大幅に低い水準で維持されており、低減対策が有効であることを確認-----

[BfR]グルタミン酸とグルタミン酸塩(E 620-E 625)：食品添加物としての使用による健康影響の評価

食品安全情報 blog2 - 2023/3/30

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/03/30/175531>

3月30日分の上から1/3ぐらいの太見出しです。BfR：ドイツ連邦リスク評価研究所

[EFSA]食品中のニトロソアミンは健康上の懸念を引き起こす

食品安全情報 blog2 - 2023/4/3

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/04/03/174039>

4月3日分の上から1/3ぐらいの太見出しです。EFSA：欧州食品安全機関

食品安全情報（化学物質）No.07（2023.03.29）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202307c.pdf>

別添 <http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202307ca.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

東京都、不当なアフィリエイト広告を実施した通販事業者2社に景表法に基づく措置命令

マイナビニュース - 2023/3/29

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230329-2638983/>

■ 行政・法令関連情報（その他）

「加工食品の食物アレルギー表示ハンドブック」を改訂しました。

消費者庁 - 2023/3/31

https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/food_sanitation/allergy/

■ 海外公的機関情報

[FDA]食品ラベルに表示される食事ガイダンス文書により、FDAは栄養改善と食事に関連する慢性疾患の減少にさらに取り組む

[FDA]FDAはナトリウム摂取量を減らすための代替塩の使用拡大による栄養改善と疾患減少のための追加措置を講じる

食品安全情報 blog2 - 2023/3/29

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/03/29/174913>

いずれも3月29日分の中ほどの太見出しです。

以下の 11 件は、**食品安全委員会 食品安全総合情報システム**

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2023/3/30 確認) の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)

6. [米国環境保護庁\(EPA\)、パーフルオロ及びポリフルオロアルキル化合物\(PFAS\)の第一種飲料水規則\(NPDWR\)案を公表](#)
21. [世界保健機関\(WHO\)、食品中の自然毒に関するファクトシートを更新](#)
31. [世界保健機関\(WHO\)、ナトリウム摂取量低減に関する WHO グローバル・レポートを公表](#)
32. [ドイツ連邦食糧農業省\(BMEL\)は、子供向けの食品広告に関する法案についての Q&A を公表](#)
33. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2023 年 3 月 8 日~3 月 14 日\)](#)
45. [国際がん研究機関\(IARC\)、「欧州における食品加工とがんのリスク: がんと栄養に関する欧州前向き調査\(EPIC\)コホート研究の結果」と題する研究論文を公表](#)
51. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、ダイエタリーサプリメントとして販売された製品中に使用されている成分に関する新しいウェブページを公表](#)
52. [世界保健機関\(WHO\)、技術文書「2023 年世界食品安全の日に向けたガイド: 食品基準は命を救う」を公表](#)
54. [コーデックス委員会\(Codex\)、4 月 5 日開催予定の FAO/WHO ウェビナーにおいて、安全性評価を開始するために作成された新しい細胞ベース食品の報告書を発表すると公表](#)
60. [国際連合食糧農業機関\(FAO\)、「動物細胞から育てた食品を何と呼ぶべきか?-食の安全の第一歩となる用語の定義」と題する記事を公表](#)
69. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2023 年 3 月 1 日~3 月 7 日\)](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

矢野経済研究所、和洋菓子・デザート類市場に関する調査、2022年度は人流回復に伴い手土産需要が回復

マイライフニュース - 2023/4/5 <https://www.mylifenews.net/drink-food/14343/>

矢野経済研究所は、国内の和洋菓子、デザート類市場を調査し、製品セグメント別の動向、チャンネル別の動向、参入企業の動向、将来展望を明らかにした。その結果、2022年度は人流回復に伴い手土産需要が回復。原料価格高騰を背景に価格改定が相次ぐも、製造小売系企業は販売回復の追い風が大きく影響は軽微になるとみられ……

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

置き換え食品にニーズ増 機能性表示食品は開発ラッシュ続く (特集：注目のダイエット食品)

健康メディア.com - 2023/3/27 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17389

コロナ太り、運動不足を背景に、“健康美” “引き締めボディ” を求めるニーズは一段と高くなっている。市場ではダイエットや、美容、筋肉サポート成分など配合したプロテインの人気が続く一方、商品淘汰も始まっている。健康的な身体づくりに対する意識が高まり、今春はスムージーなどの置き換え食品の商品上市が目立つ。ダイエット訴求の機能性表示食品も続々登場。「お腹まわり」「ウエスト」「体重」「脂肪」「BMI」「ヒップ」など、ヘルスクレームの種類が増え、製品開発に拍車が掛かっている。最近は、「むくみ」「体温維持」などのヘルスクレームを組み込んだ商品なども増えて……

スポーツ分野、女性層の利用進む (特集：カキ)

健康メディア.com - 2023/3/31

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17399

食業界で長年利用されている伝統マリン素材・カキ。体感の高さに加え、伝承的薬効に科学的エビデンスが備わり、薬局・薬店、ドラッグストアでは定番アイテムに。複数のヘルスクレームが謳える機能性表示食品も流通する。新たな市場開拓では、スポーツ分野での利用が進むほか、日常生活において“コロナ疲れ”を感じる人が増える中、新規ユーザーの獲得にも繋がっている。また、亜鉛、鉄などのミネラル類を含むカキは、フェムケア商材としての広がりも期待……

ライフステージごとの課題に提案活発化 (特集：フェムテック)

女性特有の体の不調に着目したフェムケア・フェムテック分野は、生理、妊活、更年期など女性のライフステージごとの課題に寄り添い、QOL向上を目指す新たな市場として急発展している。健食業界でも注目が集まる中、更年期対策、妊活サポートを中心にフェムテックを切り口とした製品・サービスが続々と登場するようになった。特に2022年頃からは大手健食企業の参入も盛んになり、市場が成長しはじめた。一方で「フェムテック製品」に公式の定義や基準がないことは課題であり、各事業者によるエビデンスの蓄積や正確な情報発信が求められる。フェムテックは今後、性差に着目したジェンダード・イノベーションに発展し、男性向け市場も拡大することが期待……

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

～酪農・乳業における温室効果ガス排出削減の取り組みを2023年3月よりスタート～

味の素(株)と明治グループ、持続可能な酪農業の実現に向けた協業を開始

日本で初めてアミノ酸を活用したJ-クレジット制度プロジェクトを酪農業で実施

味の素株式会社 - 2023/3/27

https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/presscenter/press/detail/2023_03_27.html

味の素株式会社(社長：藤江 太郎 本社：東京都中央区)は、株式会社 明治(社長：松田 克也 本社：東京都中央区)をはじめとした明治グループと、酪農・乳業において、温室効果ガス(以下 GHG※1)排出削減と経済価値創出を同時に実現するJ-クレジット制度※2を活用したビジネスモデルの構築に向けた協業を開始しました。

なお、酪農におけるアミノ酸を活用したJ-クレジット制度のプロジェクトは日本初(当社調べ)となります。

※1) Greenhouse Gas の略

※2) CO₂ などの GHG 排出削減量や吸収量を売買可能な「クレジット」として国が認証する制度。

味の素と DeNA グループ、社会課題解決に向け基本合意へ 食・スポーツ・ヘルスケア領域で協業 SDGs の取組も推進

味の素株式会社 - 2023/3/23

https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/presscenter/press/detail/file/2023_03_23_01.pdf

味の素株式会社(本社:東京都中央区、社長:藤江 太郎、以下味の素(株))と株式会社ディー・エヌ・エー(本社:東京都渋谷区、社長兼 CEO:岡村 信悟、以下 DeNA)、株式会社 DeNA 川

崎ブレイブサンダース(本社:神奈川県川崎市、社長:元沢 伸夫、以下川崎ブレイブサンダース)、株式会社 DeNA ライフサイエンス(本社:東京都渋谷区、社長:砂田 真吾、以下 DLS)は、本日、社会課題を解決するための、食とスポーツ、ヘルスケアの領域における新事業やSDGs の取組を共同で創出すべく、基本合意書を締結-----

■ 消費者意識等の調査・分析

「食生活・ライフスタイル調査～令和4年度～」の結果公表について

農林水産省 - 2023/3/31 <https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/anpo/230331.html>

農林水産省では、食と農のつながりの深化に着目した新たな国民運動「食から日本を考える。ニッポンフードシフト」を実施しています。
この運動の一環として、消費者の日常の消費行動や、食や農に対する意識、普段の食事の実態等を把握するため、「食生活・ライフスタイル調査～令和4年度～」を実施し、結果を取りまとめましたので、公表-----

「大人のためのプロテイン タンパク生活」カロミルモニター調査結果を発表

食事内容を工夫して摂りたいと思っても摂取量を増やすことが難しいたんぱく質
約7割以上の人々が「品数を増やす」「高たんぱくメニュー化」にハードルを感じている

森永乳業株式会社 - 2023/3/24

<https://www.morinagamilk.co.jp/release/newsentry-4125.html>

森永乳業株式会社（所在地：東京都港区芝、代表取締役社長：大貫陽一、以下森永乳業）と、食事・運動・体重管理アプリケーション（以下アプリ）「カロミル」の開発・提供をするライフログテクノロジー株式会社（所在地：東京都中央区日本橋、代表：棚橋繁行、以下ライフテクノロジー）は、2022年11月から12月にかけて”50代以上の大人世代へ、たんぱく質摂取の新しい習慣作り“の一環として、「大人のためのプロテイン タンパク生活」カロミルモニター調査を実施-----

アヲハタ、朝食に関する調査、朝食習慣のない人の24.7%が「朝食は習慣をつけるのが難しい」と回答

マイライフニュース - 2023/3/29 <https://www.mylifenews.net/drink-food/13562/>

アヲハタは、全国の20～60代の男女3000人を対象に、朝食に関する調査を実施した。その結果、「食べなければいけないと思っている」との回答が、3食のうち朝食が全世代で最も高い結果となった。また、朝食習慣のない人のうち24.7%が朝食について「習慣をつけ

るのが難しい」と回答している。生活習慣を変えるタイミングについては、「年度が変わるタイミング（3～4月）」が34.0%で最多と-----

森永乳業、春先の不調に関する実態調査、6割の人が春先に心身の疲れやダルさ・気分の落ち込みを感じている

マイライフニュース - 2023/3/27 <https://www.mylifenews.net/health-medical/13303/>

森永乳業は、50年以上にわたるビフィズス菌の研究において得た知見や成果を、人々の健康に役立てるよう取り組んできた。今回、春先に感じる不調に関する意識と実態を明らかにするため、16歳から65歳までの男女1000名を対象に「春先の不調に関する実態調査」を実施した。その結果、6割の人が、春先に心身の疲れやダルさ、気分の落ち込みを感じていることがわかった。さらに、大腸に不調を抱える人ほど「春ダル」を感じる相関関係も明らかに-----

アヲハタ、朝食に関する調査、理想の朝食は「栄養バランス」「時短」「お腹の調子を整える」が上位に

マイライフニュース - 2023/4/6 <https://www.mylifenews.net/drink-food/14485/>

アヲハタは、全国の20～60代の男女3000人を対象に、朝食に関する調査を実施した。その結果、朝食に求める理想的なメニューとして「栄養バランスが良い」が92.3%と最も高く、続いて「あと片付けが楽」91.7%・「作るのに時間がかからない」90.6%と手間に関わるものが高くなった。さらに「お腹の調子を整える」89.3%・「野菜・フルーツなどの繊維質のものをとる」87.1%とお腹の調子を整えるメニューが求められていることが分か-----

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

筋肉を「速筋タイプ」に誘導する転写因子群を同定、宇宙飼育マウスで一筑波大ほか

QlifePro 医療ニュース - 2023/3/27

<http://www.qlifepro.com/news/20230327/mafa-mafb-maf.html>

▼関連リンク ・筑波大学 TSUKUBA JORNAL

<https://www.tsukuba.ac.jp/journal/medicine-health/20230324143000.html>

速筋タイプを誘導する因子はほとんど知られていなかった
筑波大学は3月24日、宇宙飼育マウスの骨格筋で発現している遺伝子を解析し、大Maf群転写因子（Mafa、Mafb、Maf）と呼ばれる3種類の遺伝子の発現が顕著に上昇していることを発見したと発表した。この研究は、同大医学医療系/トランスポーター医学研究センタ

ー 再生医学分野の藤田諒助教（卓越研究員）、同・遺伝子改変マウス分野の高橋智教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Cell Reports」にオンライン掲載され-----

エクリン汗腺に発現の嗅覚受容体と発汗調節できる香料をセットで発見 ー長崎大ほか

QlifePro 医療ニュース - 2023/3/31 <http://www.qlifepro.com/news/20230331/or51a7.html>

▼関連リンク・長崎大学 プレスリリース

<https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/science/science304.html>

指定難病の無汗症「AIGA」や原発性多汗症など、発汗異常治療の選択肢は限定的

長崎大学は3月29日、エクリン汗腺が嗅覚受容体を発現し、ある種の香料の皮膚への塗布によって発汗を調節できることを発見したと発表した。この研究は、同大医歯薬学総合研究科皮膚病態学の室田浩之教授、村山直也医師、同大先端創薬イノベーションセンターの田中義正教授ら、東京大学、東北大学大学院薬学研究科井上飛鳥教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「JID Innovation」に掲載され-----

アレルギー反応に関わるIgE抗体、血中濃度が維持される仕組みを明らかにー東京理科大

QLifePro 医療ニュース - 2023/4/5

<https://www.qlifepro.com/news/20230405/ige-myd88ko-mice.html>

▼関連リンク・東京理科大学 プレスリリース

https://www.tus.ac.jp/today/archive/20230331_1876.html

IgE産生形質細胞の寿命は短いのに、血中にIgE自然抗体を長期維持する人がいる理由は？

東京理科大学は3月31日、アレルギー反応に関与するタンパク質「免疫グロブリンE（IgE）」について、血中IgE濃度が高く維持される遺伝子改変マウスを用いて、その産生メカニズムを解明したと発表した。この研究は、同大生命科学研究科の天野峻輔氏（博士後期課程3年）、生命科学研究科・生命医科学研究所の北村大介教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「The Journal of Immunology」にオンライン掲載されて-----

【昭和大学・ジョンスホプキンス大学・慶應義塾大学・九州大学】腸内細菌叢の変化がうつ病につながるメカニズムを発見 ～腸管免疫にかかわる $\gamma\delta$ （ガンマデルタ）T細胞が脳に作用する～

大学プレスセンター - 2023/3/31 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-50384.html>

昭和大学の真田建史准教授（医学部精神医学講座）は、ジョンズホプキンス大学の神谷篤教授と酒本真次研究員（現岡山大学助教）、慶應義塾大学の岸本泰士郎特任教授、福田真嗣特任教授らとの共同研究により、乳酸菌の減少がうつ病患者のうつ症状の重症度と関連すること、また心理社会的ストレスをかけたマウスにおいて、特定の乳酸菌の減少がうつ病様行動を引き起こす細胞分子メカニズムを世界で初めて明らかにしました。本研究成果は、2023年3月20日（米国東部標準時間）に『Nature Immunology』（Impact Factor 31.25）のオンライン版に掲載-----

心理社会的ストレスと腸内細菌の関係性における新知見 腸内環境を整えることがストレス対策につながる可能性に！

ファンケル株式会社 - 2023/3/2

https://www.fancl.jp/news/20230021/news_20230021.html

株式会社ファンケルは、ストレスが心と身体の健康に及ぼす影響に関する研究を進めています。本研究では健康な人を対象に、心理社会的ストレス※1を感じている際の脳におけるストレス反応と腸内細菌※2の関連について、さまざまな測定と分析をしました。その結果、脳のストレス反応と腸内細菌には関連があり、ストレス反応が高い人ほど、腸内細菌のバランスがうつ病患者のそれと部分的に類似していることが確認されました。これらの結果から、うつ病などの精神疾患がなくとも腸内細菌が心理社会的ストレスに対する脆弱性と関連している可能性が示唆されました。

なお、本研究については、2022年8月に国際学術誌“Neurobiology of Stress”に掲載されました。 Yamaoka, K., Uotsu, N., & Hoshino, E. (2022). Relationship between psychosocial stress-induced prefrontal cortex activity and gut microbiota in healthy Participants—A functional near-infrared spectroscopy study. *Neurobiology of Stress*, 20(C). doi:10.1016/j.ynstr.2022.100479

日常的な外部刺激で、肌の潤いに必要な結合型セラミドが減少

MONOist - 2023/3/30 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2303/30/news035.html>

大正製薬は、ヒト三次元培養表皮を用いて、結合型セラミド量と肌バリア機能の評価系を構築した。これを用いて、肌の潤いに必須な結合型セラミドが、紫外線など肌が日常的に受ける外部刺激によって減少することを明らかに-----

ヒト常在性ビフィズス菌が消化管粘液のムチンを分解する機構を解明

MONOist - 2023/3/29 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2303/29/news045.html>

京都大学は2023年3月3日、ヒト常在性ビフィズス菌 *Bifidobacterium bifidum* (B. bifidum) 由来の酵素スルフォグリコシダーゼ (BbhII) について、腸内細菌の栄養源となるムチン糖鎖を分解するメカニズムを明らかにしたと発表した。東京大学、西オーストラリア大学、ワーゲニンゲン大学、北里大学、近畿大学、滋賀県立大学との共同研究による成果

筑波大学、朝のすっきりした目覚めを調節する SIK3 の働きを解明

Beyond Health - 2023/4/4

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/news/weekly/00154/>

九大が甘味受容体の構造変化の予測に成功 血糖値制御物質の開発に期待

マイナビニュース - 2023/4/6 <https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230406-2646399/>

以下の4件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事 (2023年3月24日~4月7日) から選定したものです。

ビタミンDはアスリートの疲労骨折リスクを抑制する 文献レビューによる骨折のタイプ別の検討

<https://sndj-web.jp/news/002203.php> (2023/3/25)

ビタミンD摂取による骨折抑止効果を、骨折のタイプ別に検討した文献レビューが報告された。大腿骨頸部骨折や転倒リスクの抑制、筋肉機能の改善などが改めて確認され、またアスリートや軍隊の新兵の疲労骨折のリスクも抑制すると考えられるという。一方、小児の骨折に対する抑止効果は認められないようだとされて-----

米国農務省が学校給食を改善 糖と塩を減らして全粒穀物を増加

<https://sndj-web.jp/news/002209.php> (2023/3/30)

米国農務省 (United States Department of Agriculture ; USDA) はこのほど、学校給食の栄養価を改善するためのプログラムを発表した。科学的エビデンスに基づいて今後、段階的に更新していくことを提案し、また、小規模または地方の学校に財政的な支援を行う-----

国際スポーツ栄養学会 (ISSN) がエナジードリンクとエナジーショットに対する見解を公表

<https://sndj-web.jp/news/002208.php> (2023/4/1)

国際スポーツ栄養学会 (International Society of Sports Nutrition ; ISSN) はこのほど、エナジードリンク (energy drinks ; ED) とエナジーショット (energy shots ; ES) に対する見解 (position stand) をまとめ、同学会発行の「Journal of the International Society of Sports Nutrition」に発表-----

女性・北国在住・カルシウム摂取量の多い人は、食事からのビタミンD摂取が全死亡リスク低下と関連

<https://sndj-web.jp/news/002216.php> (2023/4/7)

日本人を対象とする研究から、女性、高緯度地域に住んでいる人、カルシウム摂取量の多い人では、食事からのビタミンD摂取量の多さが全死亡リスクの低さと関連のあることが明らかになった。国立がん研究センター 予防研究グループの研究によるもので、研究の成果が「European Journal of Nutrition」に論文掲載されるとともに、同センターのサイトにニュースリリースが掲載-----

■ その他の食品関連科学・技術情報

3D 細胞プリントで食用培養肉製造目指す共同事業体設立、大阪万博で成果披露

MONOist - 2023/3/30 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2303/30/news061.html>

大阪大学大学院 工学研究科、島津製作所、伊藤ハム米久ホールディングス、凸版印刷、シグマクシスは“3D バイオプリントによる食用培養肉製造技術に関する社会実装の具体的な取り組み”を目的とする「培養肉未来創造コンソーシアム」を設立----

■ その他の科学・技術情報

スギ材の香りが視覚的変化への「気づき」の反応を高める！ 九大などが解明

マイナビニュース - 2023/4/1 <https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230401-2640775/>

追記：視覚、嗅覚等の刺激に対するヒトの認知活動を反映する脳の一過性の電位である事象関連電位の測定により得られた知見とのことです。

疾患細胞への薬物送達に利用へ、機能性ナノシートを開発 インド

インド理科大学院(IISc)は3月2日、同学の有機化学部(OC)とマテリアル・リサーチセンター(MRC)の研究者が、疾患細胞への薬物送達において、二次元二硫化モリブデン(2D-MoS₂)のナノシートの有効性を示したと発表した。研究成果は学術誌 ACS Nano に掲載……
以上

日本語記事情報 (2023年4月号 No.2)

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、(公財)日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

(例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等)

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報 (記事見出し、出典・日付、URL)、冒頭文または記事のポイントとなる部分 (民間の情報源には了承を得た上で転載) を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 注目記事

今回は、特にありません。

■ 安全性関連情報

トランス脂肪酸、加工食品に多く含有の「人工型」のみが毒性を有する可能性－東北大

QLifePro 医療ニュース - 2023/5/25

<https://www qlifepro.com/news/20230425/trans-fatty-acid.html>

▼関連リンク・東北大 プレスリリース

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2023/04/press20230421-04-trans.html>

マーガリンなどに含まれる「人工型」トランス脂肪酸、循環器疾患等のリスクに関連

東北大は4月21日、代表的な5種類のトランス脂肪酸の毒性を比較した結果、人工型が制御・プログラムされた細胞死（アポトーシス）を強く促進する一方、天然型にはそのような作用がないことを明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院薬学研究科の平田祐介助教、柏原直樹大学院生、佐藤恵美子准教授、松沢厚教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Scientific Reports」に掲載され……

[FDA]FDAは食用の植物新品種に、食物アレルギーであるタンパク質の遺伝子を導入することの食品安全リスクに関して産業界に書簡を発行

食品安全情報 blog2 - 2023/4/19

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/04/19/171346>

19日分の最初の太見出しです。

[WHO]出版物 -細胞ベースの食品の食品安全について

食品安全情報 blog2 - 2023/4/12

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/04/12/174400>

12日分の最初の太見出しです。

[USDA]科学者が麻の実固形飼料を与えられた牛の肉を摂取することによるヒトのカンナビノール暴露の可能性を評価する

食品安全情報 blog2 - 2023/4/13

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/04/13/173150>

13日分の最初の太見出しです。

[EFSA]食品中のビスフェノール A は健康リスク

食品安全情報 blog2 - 2023/4/21

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/04/21/173044>

21 日分の上から 4 番目の太見出しです。

食品安全情報（化学物質）No. 8/ 2023（2023. 04. 12）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202308c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

今回は特に見当たりませんでした。

■ 行政・法令関連情報（その他）

食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件（案）（第 10 版食品添加物公定書関係）に関する御意見の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/4/12

<https://public-comment.e>

gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495230017&Mode=0

■ 海外公的機関情報

以下の 10 件は、[食品安全委員会](#) [食品安全総合情報システム](#)

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2023/4/13 確認) の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)

8. [米国環境保護庁\(EPA\)、PFAS の第一種飲料水規則\(NPDWR\)の規則制定について、予備的規制決定及び規則案、意見公募、並びに公聴会の通知を公表](#)

15. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品中の N-ニトロソアミン類のリスク評価に関する科学的意見書を公表](#)

- 22. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、食品のラベル表示における食事指針の標語に関するガイダンス案を公表](#)
- 23. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、規格化食品中のナトリウムを減らすために食塩代替物を許可することを提案](#)
- 26. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、グルタミン酸\(Glutaminsäure\)とグルタミン酸塩\(Glutamate\)の食品添加物としての使用に関する健康上の評価を公表](#)
- 33. [フランス食品環境労働衛生安全庁\(ANSES\)、乳児の食品サプリメントによるビタミンDの過剰摂取を回避するために、医薬品を選択するよう保護者に向けて注意を喚起](#)
- 34. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2023年3月22日~3月28日\)](#)
- 38. [国連食糧農業機関\(FAO\)、第95回FAO/世界保健機関\(WHO\)合同食品添加物専門家会議\(JECFA\)モノグラフ No.30「食品添加物規格集\(Compendium of food additive specifications\)」を公表](#)
- 44. [米国農務省食品安全検査局\(FSIS\)、天然源由来の亜硝酸ナトリウムの使用について一時的な許容量を設定することを公表](#)
- 46. [英国毒性委員会\(COT\)、PFASに関する中間ポジション・ステートメント\(初稿\)を公表](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

[矢野経済研究所、健康食品市場に関する調査、国内はコロナ禍で生まれたストレス・睡眠問題・肥満対策需要が堅調](#)

マイライフニュース - 2023/4/14 <https://www.mylifenews.net/health-medical/15540/>

矢野経済研究所は、国内の健康食品市場を調査し、各セグメント別の動向、参入企業の動向、将来展望を明らかにした。その結果、健康食品市場は拡大を続けており、国内はコロナ禍で生まれたストレス・睡眠問題・肥満対策需要が堅調で、インバウンド需要回復・海外向け健康食品にも期待できる点などが明らかと-----

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

フルーツビネガー躍進、市場全体にシナジー効果 (Zoom Up : 健康酢)

健康メディア.com - 2023/4/10 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17432

フルーツビネガー（果実酢）の台頭が健康酢市場全体にシナジー効果を与えている。火付け役となった韓国の「美酢」が、中高年層主体のビネガードリンク市場に、若年女性層を取り込むトリガーとなった。多くの企業がフルーツビネガーを上市する中、「内臓脂肪の減少」をヘルスクレームとする機能性表示食品で、コロナ太りを気に掛ける消費者の心を掴んだ企業も。一方、健康酢の代表格・黒酢も、中高年層を主体とするコアユーザーのリピートに支えられ、飲料・サプリメントとも堅調な動きを……

フェムケアやスポーツ製品が市場牽引 (特集 : ローヤルゼリー)

健康メディア.com - 2023/4/9 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17429

健康食品創成期から親しまれてきたローヤルゼリー。最盛期の 500 億円市場には届かないものの、2020 年の 200 億円台から 21~22 年は 2 年連続で 300 億円台をキープ。復調の兆しが見えてきた。今回の取材で、原料および最終製品のメーカーからは、「昨対比は横ばい」「10%程度アップした」「輸出が好調」などの声が多く聞かれた。定番のエナジーやスポーツニュートリション分野に加え、女性の健康にフォーカスしたフェムケアの用途開発にも期待が……

サプリメントのAD認証や分析機関の利用増加 (特集 : アンチ・ドーピング)

健康メディア.com - 2023/4/9 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17426

アスリートのサプリメント摂取率が増えている。アスリートは、筋力の維持・向上や疲労回復など、パフォーマンス向上のために、プロテイン、HMB、ビタミンなどサプリメントを使用する一方、摂取時には、ドーピングに細心の注意を払わなくてはならない。日本アンチ・ドーピング機構 (JADA) が公表する日本人のドーピング違反者は減少傾向に転じている。こうした背景には、スポーツ業界がドーピング撲滅に対して啓発していることや、製品の安全性を検査する第三者機関によるアンチ・ドーピング(AD)・プログラムやそれを取得する企業の役割も……

特集 : 注目の藻類由来素材

健康メディア.com - 2023/4/17

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17461

「植物性 DHA・EPA」「SDGs」「プラントベース」「免疫対策」「機能性表示」をキーワードに、海藻類（コンブ・モズク・ワカメ・アオサ海苔など）、微細藻類（ユーグレナ、スピルリナ、オーランチオキトリウム、コッコミクサ、ドナリエラなど）を由来とする機能性素材の開発・提案が活発化している。海藻由来では、「免疫」分野で注目高まるフコイダンが筆頭。日本発の機能性素材として、海外市場の開拓も進んで-----

特集：セラミド

健康メディア.com - 2023/4/18 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17469

グルコシルセラミドを配合した機能性表示食品が 170 品を超え、「肌の保湿、肌バリア機能の維持」のテーマで関与成分トップを快走している（3月31日時点）。長らく続いたマスク着用やアルコール消毒の多用などコロナ禍で肌ストレスリスクは増加傾向にあり、肌ケアは消費者ニーズの高いカテゴリーだ。また、セラミドに関する研究も進み、認知機能の改善や、免疫活性などの知見も-----

特集：カプセル技術

健康メディア.com - 2023/4/18

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17464

ハードカプセル市場では昨年、クオリカプスとロンザによる自主回収が相次ぎ、空カプセルの需給バランスが大きく変動、未だ不足状態が続いている。こうした中、インドや中国から新たな大手サプライヤーが日本市場に参入。商社を通じて国内受託メーカーへのサンプルワークがスタートしている。さまざまな原料との組み合わせで、「耐酸性」「耐熱性」「腸溶性」などの機能改善や付加価値が期待できるカプセル技術は、-----

大麦のアラビノキシランに新知見（ZOOM UP：大麦）

健康メディア.com - 2023/4/23 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17490

大麦はアラビノキシランとβ-グルカンによる腸内発酵を通じ、生理機能に影響を与えているという研究成果が昨年発表された。アラビノキシランは、短鎖脂肪酸の産生を増加させる働きをもち、大麦β-グルカンと同様に血糖値を下げるインスリンの分泌を促す働きをもつ GLP-1 分泌を促進させることがわかった。糖尿病患者の食後高血糖抑制で新たな知見も報告されており、大麦の新たな可能性が示唆され-----

ニューノーマルのエイジングケアへ（特集：抗糖化）

健康メディア.com - 2023/4/23 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17493

アフターコロナへ向かいつつあるなか、コロナ禍で慢性化した運動不足や食生活の乱れが大きな影を落としている。血糖値の上昇をはじめとした糖化ストレスリスクを高める生活習慣は、老化の促進や疾患リスクを上げると指摘されている。実際にコロナ禍での人間ドッグや健康診断では、HbA1c や BMI、中性脂肪、血糖値が悪化したことが医師のアンケートで明らかになった。糖化対策はいまや多くの消費者が気にする重要なテーマであり、ニューノーマル時代のエイジングケアの柱の一つとなりつつ……

スマホ老眼、ブルーライト、ドライアイ、目の疲労による首・肩こり対策などアイケアの代表格・ブルーベリーに商機（特集：ブルーベリー（ビルベリー））

健康メディア.com - 2023/4/23 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17486

ビルベリー由来アントシアニンを関与成分とする機能性表示食品の受理数が 100 品の大台を超えた。表示は「ピント調節機能のサポート」「目の使用による一時的な首・肩の負担軽減」「目の潤い感の維持」「目の疲労感軽減」など。アイケア素材の代表格として、着実に受理実績を積み上げている。スマホやポータブルゲーム、パソコンの普及は現代人の眼を酷使し続けている。そして、目の疲れやドライアイは、首・肩への負担やストレスに繋がっており、睡眠障害をも引き起こす。ビルベリーのさらなる市場拡大のヒントが……

睡眠、抗疲労市場にアプローチ、新市場形成へ（特集：ニンニク）

健康メディア.com - 2023/4/23 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17482

滋養強壮や疲労回復素材として広く認知されているニンニク。豊富な食経験に加え、体感の高さからブームに左右されない伝統食材として定着している。機能性研究では、睡眠障害改善、抗疲労をはじめ、動脈硬化に対する抑制効果、歯肉炎・歯周炎に対する作用、ヒト風邪症状に対する作用などが報告されている。21 年にはニンニクに含まれる S-アリススチエインの認知度向上を目的とした SAC 研究会発足も。食品開発では最新の機能性研究が報告され……

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

【チャートで見る】欧米製薬大手 2022 年の決算（1）売り上げが最も伸びた企業は？研究開発費を最も投じた企業は？

AnswersNews - 2023/4/12 <https://answers.ten-navi.com/pharmanews/25353/>

欧米の大手製薬企業 19 社の 2022 年の決算を▽売上高・純利益▽研究開発費▽主力製品の売上高▽疾患領域・事業別売上高▽地域別売上高——5 つの切り口からチャートで解説----

【チャートで見る】欧米製薬大手 2022 年の決算（2）各社の主力製品の売り上げは？主力品への依存度が高い企業は？

AnswersNews - 2023/4/14 <https://answers.ten-navi.com/pharmanews/25375/>

■ 消費者意識等の調査・分析

第一三共ヘルスケア、「健康とセルフケアの実態調査 2023」を実施、20～60 代の働く人が健康でいられると思う年齢は平均 67.7 歳に

マイライフニュース - 2023/4/19 <https://www.mylifenews.net/health-medical/16000/>

第一三共ヘルスケアは、自分自身で健康を守り対処する「セルフケア」という考え方が、人生 100 年時代の日本に重要なテーマになることを見据え、毎年、働く人を対象に「健康とセルフケアの実態調査」を行っている。今年 2 月 3 日～6 日には、「健康とセルフケアの実態調査 2023」を実施した。この結果、セルフケアの実践率は前年に比べて下がったが、5 月には新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）が 5 類感染症へ変更されることなどもあり、8 割近くが「今後セルフケアの重要性が増す」と回答した。物価上昇を実感する中で、「セルフケア」は現状を維持したい支出の第 1 位となった。また、健康でいられると思う予想健康寿命は、全体平均で 67.7 歳-----

[29602] 食生活に関するアンケート調査（第 6 回）

マイボイスコム株式会社

https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=29602

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

妊娠・授乳期の高脂肪食摂取、子の塩味嗜好性を増加させる可能性—東京医歯大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2023/4/11

<https://www.qlifepro.com/news/20230411/pregnant-woman-2.html>

▼関連リンク・東京医科歯科大学 プレスリリース

<https://www.tmd.ac.jp/press-release/20230410-1/>

胎生期・発達期の栄養状態は味覚に影響を与える？

東京医科歯科大学は4月10日、胎生期・発達期における栄養状態の変化が、塩味に対する嗜好性を増加させ、舌に存在する味細胞ではアンジオテンシンII受容体1型(AT1)の発現が上昇することを明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院医歯学総合研究科咬合機能矯正学分野の小野卓史教授と渡一平助教、Serirukchutarungsee Saranya 大学院生ら、同大大学院医歯学総合研究科病態生化学分野の井上カタジナアンナ助教、京都女子大学家政学部食物栄養学科の成川真隆准教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Scientific Reports」に掲載され-----

ストレスに強い・弱い脳の分子機構の一端を解明ー京大

QLifePro 医療ニュース - 2023/4/10

<https://www qlifepro.com/news/20230410/stress.html>

▼関連リンク・京都大学 最新の研究成果を知る

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research-news/2023-04-06>

ストレスに強い C57BL/6 マウス・弱い BALB/c マウスで検証

京都大学は4月6日、繰り返し心理社会的ストレスに晒された際に適応反応を示すか不適応反応（行動変容）を示すかの個体差を決定する、脳内メカニズムを発見したと発表した。この研究は、同大大学院医学研究科の内田周作特定准教授、稲葉啓通同博士課程学生らの研究グループによるもの。研究成果は、「Science Advances」に掲載され-----

睡眠不足に伴う腸内細菌叢の破綻に「 α ディフェンシン」が関与ー北大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2023/4/13

<https://www qlifepro.com/news/20230413/dysbiosis.html>

▼関連リンク・北海道大学 プレスリリース

<https://www.hokudai.ac.jp/news/2023/04/post-1216.html>

睡眠不足がヒトの腸内細菌叢組成に影響を及ぼすメカニズムは？

北海道大学は4月12日、腸管自然免疫の作用因子となる抗菌ペプチドの「 α ディフェンシン」が睡眠時間の短い人ほど低いことを示し、そのことが睡眠不足における腸内細菌叢の破綻と免疫系の機能に重要な菌代謝産物である酢酸や酪酸など、短鎖脂肪酸の低下に関与することを初めて明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院先端生命科学研究科の中村公則教授、同・医学研究院の玉腰暁子教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Gut Microbes」にオンライン掲載され-----

肥満による慢性腎臓病悪化のメカニズムを解明、悪化防御に働く因子も判明—名大

QLifePro 医療ニュース - 2023/4/17

<https://www qlifepro.com/news/20230417/190410.html>

▼関連リンク・名古屋大学 研究成果発信サイト

<https://www.nagoya-u.ac.jp/researchinfo/result/2023/04/post-485.html>

名古屋大学は4月14日、脂肪組織由来分泌因子であるアディポリンの慢性腎臓病に対する防御作用とそのメカニズムを明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院医学系研究科分子循環器医学（興和）寄附講座の大橋浩二特任准教授、大内乗有特任教授、循環器内科学の方麗欣大学院生、室原豊明教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「iScience」にオンライン掲載され……

疲れると眠くなるのはなぜ？ 眠りのトリガーと睡眠を促す分子メカニズムを発見

大学ジャーナルオンライン - 2023/4/10 <https://univ-journal.jp/218168/>

たくさん運動したり働いたりして疲れた日は、普段よりも眠くなるという経験が誰しもあるのではないだろうか。今回、「体の疲れがなぜ眠気につながるか」の仕組みが、筑波大学および東京大学の研究でわかっ……

睡眠不足が腸内細菌叢を乱すメカニズム、北海道大学が初めて解明

大学ジャーナルオンライン - 2023/4/15 <https://univ-journal.jp/219213/>

以下の4件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2023年4月8日～25日）から選定したものです。

食事性炎症指数が高い食生活は、睡眠中に目覚めやすく再入眠に時間がかかりやすい

<https://sndj-web.jp/news/002217.php> (2023/4/8)

炎症を誘発するような食事をとっている人は、就床時刻と起床時刻が遅くて、中途覚醒時間（睡眠中に目覚めてしまい再び眠れるまでの時間）が長いという研究結果が、米国から報告された。これらの関係を人種・民族別でみると、アフリカ系アメリカ人でより相関が強いと……

クレアチン摂取でベンチプレスのパフォーマンスが向上するぶん、回復には時間がかかる？

<https://sndj-web.jp/news/002226.php> (2023/4/17)

ベンチプレスのパフォーマンスと回復に対するクレアチン摂取の影響を、二重盲検試験でテストした結果が報告された。対プラセボで短期間での有意なパフォーマンスの向上が認められたものの、それだけに回復が遅延する可能性を示唆する結果となったと……

カロリー制限による減量、筋肉量とパフォーマンスへの影響が少ない食事の摂り方とは？

<https://sndj-web.jp/news/002230.php> (2023/4/21)

カロリー制限による減量は筋肉量やパフォーマンスの低下につながるリスクがあるが、そのようなマイナスの影響を抑制するための食事の摂り方のヒントになりそうな研究結果が報告された。30%の摂取制限をしたうえで、タンパク質を増やす群、ケトン体エステルを摂取する群、およびプラセボ群という3群で4週間介入した無作為化比較試験の結果を紹介……

絶食後の運動前にタンパク質を摂っても、脂質酸化量は低下しない 女性での研究

<https://sndj-web.jp/news/002233.php> (2023/4/25)

絶食後に運動をすることで脂質酸化が亢進し、減量と体組成に影響を与えることができる。一方、運動前に炭水化物を摂取した場合はその影響が抑制されるが、タンパク質を摂取した場合は有意な影響が生じないとする、レクリエーションレベルのトレーニングを行っている女性対象の研究結果が報告され……

■ その他の食品関連科学・技術情報

雪下野菜から着想、イチゴの鮮度を3カ月保つ新たな冷却庫「ZEROCO」とは

MONOist - 2023/4/13 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2304/13/news066.html>

ZEROCOは2023年4月12日、東京都内のZEROCOラボで会見を開き、独自の鮮度保持技術を備えた冷却庫「ZEROCO（ゼロコ）」の事業を始動したと発表……

■ その他の科学・技術情報

購買に至るまでのデザイン課題を見える化して改善へと導くクラウドサービス

MONOist - 2023/4/18 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2304/18/news016.html>

コニカミノルタは2023年4月13日、最先端の感性脳工学と同社独自の画像処理技術を利用したデザイン解析クラウドサービス「EXplainable 感性」を、同年4月3日から提供開始したことを発表-----

背景画像の「冷たさ」が商品の「新しさ」知覚の向上に寄与、上智大学などが検証

大学ジャーナルオンライン - 2023/4/17 <https://univ-journal.jp/219309/>

上智大学、青山学院大学、中央大学、ボンド大学（オーストラリア）の共同研究グループは、新製品の広告に「冷たさ」を連想させる背景画像を用いた場合、製品に対する「新しさ」の知覚が高まることを明らかに-----

体内のアミノ酸の左右のバランスを決める仕組みの解明ー左右を反転する共生細菌とのせめぎ合いー

慶應義塾大学医学部 - 2023/4/12

慶應義塾大学医学部薬理学教室の笹部潤平専任講師、権田裕亮共同研究員（研究当時。現在、順天堂大学医学部附属順天堂医院助手）、安井正人教授らの研究グループは、九州大学薬学研究院の浜瀬健司教授、順天堂大学小児科学講座の清水俊明教授らとの共同研究で、哺乳類は共生細菌と競合して左右のアミノ酸のバランスを保つことで体内環境を維持していることを明らかに-----

薬剤耐性菌に有効なペプチドを特定へー計算モデルでシミュレーション インド

インド科学技術ニュース - 2023/4/11

https://spap.jst.go.jp/india/news/230402/topic_ni_03.html

非可食バイオマスを用いた糖製造技術の基礎を確立、持続可能な原料から樹脂を創出

東レは 2023 年 4 月 17 日、DM 三井製糖とともにタイで実証を行い、製糖工場が発生するサトウキビの絞りかす（余剰バガス）とでんぷん工場が発生するキャッサバ芋の絞りかす（キャッサバパルプ）などのバイオマスを原料を用いて、非可食植物由来の糖を製造する基本技術を確立したと発表-----

果物の皮と炭酸水でハイドロゲルの調製が簡便に！ 理科大が発表

マイナビニュース - 2023/4/19

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230419-2658133/2>

■ その他

英文情報サイト「Food Navigator-asia」に、英文記事の日本語訳が 4 月 13 日付けで掲載されていましてご紹介いたします。タイトルのクリックで本文が閲覧可能です。

[ブランニュー：Yeo's、Asahi、Nestle、その他のビッグブランド](#)

[パッケージ ハプニング：アサヒの梱包に関する洞察、台湾の乳児用粉ミルクのロゴ導入、韓国
の麻のラベル表示など](#)

[スタートアップ スポットライト：Black Bag Roasters、DAIZ、Swiftlet など](#)

[今が旬：ASEAN と EU の貿易戦争の可能性、オセアニアのカフェイン懸念、パーム油の持続
可能性](#)

[ジャパン フォーカス：アサヒの 10 億ドル債権、福島被災食品の輸出、食肉代替品の開発](#)

以上

健康食品等に関する

日本語記事情報（2023 年 5 月号 No.1）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介いたします。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 注目記事

島津製作所が食品／飲料メーカーの製品開発や研究を支援するラボ開設

MONOist - 2023/4/27 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2304/27/news073.html>

島津製作所は、農業・食品産業技術総合研究機構と共同で、食品、飲料メーカーの製品開発や研究を支援する「NARO 島津テストングラボ」を開設した。食品、飲料メーカーの研究者はラボに設置された最新の分析機器を研究に利用でき……

加工食品のトランス脂肪酸だけが持つ毒性と解毒因子を発見

Beyond Health - 2023/4/28

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/news/weekly/00157/>

■ 安全性関連情報

食品安全情報（化学物質） No. 10/ 2023（2023. 05. 10）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202310c.pdf>

今回公表分では以下の4件が注目情報として挙げられています。

【EFSA】食品中のビスフェノール A は健康リスク

【EMA】ビスフェノール A に関する EFSA と EMA の意見相違についての報告書

【BfR】EFSA によるビスフェノール A の再評価に関する EFSA と BfR の意見相違についての報告書

【BfR】ビスフェノール A : BfR は健康影響に基づく指標値を提案、完全リスク評価には現在の暴露データが必要である

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

インターネットにおける健康食品等の虚偽・誇大表示に対する改善指導について(令和5年1月~3月)

消費者庁 - 2023/4/25

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/extravagant_advertisement/assets/representation_cms213_230425_01.pdf

■ 行政・法令関連情報（その他）

「日本食品標準成分表（八訂）増補2023年」の公表について

文部科学省 - 2023/4/28 https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_01241.html

文部科学省科学技術・学術審議会資源調査分科会は、日本食品標準成分表2020年版（八訂）のデータの一部を更新・追記したので、「日本食品標準成分表（八訂）増補2023年」として公表します

- [「日本食品標準成分表（八訂）増補2023年」の公表について \(PDF:434KB\)](#) 
- [日本食品標準成分表・資源に関する取組](#)

第106回コーデックス連絡協議会(開催案内)

厚生労働省 - 2023/5/9 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_32741.html

厚生労働省、消費者庁及び農林水産省は、令和5年5月30日（火）に、コーデックス委員会における活動状況の報告と検討議題に関する意見交換を行うため、「第106回コーデックス連絡協議会」を開催します。なお、今回は、ウェブ上での傍聴を受け付け……

■ 海外公的機関情報

ジェットロ、PFAS 関連規制を解説するオンラインセミナー開催（米国、日本）

日本貿易振興機構（ジェットロ） - 2023/5/2

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/05/2d2191865e0671d6.html>

以下の 9 件は、**食品安全委員会 食品安全総合情報システム**

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2023/4/26 確認) の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧ください。](#)

1. [米国環境保護庁\(EPA\)、環境中の PFAS への取り組みについての規則提案の事前通知\(ANPRM\)を公表](#)
4. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、食物アレルギーであるタンパク質の遺伝子を食品用の植物新品種に導入することに関する食品安全上のリスクについて、産業界宛に文書を発出](#)
9. [米国環境保護庁\(EPA\)、パーフルオロデカン酸\(PFDA\)及び関連塩類についての IRIS 毒性評価の意見募集及び外部レビュー用草案を公表](#)
23. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、欧州食品安全機関\(EFSA\)が食品中のニトロソアミンの健康リスクについて新たな見解を発表したことを公表](#)
24. [英国健康安全局\(HSE\)、パーフルオロ及びポリフルオロアルキル化合物\(PFAS\)規制管理オプション分析技術文書を公表](#)
36. [世界保健機関\(WHO\)、JECFA による食品中の特定の汚染物質の安全性評価 \(WHO 食品添加物シリーズ 82\)を公表](#)
38. [世界保健機関\(WHO\)、第 93 回 JECFA\(2022 年\)の報告書である「特定の食品汚染物質の評価\(WHO テクニカルレポートシリーズ No.1040\)」を公表](#)
43. [国連食糧農業機関\(FAO\)、「FAO の戦略的枠組み 2022-2031 における食品安全に向けた FAO の戦略的優先事項」を公表](#)
51. [国連食糧農業機関\(FAO\)、報告書「すべての人に安全な食品\(FAO の食品安全に関する活動：科学・基準・適正規範\)」を公表](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

TPC マーケティングリサーチ、健康食品の通販事業戦略について調査、2022 年の市場は前年比 2.0%増の 6077 億円

マイライフニュース - 2023/5/12 <https://www.mylifenews.net/health-medical/18127/>

TPC マーケティングリサーチは、健康食品の通販事業戦略について調査を実施した。その結果、2022 年（2022 年 1 月～2022 年 12 月実績）の通販健康食品市場は前年比 2.0%増の 6077 億円に達し……

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

美味しさと機能性で砂糖代替甘味料が定着（特集：機能性糖質・甘味料）

健康メディア.com - 2023/5/9 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17556

機能性糖質・甘味料市場が活況だ。低 GI、カロリーオフ、整腸作用、持久力向上などの機能を有する糖質が、製菓や飲料に利用され、機能性糖質・甘味料の市場を押し上げている。砂糖は、三大栄養素の 1 つで、なくてはならない成分である一方、過剰摂取による疾病リスクがメディア等を通して一般消費者にも広がっている。製糖メーカーや食品原料メーカーは、砂糖に代わる糖質・甘味料の機能性研究や用途提案を……

第 3・第 4 の「免疫」機能性表示に期待（特集：免疫サポート）

健康メディア.com - 2023/5/9 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17564

「免疫」での機能性表示食品の誕生により意識が高まり、日頃の「免疫ケア」がより身近になりつつある。2020 年 8 月にキリングroupの「iMUSE（イミューズ）」シリーズが初めて「免疫」表示で届出受理し、第 2 の届出受理が期待されていたが、アサヒグループ食品が 2022 年 12 月に『ディアナチュラゴールド L-92 乳酸菌&食物繊維』（機能性関与成分：L-92 乳酸菌、グアーガム分解物）で届出受理された。免疫商材は、これまではがん患者をはじめ、病者を対象に販売する例も多かったが、免疫を高めることが健康維持に役立つという認識が広がったことで、市場はいつその成長が期待され……

睡眠、フェムケア切り口に需要拡大（特集：プラセンタ）

健康メディア.com - 2023/5/9 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17537

体感性が高く女性に人気のプラセンタ。ブタやウマの胎盤から抽出・精製したプラセンタエキスのほか、サケ卵巣膜や植物胎座由来のプラセンタ洋物質が流通。最近では、フルーツ由来のプラセンタ様物質も登場している。機能性表示食品では、「肌」分野の製品が受理されているほか、機能性表示対応原料を目指し、抗疲労、睡眠の質改善などのエビデンスを蓄積する企業も。現在、プラセンタサプリメント、飲料は40代以上の女性がコア層。プラセンタ入りのドリンクは依然として人気アイテムに-----

オーラル、フェムケアとしても期待（特集：コエンザイム Q10）

健康メディア.com - 2023/5/9 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17549

「強い抗酸化作用」「エネルギー産生促進」という2大作用を有するCoQ10。食薬区分の改正から20年が経つ今も、体感、認知度の高さに加え、豊富なエビデンスを背景に安定市場を形成する。還元型、酸化型原料を用いたサプリメントをはじめ、飲料、ゼリー、グミなど様々な商品に利用されている。機能性表示食品では、還元型CoQ10が牽引。受理件数が最も多い「疲労感の軽減」のほか、オーラルケア、オーラルフレイル対策として期待される「お口の潤いに役立つ」や、「睡眠の質の向上」「ストレスの軽減に役立つ」といったヘルスクレームも-----

機能性表示食品はNAGが伸長（特集：グルコサミン）

健康メディア.com - 2023/5/9 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17542

長年にわたり関節サポート素材の代表格として君臨するグルコサミン。原料サプライヤー各社への取材から国内流通量は、昨年同様1,300t台後半と推測される。流通量に大きな落ち込みはなく、競合素材が台頭する中でも高齢者のグルコサミンに対する信頼は高く、実力素材として底力を示した。一方、原料価格はグルコサミンも上昇傾向にある。機能性表示食品は、「関節」「肌」カテゴリーで130品を突破。ここ2年は、原料サプライヤーによるエビデンスデータが蓄積され、N-アセチルグルコサミン(NAG)を機能性関与成分とした受理件数が増え、-----

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

弘前大学と江崎グリコが共同研究講座「体内環境モデリング研究講座」を開設

江崎グリコ株式会社 - 2023/5/15

https://www.glico.com/assets/files/NR20230515_1.pdf

国立大学法人弘前大学（学長：福田眞作、以下「弘前大学」）と、江崎グリコ株式会社（代表取締役社長：江崎悦朗、本社：大阪府大阪市、以下「江崎グリコ」）は、2023年4月1日付で、共同研究講座『体内環境モデリング研究講座（英語表記：Department of mathematical health modeling）』を開設し、5月15日に弘前大学において開設式を-----

協和、肌エイジングの進行を可視化するアプリ開発で(株)パナソニックシステムネットワークス開発研究所と協業

肌検査基準策定には山田秀和教授（所属：近畿大学医学部）が参画

株式会社協和 - 2023/4/25

<https://www.kyowa-group.co.jp/wp-content/uploads/2023/04/pr-20230425.pdf>

エイジングケア美容液 No.1※ブランドの「fracora(フラコラ)」を運営する株式会社協和（東京都新宿区、以下協和）は、株式会社パナソニックシステムネットワークス開発研究所と協業し、肌エイジングの進行を可視化するスマートフォンアプリの開発を開始したことをお知らせいたします。また、山田秀和教授（所属：近畿大学医学部）が肌検査基準策定のアドバイザーとして参画いただいています-----

東京工業大学生命理工学院と協和キリンが創薬技術の研究開発に関する連携を開始

キリンホールディングス株式会社 - 2023/4/28

https://www.kyowakirin.co.jp/pressroom/news_releases/2023/pdf/20230427_01.pdf#_ga=2.2279348.542922329.1683504645-2022919469.1683504645

協和キリン株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：宮本昌志、以下「協和キリン」）は、東京工業大学生命理工学院（学院長：梶原将）と創薬技術に関する共同研究と組織的連携のための契約を締結したことをお知らせします。本契約においては、東京工業大学生命理工学院が有する卓越した技術シーズと協和キリン独自の Technology-driven 創薬の融合により、日本発の画期的な医薬品創製を実現することを目的として-----

■ 消費者意識等の調査・分析

TPC マーケティングリサーチ、青汁の摂取実態と今後のニーズについて調査、現在青汁を摂取している人は 11.3%

マイライフニュース - 2023/5/1 <https://www.mylifenews.net/drink-food/17225/>

TPC マーケティングリサーチは、青汁の摂取実態と今後のニーズについて調査を実施した。その結果、現在青汁を摂取している人は 11.3%となり、前回調査を行った 2021 年と比べると 0.8pt 低下していることが分かった。

今回、青汁の摂取実態と今後のニーズを探るべく、「直近 6 ヶ月以上継続して青汁を摂取している 20~60 代の男女 1232 人」を対象にアンケート調査を実施-----

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

納豆菌による健康への良い影響、分子メカニズムの一端が明らかに一大阪公立大

QLifePro 医療ニュース - 2023/4/27

<https://www qlifepro.com/news/20230426/bacillus-subtilis-natto.html>

▼関連リンク・大阪公立大学 プレスリリース

https://www.omu.ac.jp/info/research_news/entry-05646.html

線虫をモデル生物に、納豆菌が宿主の寿命に与える影響を解析

大阪公立大学は 4 月 25 日、線虫 *Caenorhabditis elegans* (*C. elegans*) を用いて納豆菌が宿主の寿命に与える影響を検証した結果、納豆菌を与えた線虫の方が、標準餌を与えた線虫よりも寿命が有意に延伸することを明らかにしたと発表した。この研究は、同大学院生活科学研究科の寺本奈央氏（202 年前期博士課程修了）、大阪公立大学大学院生活科学研究科の和田崇之教授、中台（鹿毛）枝里子教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「*Journal of Applied Microbiology*」にオンライン掲載され-----

血糖値上昇時の食欲亢進、肝臓の「飢餓から命を守る仕組み」が関与一東北大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2023/5/8

<https://www qlifepro.com/news/20230508/insulin-liver-food-shortages.html>

▼関連リンク・東北大学 プレスリリース・研究成果

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2023/04/press20230428-01-kiga.html>

飢餓の際に無駄なカロリー消費を減らし食欲を増やす仕組み、詳細は不明

東北大学は 4 月 28 日、マウスを用いて、飢餓の際に必要な以上のカロリー消費を抑え食欲を高めることで生命を守る仕組みを発見し、この仕組みに肝臓が非常に重要な役割を担っていることを解明したと発表した。この研究は、同大学院医学系研究科糖尿病代謝内科学分野の高橋圭助教（兼 東北大学病院糖尿病代謝科）、片桐秀樹教授、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子内分泌代謝学分野の山田哲也教授、山形大学医学部内科学第二講座の上野義之教授、東北大学大学院医学系研究科消化器病態学分野（兼 東北大学病院消化器

内科)の正宗淳教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Cell Reports」にオンライン掲載され----

高齢期の健康維持に、食事のタンパク質比率 25~35%が有用な可能性 —都長寿研ほか

QLifePro 医療ニュース - 2023/5/10

<https://www.qlifepro.com/news/20230510/protein-elderly.html>

▼関連リンク・早稲田大学 topic <https://www.waseda.jp/top/news/90022>

高齢期の健康維持や、健康長寿に理想的なタンパク質比率は不明だった

早稲田大学は5月8日、高齢期に向けた健康の維持にとって最適な食事のタンパク質比率が25~35%であることを明らかにしたと発表した。この研究は、東京都健康長寿医療センター研究所の石神昭人副所長ら、早稲田大学の近藤嘉高講師ら、株式会社ニチレイフーズの青木仁史研究開発部付部長、東京大学の高橋伸一郎教授らとの共同研究によるもの。研究成果は、「GeroScience」の電子版に掲載され-----

ミトコンドリアに薬を運ぶナノカプセルで病気を撃退 ~ミトコンドリアにコエンザイムQ10を運ぶ抗酸化療法の開発に成功~

北海道大学

科学技術振興機構 (JST) - 2023/5/11

<https://www.jst.go.jp/pr/announce/20230510/index.html>

腸内細菌と肥満・糖尿病を結ぶメカニズム

理化学研究所 - 2023/5/15

https://www.riken.jp/pr/closeup/2023/20230515_1/index.html

近年、テレビ番組や健康雑誌などでも腸内細菌の重要性が取り上げられるようになっていきます。健康増進に貢献する働きが報告される一方で、病気と腸内細菌の関係を指摘する研究も数多くあります。しかし、腸内細菌が私たちの健康に影響を及ぼす具体的な仕組みは十分に分かっていません。大野 博司 チームリーダーらは、腸内細菌の一種、FIが肥満や糖尿病を悪化させるメカニズムを明らかにし、2023年1月に発表-----

新たなオートファジー経路を発見

財経新聞 - 2023/5/15 <https://www.zaikei.co.jp/releases/2049569/>

— 革新的技術が明らかにした細胞の恒常性を維持する仕組み —

順天堂大学大学院医学研究科器官・細胞生理学の小松雅明 教授、森下英晃 准教授らの研究グループは、細胞の恒常性（正常な働き）(*1)を維持する仕組みとして、新たなオートファジー経路を発見しました。研究グループは、細胞内の大規模な分解システムとして知られるオートファジーによって分解されるたんぱく質を効率よく精製し同定する革新的手法を開発しました。その結果、細胞内の巨大なたんぱく質複合体「ヴォルト」が新たなオートファジー経路により分解されること、ヴォルトの分解不全は肝細胞がんに関連することを見出しました。本研究成果はがんや神経変性疾患などのオートファジー関連疾患の発症機序の解明につながることで期待され-----

子どもの「良い歯ならびの土台づくり」に大切なのは正しく噛む習慣づくり。1日2枚、大きな形状で適度な弾力をもつグミの摂取で噛む力を高められる可能性を確認！

ライオン株式会社 - 2023/4/24

https://doc.lion.co.jp/uploads/tmg_block_page_image/file/8720/20230424_01.pdf

ライオン株式会社（代表取締役社長・竹森 征之）は、日本大学松戸歯学部 歯科矯正学講座 根岸慎一教授（以下、日本大学）と共同で、「良い歯ならびの土台づくり」が重要な6～12歳の児童を対象に、一般のグミと比べて、サイズが大きく弾力と硬さを有する扁平形状グミ（以下、硬性グミ）の摂取による、口腔機能への影響を調査しました。その結果、硬性グミを1日2枚、4週間摂取することで、咀嚼力（食べ物を噛み切る・砕く・混ぜる力）、口唇閉鎖力（口を閉じる力）、咬合力（奥歯で噛みしめる力）といった口腔機能が向上する可能性を確認し-----

皮膚のオートファジーの活性化により健全な角層の形成が可能に ユーカリエキスとビルベリーエキスにオートファジー活性化作用を発見

花王株式会社 - 2023/4/27

<https://www.kao.com/jp/newsroom/news/release/2023/20230427-001/>

花王株式会社（社長・長谷部佳宏）生物科学研究所は、オートファジーの活性が低下することにより、表皮の恒常性が損なわれ、皮膚の潤いやバリア機能を担う角層の形成（角化）が乱れることを明らかにしました。さらには、オートファジーの活性を高めることで、表皮角化の恒常性が維持される可能性が示されました。その結果に基づき、オートファジーの活性を高めることで、表皮角化を促進させる有望な植物エキスを見いだしました。今回の研究成果の一部は、International Journal of Molecular Sciences*1、および日本薬学会 第143年会（2023年3月25～28日・北海道）にて発表して-----

*1 「Autophagy declines with premature skin aging resulting in dynamic alterations in skin pigmentation and epidermal differentiation」 Int. J. Mol. Sci. 21: 5708 (2020).

名古屋大学との産学協同研究講座において

ビフィズス菌 Bifidobacterium adolescentis SBT2786 が睡眠を 促進することを確認 -学術雑誌「Genes to Cells」に掲載されました-

雪印メグミルク - 2023/4/28 <https://www.meg-snow.com/news/2023/18595/>

国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学（総長：杉山 直、以下「名古屋大学」）と雪印メグミルク株式会社（代表取締役社長：佐藤 雅俊、本社：東京都新宿区、以下「雪印メグミルク」）は、協同で雪印メグミルク保有のビフィズス菌 Bifidobacterium adolescentis SBT2786（以下、BA2786）※1 が睡眠促進作用を有することを、ショウジョウバエを用いた研究で発見し、学術雑誌「Genes to Cells」に発表……

長崎大学が、「乳酸菌 L.ラクティス プラズマ（プラズマ乳酸菌）」を用いた新型コロナウイルス感染症（COVID-19）患者に対する特定臨床研究成果を発表

～免疫細胞 pDC が維持され、ウイルスの早期減少、嗅覚・味覚障害の改善を確認～

キリンホールディングス株式会社 - 2023/4/28

https://www.kirinholdings.com/jp/newsroom/release/2023/0428_01.html

国立大学法人長崎大学（学長 河野 茂、以下長崎大学）は、キリンホールディングス株式会社（社長 磯崎 功典、以下キリン）が研究開発を行っている「乳酸菌 L.ラクティス プラズマ（以下プラズマ乳酸菌）」※1 を用いた、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）患者に対する特定臨床研究成果を、4月30日（日）の第63回日本呼吸器学会学術講演会で発表します。本特定臨床研究における知見は、長崎大学・キリン共同で特許出願を行って……

ビタミンD サプリの内服でがん死亡率が12%減少 慈恵医大が実験結果を発表

マイナビニュース - 2023/5/9

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230509-2675258/>

たるみ改善の鍵・立毛筋の活性化に抗重力システム「ダイナミックベルト」に沿ったストレッチが有効 ～皮ふ内部に存在する立毛筋の流れに着目した

IFSCC4 大会連続最優秀賞受賞の最新知見～

株式会社 資生堂 - 2023/5/16

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003621>

資生堂は、国際医療福祉大学 医学部形成外科学 松崎恭一主任教授と、自治医科大学 生理学研究所との共同研究により、「たるみ」を引き起こす重力に抵抗する、皮ふ内部の抗重力システム「ダイナミックベルト™」に流れがあることを発見しました。また、その流れに沿って皮ふを伸展(ストレッチ)することで、立毛筋※1が活性化することを確認し、たるみ改善に繋がる可能性を見出しました。さらに、当社は立毛筋を構成する平滑筋細胞を活性化成分として、甘草抽出物と木莓果実由来の抽出液が有用であることを確認しました。本研究は、R&D 戦略 3 本柱の 1 つである「Skin Beauty INNOVATION」のもと、シミ・くすみ、しわ、たるみ、毛穴など、長年に渡りお客さまが悩む「不変の肌悩み」の原因を解明しソリューションを開発することを目的として進めました。研究成果の一部は、「第 31 回国際化粧品技術者会連盟(IFSCC)※2 横浜大会 (2020/10/21-30)」で発表し最優秀賞を受賞しており、他の「抗重力サイエンス V」知見と合わせて 4 大会連続での最優秀賞受賞を実現して……

以下の 4 件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事 (2023 年 4 月 26 日~5 月 16 日) から選定したものです。

栄養上のエルゴジェニック効果を考える際に留意すべきチェックリスト

<https://sndj-web.jp/news/002234.php> (2023/4/26)

スポーツパフォーマンスを高めるためにサプリメントなどを摂取しているアスリートは少なくないが、それらの利用に際して考慮すべき生理学的側面をまとめた、カナダの研究者によるレビュー論文が発表された。要旨を紹介……

運動後の回復力をアップする栄養素・化合物 文献レビュー

<https://sndj-web.jp/news/002243.php> (2023/4/28)

ニュージーランドの研究者による、運動後の回復に焦点を当てた栄養素や栄養補助食品についてのレビュー論文が、昨秋公開されている。今回はその要旨を紹介……

タンパク質の摂取量を 3 食均等にすると、効率よく筋力・筋持久力が向上する可能性

<https://sndj-web.jp/news/002253.php> (2023/5/10)

タンパク質を一度にまとめて摂るよりも、3 食のばらつきを少なく、まんべんなく摂るほうが、筋力や筋持久力の維持・向上には良いことを示す研究結果が昨年報告されている。米国の研究者による……

アジア人を含む人種別にウォーキング・ランニングの消費エネルギー量を予測する計算式の開発

<https://sndj-web.jp/news/002255.php> (2023/5/12)

ウォーキングやランニングによる消費エネルギーを人種別に検討し、予測式を開発した研究論文が昨年報告されている。著者らは、疾患コントロールなどのための運動処方といった公衆衛生戦略に役立てられるとして----

■ その他の食品関連科学・技術情報

食事の「栄養学的な質」が高い人ほど、好き嫌いが少ない傾向—東大

QlifePro 医療ニュース - 2023/4/27

<https://www qlifepro.com/news/20230427/nutrition-japan.html>

▼関連リンク・東京大学 プレスリリース

<https://www.u-tokyo.ac.jp/content/400213992.pdf>

日本人の食の栄養学的質と、「価値観・知識・技術・行動」との関連を調査

東京大学は4月26日、日本人成人2,231人を対象に詳細な質問票調査を実施し、食事の「栄養学的な質」と、食に関する価値観・知識・技術・行動との関連を調べた結果を発表した。この研究は、同大学院医学系研究科社会予防疫学分野の村上健太郎助教、篠崎奈々客員研究員、佐々木敏教授らの研究グループ（所属と職位は研究当時）によるもの。研究成果は、「British Journal of Nutrition」に掲載されて----

匂いを検知する嗅神経回路、形成に重要なRNA結合タンパク質を同定—新潟大ほか

QlifePro 医療ニュース - 2023/4/27

<https://www qlifepro.com/news/20230427/hnrnpab.html>

▼関連リンク・新潟大学 ニュース

<https://www.bri.niigata-u.ac.jp/research/result/001938.html>

神経軸索など核から離れてタンパク質を発現する「局所翻訳」、仕組みや役割は不明

新潟大学は4月26日、匂いの認識を担う嗅神経回路の形成にRNA結合タンパク質hnRNP A/Bが重要な役割を担うことを明らかにしたと発表した。この研究は、同大脳研究所動物資源開発研究分野の福田七穂准教授、小田佳奈子助教、笹岡俊邦教授、腫瘍病態学分野の武井延之准教授、大学院医歯学総合研究科機能制御学分野の福田智行准教授、理化学研

研究所脳神経科学研究センターの吉原良浩チームリーダー、東京大学大学院農学生命科学研究科の東原和成教授、ニューヨーク大学アブダビ校/ストックホルム大学の Piergiorgio Percipalle 博士、アメリカ国立衛生研究所の Kevin Czaplinski 博士らの研究グループによるもの。研究成果は、「Cell Reports」にオンライン掲載されて-----

大量飲酒は腎機能低下リスクと判明、逆に適度な飲酒は予防因子の可能性－阪大

QlifePro 医療ニュース - 2023/4/26

<https://www.qlifepro.com/news/20230426/heavy-drinking-2.html>

▼関連リンク・大阪大学 ReSOU リソウ 研究情報

https://resou.osaka-u.ac.jp/ja/research/2023/20230424_1

大量飲酒が腎機能に及ぼす影響はほとんど評価されていなかった

大阪大学は4月24日、1日あたり日本酒3合相当（アルコール約60g）以上の大量飲酒は、男性の腎機能低下のリスク因子であることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大キャンパスライフ健康支援・相談センターの山本陵平教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Nutrients」に掲載されて-----

ハウレンソウの収穫量を1.4倍とする植物成長促進分子を開発、CO2で育つ仕組みとは

MONOist - 2023/4/27 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2304/27/news062.html>

パナソニック ホールディングスは、2024年度の上市を目指し、野菜の収穫量を増加する植物成長促進分子「Novitek」の開発を進めて----

東大などがマツタケのゲノムの完全解読を達成、人工栽培などに期待

マイナビニュース - 2023/5/15

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230515-2680015/>

■ その他の科学・技術情報

MILIZE、花王の「仮想人体生成モデル（VITA NAVI）」を活用したAI健康可視化ツールをリリース

IoT News - 2023/5/9 <https://iotnews.jp/medical-healthcare/225063/>

ドコモ、スマホに蓄積されたデータをもとに免疫力の変化を推定・予測する「免疫力推定 AI」を開発

IoT News - 2023/5/9 <https://iotnews.jp/medical-healthcare/225016/>

海外で活用進む「過去の治験データで外部対照群を構築」…リアルワールドデータと何が違う？

AnswersNews - 2023/4/26 <https://answers.ten-navi.com/pharmanews/25456/>

近年、活用への動きが活発化している臨床試験の外部対照群（臨床試験に参加していない患者で構成された対照群）。その中心は、疾患レジストリなどのリアルワールドデータ（RWD）ですが、海外では過去に行われた臨床試験のデータを活用する試みが進んでいます。RWD とは何が違い、どんな活用が期待できるのか。治験で収集された臨床データをもとに外部対照群を構築するサービスを提供する米メディデータ、Medidata AI チームでシニアメディカルディレクターを務めるエリザベス・ラumont氏に話を聞き……

■ その他

以下の5件は、英文記事情報サイト「Food Navigator-asia」に5月11日付けで掲載された英文記事の和訳版です。タイトルのクリックで本文を閲覧頂けます。

[より健康的な選択： Nutri V アップサイクルスナック、Junlebao プロバイオティクスヨーグルト、体に良い米麺の革新など](#)

[サステナビリティ抜粋： Nestle Malaysia のサステナビリティの進捗状況、アサヒのプラネットポジティブのプラン、UAE の食品廃棄物プロジェクト](#)

[トレンドトラッカー： Mondelez のスナッキング、コーヒーのイノベーション、新しい紅茶のトレンドなど](#)

[安全第一： インドの偽造アルコール、培養肉の誤解、韓国の食品汚染の懸念など](#)

[ジャパン フォーカス： キリンと Blackmores の取引、日本の消費者の購買原動力、ゼネラル・オイスターのニュートラの試みなど](#)

以上

健康食品等に関する 日本語記事情報（2023年5月号 No.2）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 注目記事

食への価値観や知識・技術と、実際に食べている物の栄養学的質との関連 国内成人 2,231 人を調査

スポーツ栄養 Web - 2023/5/23 <https://sndj-web.jp/news/002264.php>

日本人の男性では、食の栄養学的質が高い人ほど有機食品を重視し、食に関する好き嫌いが少ない傾向にあり、女性では、食の栄養学的質が高い人ほど健康を重視し料理技術が高く、好き嫌いが少ない傾向があるとする研究結果が発表された。東京大学の研究グループの研究によるもので、詳細が「British Journal of Nutrition」に論文掲載されるとともに、同大学のサイトにプレスリリースとして掲載され-----

■ 安全性関連情報

食品安全情報（化学物質）No. 11/ 2023（2023. 05. 24）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202311c.pdf>

今回分では、次の見出し項目が「注目記事」として挙げられていました。

【WHO】 WHO は新たに発表したガイドラインで体重管理のためにノンシュガー甘味料を使用しないよう助言

このほか、目に付いた見出し項目は、以下の通りです。

【EFSA】 欧州食品安全機関

1. 細胞培養由来食品の安全性—科学的評価の準備が整う

【BfR】 ドイツ連邦リスク評価研究所

2. 多くの人々がマイクロプラスチックについて懸念している

【FDA】 米食品医薬品局

9. 主要な食品アレルゲン表示と交差接触に関するコンプライアンスポリシーガイドの草案を発表

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

株式会社 W-ENDLESS に対する景品表示法に基づく課徴金納付命令について

消費者庁 - 2023/5/19

<https://www.caa.go.jp/notice/entry/033262/>

消費者庁は、本日、株式会社 W-ENDLESS に対し、同社が供給する「Dr.味噌汁」と称する食品に係る表示について、景品表示法第 8 条第 1 項の規定に基づき、課徴金納付命令を发出……

■ 行政・法令関連情報（その他）

「特別用途食品の表示許可等について」の一部改正案に関する意見募集の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/5/19

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=235080069&Mode=1>

「りんごストレートピュアジュースの日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/5/25

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=550003520&Mode=1>

「果実飲料の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/5/25

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=550003519&Mode=1>

「にんじんジュース及びにんじんミックスジュースの日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/5/25

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=550003518&Mode=1>

■ 海外公的機関情報

以下の3件は、2023年5月16日の食品安全情報 blog2 で紹介されていた情報です。

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/05/16/174307>

[WHO]出版物

-成人と子どもの不健康な体重増加を予防するための総脂肪摂取：WHOガイドライン

-成人と子どもの炭水化物摂取：WHO ガイドライン

SMC UK

体重管理あるいは非伝染性疾患リスク削減のために砂糖ではない甘味料を使わないように助言する WHO のガイドラインへの専門家の反応

以下の 6 件は、**食品安全委員会 食品安全総合情報システム**

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2023/5/18 確認) の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)

27. [フランス公衆衛生局、Nutri-Score の計算アルゴリズムが、より健康に好ましい食品の選択を促すよう進化した旨を公表](#)
28. [ドイツ連邦食糧農業省\(BMEL\)、Nutri-Score\(ニュートリ・スコア\)がさらに進化し、より健康的な食品の選択に役立つとの情報を公表](#)
29. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、ビタミン D に対する耐容上限摂取量の更新の準備作業に関する外部委託機関による科学的報告書を公表](#)
30. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、16 週齢未満の乳児用食品中の食品添加物としてのシヨ糖脂肪酸エステル類\(E473\)の再評価、及び全人口集団用の食品中の食品添加物としてのシヨ糖脂肪酸エステル類\(E473\)の以前の評価の追跡調査に関する科学的意見書を公表](#)
46. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品中のビスフェノール A の存在に関連する公衆衛生へのリスクの再評価に関する科学的意見書を公表](#)
71. [世界保健機関\(WHO\)、WHO のトランス脂肪酸撤廃検証プログラムが現在、各国の申請を受け付けていることを公表](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回は特に見当たりませんでした。

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

論文数 4 万超、臨床試験 4,000 件超 世界規模で市場成長続く DHA・EPA (特集 : DHA・EPA)

健康メディア.com - 2023/5/15 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17604

医薬品やトクホなどの実績を背景に、健食素材でも群を抜いた論文数を誇る DHA・EPA の市場拡大が進んでいる。機能性表示食品では、中性脂肪の低下、認知機能改を訴求する代表的なヘルスクレームを中心に、末梢体温やレム睡眠などの新ヘルスクレーム、W 表示による差別化などが見られる。スポーツニュートリション分野、ペットフード用途など新領域への用途開拓も……

活用ハーブ 6,000 種超、エビデンス背景に新提案も (Zoom Up : アーユルヴェーダ)

健康メディア.com - 2023/5/23

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17624

インド・AYUSH 省による国際振興進む

身体、心、精神を一体と考え、そのバランスを整えることで、健康の維持・回復を目指すアーユルヴェーダの理論体系は、未病から治療まで広範囲におよぶ。世界的な高齢化、医薬品の副作用の問題、生活習慣病の増加などを背景に、安全、安価、効果的な医療として WHO (世界保健機関) も推奨しており、代替医療として様々な科学的検証が行われている。アーユルヴェーダで重視されるのが活用されるハーブ群で、その数は 6,000 種以上といわれている。研究途上にある未知の有望素材も多く、国内では、理論に精通した原料サプライヤーやメーカーを通じて、サロンオイルなどの施術用製品や、健康食品の開発などに様々な有望素材の提案が進んで……

「睡眠サポート」「フェムケア」テーマに、ストレスケア素材の需要増 (特集 : ストレスケア素材)

健康メディア.com - 2023/5/23 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17621

ストレス・睡眠サポート訴求のサプリメント・機能性表示食品がここ 3 年でマーケットサイズを拡大した背景には、「コロナウイルスの感染拡大」「フェムケア商品の開発活発化」がある。在宅ストレス、生活リズムの乱れや不眠症状の増加を背景に需要が高まった。加えて、PMS、更年期対策、不妊・妊娠・産後ケア、育児など、女性特有のストレス対策の観点から、フェムケアサプリメントへの配合が進んだ。ストレスケアは睡眠サポートやフェムケアとの親和性が強いテーマでもあることから、今後も市場拡大に拍車……

「抗菌」「抗ウイルス」で再評価、底堅い成長へ（特集：プロポリス）

健康メディア.com - 2023/5/23 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17616

新型コロナ感染拡大を機に注目度が高まったプロポリス。セルフケアや体調管理、感染対策とみられる需要が世界各地で急増した。ここ数年の原料価格は「高止まり」傾向に。世界的な需要増を受け、高品質原料の確保を懸念する声も出始めている。こうした中、サプライヤーサイドは、産地や起源植物、製法による差別化を訴求、ハチミツやキャンディ、スキンケア、ペットフードといった商品による市場深耕や、新規層拡大に注力……

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

今回は特に見当たりませんでした。

■ 消費者意識等の調査・分析

自身の睡眠に満足している日本人消費者は 1/3 以下

株式会社ミンテルジャパン - 2023/5/25

<https://japan.mintel.com/blog/shokuhin/less-than-a-third-japanese-consumers-are-satisfied-with-their-sleep>

イギリス、ロンドンに本社を置く大手市場調査会社「Mintel Group」（ミンテルグループ）の日本法人「株式会社ミンテルジャパン」（東京：千代田区）は、2023年5月17日から3日間に渡り開催された、ifia Japan 2023(国際食品原料・添加物展示会)に出展し、アナリストであるミシェル・テオドロが「スリープヘルス：次世代機能性食品」と題したプレゼンテーションを行いました。

睡眠をサポートする革新的な製品とその動向について、国内外の例を取り上げながら、ミンテルの世界新商品情報データベース（GNPD）および消費者データを基に、今後のビジネスチャンスについて解説しました。

健康意識の高いシニア男女 263 名に調査！睡眠改善のために「サプリメントや漢方」といった健康食品に興味を持っている 50～60 代は 70～90 代に比べて 10.6%多いことが判明。

睡眠に何らかの悩みを抱えている人は全体の 70%以上も。

イマジン・グローバル・ケア株式会社 - 2023/5/25

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000007.000046754.html>

イマジン・グローバル・ケア株式会社（本社：東京都港区、代表取締役：木下 弘貴）は、健康意識の高いシニアの男女 263 名を対象に「睡眠」に関するアンケート調査を実施し、その結果を発表しました。 <調査概要> 調査対象：全国／男女／263 名（40 代以下：14 名、50 代：42 名、60 代：90 名、70 代：81 名、80 代：34 名、90 代以上：2 名）
調査方法：インターネットアンケート調査 調査期間：2023 年 4 月 28 日（金）～5 月 7 日（日）

【ダイエット漢方薬の効果に関する実態調査】 痩せた漢方薬は 33 商品中、11 商品。

株式会社 T.M.Community - 2023/5/25

<https://www.diet-cafe.jp/survey/kanpouyaku.html>

【サマリー】

- ・ 痩せたと報告されたダイエット漢方薬は、全体の 3 分の 1（33 商品中 11 商品）だった
- ・ ダイエット漢方薬の満足度評価では、「少し悪い」という評価が最多
- ・ ダイエット目的で漢方薬を選択する方の多くは、40 代前半の女性で、BMI は健康的な標準体重（22）よりも少し高い「23-25」の範囲の方が最多であった。

株式会社 T.M.Community（TMC、北海道札幌市、代表取締役社長：福田尚広）が運営するダイエット商品の口コミサイト「ダイエットカフェ（<https://www.diet-cafe.jp>）」では、ダイエット漢方薬の効果に関する実態調査を実施しました。対象となったのは「ダイエット効果を示唆している漢方薬」または「消費者がダイエット効果を期待して使用している漢方薬」37 商品に投稿された 8866 件の口コミデータ……

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

超加工食品の摂取量が多い人は食事の質が低い、東京大学が調査

大学ジャーナルオンライン - 2023/5/17 <https://univ-journal.jp/224178/>

東京大学大学院の篠崎奈々特任研究員らの研究グループは、日本人成人を対象とした食事記録データから超加工食品の摂取量を調査。超加工食品からのエネルギー摂取量が多い人ほど食事の質が低いことが明らかに……

食塩過剰摂取による認知症の発症メカニズム解明 藤田医科大

財経新聞 - 2023/5/22 <https://www.zaikei.co.jp/article/20230522/722177.html>

藤田医科大学の研究チームが、食塩の過剰摂取による認知症の新たな発症メカニズムを解明した。食塩の過剰摂取で特定のホルモンなどの受容体が相互に影響し、たんぱく質のタウの調整機能が乱れ異常が蓄積。神経細胞の機能を妨げ、認知機能の低下や記憶障害などの症状が現れると分かった……

ブレインウェルネスにおける「五感」攻略の重要性

ウェルネス総研オンライン - 2023/5/22 <https://wellnesslab-report.jp/2785/>

ヒトや動物が世界を認知するために必要な感覚のなかで主なものは視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚です。これらは合わせて五感と呼ばれますが、現代のヒトは視覚と聴覚への依存度が高いとされています。もちろん、嗅覚や味覚、触覚も大切な感覚であり、5つの感覚が統合されてこそ、優れた認知能力が発揮されます。

幅広い選択肢がある現代の食品には、単に栄養を摂取する手段としての域を超えてウェルビーイングを実現していくための重要な役割を果たすことが期待されています。今回は杏林大学の古賀良彦名誉教授に、五感の中でも特に嗅覚の機能と、食品産業におけるその活用法について伺い……

日清食品グループが保有する「乳酸菌 N793 株」に "毛髪密度を高め、抜け毛を減らす効果がある" ことを発見

日清食品ホールディングス株式会社 - 2023/5/22 <https://www.nissin.com/jp/news/11597>

日清食品ホールディングス株式会社（社長・CEO:安藤 宏基）は、日清食品グループが保有するトウモロコシ由来の「ラクチプランチバチルス プランタラム N793 (乳酸菌 N793 株)」に毛髪の密度を高め、抜け毛を減らす効果があることを臨床試験で明らかに……

後期高齢者の社会参加状況はフレイルの改善・悪化に寄与する 畿央大 学

大学ジャーナルオンライン - 2023/5/23 <https://univ-journal.jp/224385/>

「加齢とともに心身が老い衰えた状態」を指すフレイルは、75歳以上の高齢者（後期高齢者）において要介護の主要な危険因子とされている。

今回、畿央大学理学療法学科の高取克彦教授、松本大輔准教授らは、運動系社会参加の増加が前フレイル状態から健常への改善に寄与すること、地域への信頼の減少が健常からフレイル状態への悪化のリスク要因になることを明らかに……

カマンベールチーズに含まれる脂肪酸が細胞内コレステロールの排出を促進することを確認～カマンベールチーズに含まれる脂肪酸が血管の健康に寄与している可能性～

株式会社明治 - 2023/5/25

https://www.meiji.co.jp/corporate/pressrelease/2023/0525_01/index.html

株式会社 明治（代表取締役社長：松田 克也）と京都女子大学 家政学部 食物栄養学科 栄養学第2研究室（教授：松尾 道憲）は、ヒト由来マクロファージ※1 様細胞を用いた研究により、カマンベールチーズに含まれる脂肪酸がコレステロール輸送体である ABC トランスポータータンパク質を活性化して、細胞中のコレステロールの排出を促進することを確認し、当研究成果を 2023 年 5 月 14 日に第 77 回日本栄養・食糧学会大会にて発表-----

時間栄養学で分かった食事の最適タイミング 農業・食品産業技術総合研究機構、大池秀明上席研究員に聞く 取材・文／柳本 操 2023.5.29

Beyond Health - 2023/5/29

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/feature/00003/051000298/>

岩手大、細胞内の有毒物質を無毒化するタンパク質をミトコンドリアで確認

マイナビニュース - 2023/5/23

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230523-2685942/>

以下の3件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2023年5月17日～30日）から選定したものです。

世界中の栄養関連ガイドラインで使われている「控えるべきもの」を意味する言葉の変遷

<https://sndj-web.jp/news/002265.php> (2023/5/24)

栄養指導で頻繁に使用されるフレーズの一つに「〇〇は控えてください」が挙げられるが、この控えるべき食品が、世界各国のガイドラインではどのように定義づけられ表現されているのかを調べた研究結果が報告された。それらの言葉は、しばしば明確に定義づけられることなく使用されているという。要旨を紹介-----

柔道のパフォーマンス向上に最適なカフェイン摂取量は？ ポーランドの代表選手での検討

<https://sndj-web.jp/news/002266.php> (2023/5/25)

柔道のパフォーマンス向上に適したカフェイン摂取量を、二重盲検クロスオーバー法で検討した研究結果が昨年報告されている。ポーランドの国家代表レベルの選手を対象に、3mg/kg と 6mg/kg とで比較した……

クレアチンの医学領域での可能性、リハビリテーション医学に関する考察を中心に

<https://sndj-web.jp/news/002269.php> (2023/5/29)

クレアチンの医学領域での可能性を文献レビューに基づき考察した研究がある。リハビリテーションのサポートなどに、クレアチンは潜在的な有用性があるとしている。2021年に、米国の研究者によって発表された論文。……

■ その他の食品関連科学・技術情報

今回は特に見当たりませんでした。

■ その他の科学・技術情報

味の素(株)、東京工業大学との共同研究でたんぱく質の高効率生産に向けた微生物のスクリーニング法を開発

～有力学術誌で高評価を獲得したバイオ技術を応用、ヘルスケア領域の成長に貢献～

味の素株式会社 - 2023/5/24

https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/presscenter/press/detail/2023_05_24_01.html

味の素株式会社(社長：藤江 太郎 本社：東京都中央区)はこの度、国立大学法人 東京工業大学(学長：益 一哉 本部：東京都目黒区、以下東京工業大学)との共同研究において、再生医療素材や抗体(バイオ医薬用)等に应用可能なたんぱく質を高分泌生産する微生物を短期間で取得するスクリーニング法の開発に成功しました。今後、東京工業大学が独自に開発したバイオセンサー技術と、当社の先端バイオ技術を組み合わせた手法の研究開発を推進することにより、有用なたんぱく質の高効率生産を図り……

RNA が DNA 損傷の修復に寄与する仕組みを解明 台湾

Science Portal Asia Pacific - 2023/5/19

https://spap.jst.go.jp/other_asia/news/230503/topic_nt_03.html

■ その他

ネスレが 1 千億円投じ移行を急ぐ環境再生型農業とは

「株式会社オルタナ/オルタナオンライン」（無断転載を禁じます） - 2023/5/25

<https://www.alterna.co.jp/83393/>

記事のポイント

1. 自然環境の再生を意味する「リジェネラティブ」という考え方に注目が集まる
2. リジェネラティブ農業は、普及すれば環境に与えるインパクトは大きい
3. ネスレは 2030 年までに約 1400 億円を投じて、移行を加速する

製薬企業の国際展開は企業規模と得意領域を考慮した戦略を、名古屋市立大学が分析

大学ジャーナルオンライン - 2023/5/22 <https://univ-journal.jp/224977/>

名古屋市立大学の研究グループは、製薬企業の国際展開戦略の研究により、中堅・中小企業では治療領域重視が、大企業では地域重視が有効な戦略であることを明らかに-----

以上

健康食品等に関する

日本語記事情報（2023 年 6 月号 No.1）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 注目記事

食品安全委員会の 20 年を振り返る

第 1 回 トランス脂肪酸～リスク評価の意味を知ってほしい～

食品安全委員会 - 2023/6/2

https://www.fsc.go.jp/iinkai/20shunen/01_toransushibosan.html

現在、食品安全委員会の委員をされている科学ジャーナリスト松永和紀さんの文章です。

■ 安全性関連情報

-よく使われている甘味料中の化合物が DNA を傷害する

食品安全情報 blog2 - 2023/6/2

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/06/02/171144>

6月2日分の中ほど、太字見出し「論文」セクションの3番目の見出しです。スクラロースに関する報告です。

[BfR]蜂蜜に含まれるグラヤノトキシンについての Q&A

食品安全情報 blog2 - 2023/6/7

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/06/07/174252>

6月7日分の上から2番目の太見出しです。

-ACSH は硝酸を説明しようとする

食品安全情報 blog2 - 2023/6/2

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/06/02/171144>

6月2日分の下の方、太字見出し「その他」セクションの2番目の見出しです。加工肉だけでなく野菜など多様な食品にも含まれる硝酸塩は、発がん物質であるニトロソアミンを生じる可能性があると考えられています。ここでは、ジキル博士とハイド氏の例えを用いながら良い面・悪い面の両面から論じた論文の内容が紹介されています。

[BfR]日用品のビスフェノール A : FAQ

食品安全情報 blog2 - 2023/6/8

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/06/08/173453>

8日分の最初の見出しです。下の食品安全情報の別添でも取り上げられています。

食品安全情報（化学物質） No.12 (2023.06.07)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202312c.pdf>

別添（ビスフェノール A 関連）

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202312ca.pdf>

今回分では、次の見出し項目が「注目記事」として挙げられていました。

【FDA】食品に添加される化学物質をレビューする FDA の新しいアプローチが食品の安全性をどのように強化するか

【FDA】FDA はリンゴジュース中の無機ヒ素のアクションレベルに関する最終ガイダンスを業界向けに発表

【EFSA】魚及び魚製品中の塩化ベンザルコニウム(BAC)・塩化ジデシルジメチルアンモニウム(DDAC)及び塩素酸塩の存在に関連するリスク評価

このほか、目に付いた見出し項目は、以下の通りです。

【EFSA】

1. ビタミン B6 の耐容上限摂取量に関する科学的意見
3. 葉酸/葉酸塩の耐容上限摂取量の更新のための準備作業

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

今回は特に見当たりませんでした。

■ 行政・法令関連情報（その他）

令和4年度食育白書を本日公表

農林水産省 - 2023/6/6 <https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/hyoji/230606.html>

～特集テーマは「「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進」～

本日、「令和4年度食育白書」が閣議決定されました。

今回の白書では、「「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進」を特集として取り上げています。食育活動におけるデジタル技術の活用が進むなか、ポストコロナ・ウィズコロナ時代に合った食育の取組を紹介しています。また、昨今の社会情勢を踏まえ、我が国の食料安全保障と食育の推進に向けた、関連施策や取組の事例を紹介しています。

この白書を通して、食育について広く国民の皆様にご覧いただき、知っていただくことを目指して-----

■ 海外公的機関情報

米 FDA、PFAS に関する食品のサンプル調査結果のアップデートを公表（米国）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2023/6/5

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/06/a471a76e4d6bcc52.html>

[FDA]FDA はリンゴジュース中の無機ヒ素のアクションレベルに関する最終ガイダンスを業界向けに発表

食品安全情報 blog2 - 2023/6/7

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/06/07/174252>

6月7日分の上から 1/3 ほどの太見出しです。

[FDA]食品に添加される化学物質をレビューする FDA の新しいアプローチが食品の安全性をどのように強化するか

6月7日分の中ほどの太見出しです。かなりのボリュームがあります。

以下の12件は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2023/5/31 確認) の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)

- [1. 英国毒性委員会\(COT\)、欧州食品安全機関\(EFSA\) 2023 年度版「食品中のビスフェノール A\(BPA\)による公衆衛生へのリスクに関する再評価書」についての議論のための背景報告書を公表 \(4/4\)](#)
- [2. 英国毒性委員会\(COT\)、欧州食品安全機関\(EFSA\) 2023 年度版「食品中のビスフェノール A\(BPA\)による公衆衛生へのリスクに関する再評価書」についての議論のための背景報告書を公表 \(3/4\)](#)
- [3. 英国毒性委員会\(COT\)、欧州食品安全機関\(EFSA\) 2023 年度版「食品中のビスフェノール A\(BPA\)による公衆衛生へのリスクに関する再評価書」についての議論のための背景報告書を公表 \(2/4\)](#)
- [4. 英国毒性委員会\(COT\)、欧州食品安全機関\(EFSA\) 2023 年度版「食品中のビスフェノール A\(BPA\)による公衆衛生へのリスクに関する再評価書」についての議論のための背景報告書を公表 \(1/4\)](#)
- [6. 米国食品医薬品庁\(FDA\)、食品安全強化法\(FSMA\)の食品トレーサビリティ規則に関する小規模事業者コンプライアンスガイドを公表](#)
- [7. フランス食品環境労働衛生安全庁\(ANSES\)、ナノ材料の定義に関する意見書・報告書を公表](#)
- [9. 米国食品医薬品庁\(FDA\)、食品トレーサビリティを推進するための協力及び革新を提言する食品技術者協会の報告書について公表](#)
- [10. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、ビタミン B6 に対する耐容上限摂取量に関する科学的意見書を公表](#)
- [14. 米国食品医薬品庁\(FDA\)、主要食物アレルゲンの表示と交差接触に関する法令遵守政策ガイドの草案を公表](#)
- [17. 世界保健機関\(WHO\)、新たに公表したガイドラインにおいて体重管理のために非糖類甘味料を使用しないよう勧告したことを公表](#)

23. [英国毒性委員会\(COT\)、緑茶カテキン類による肝障害に関する第3次声明案を公表](#)

49. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、16週齢未満の乳児用の食品中の食品添加物としてのキサンタンガム\(E 415\)の再評価、及び全人口集団用の食品中に使用する食品添加物としてのキサンタンガム\(E 415\)の再評価の追跡調査に関する科学的意見書を公表](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

富士経済、清涼飲料の国内市場調査、2023年の清涼飲料市場は前年比4.1%増の5兆3850億円を見込む

マイライフニュース - 2023/6/6 <https://www.mylifenews.net/drink-food/20503/>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、外出機会の増加や入社率の高まりなどから飲用機会の回復がみられる一方で、価格改定による影響が懸念される清涼飲料の国内市場を調査した。その結果を「2023年 清涼飲料マーケティング要覧」にまとめた。トピックスとして、2023年の清涼飲料市場は前年比4.1%増の5兆3850億円を見込む。全般的な価格改定によって拡大も、安価なPBへのシフトも……

富士経済、ウエルネス食品の国内市場調査、2023年国内市場見込はウエルネス食品が2022年比101.8%の3兆8140億円に

マイライフニュース - 2023/5/30 <https://www.mylifenews.net/health-medical/19766/>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、効能表示が可能な保健機能食品、また、効能表示はないが商品名やパッケージに〇〇オフや〇〇ゼロ、減塩、無添加などを記載しライトな健康感を訴求する食品を“ウエルネス食品”と定義し、食品カテゴリー別に市場を調査した。その結果を、「カテゴリー別ウエルネス訴求食品の開発トレンドと将来展望」にまとめた。トピックスとして、2023年国内市場見込（2022年比）ではウエルネス食品が3兆8140億円（101.8%）と予測する。タイパ（食事の時間をかけずにバランス良く必要な栄養素を摂取すること）や記憶力ケアなど新たなニーズに対応した商品の展開が……

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

認知機能など新たな研究開発進む（特集：注目のキノコ素材）

健康メディア.com - 2023/6/5 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17670

キノコには、β-グルカン、ビタミンD、食物繊維、アミノ酸などが豊富に含まれている。これら有用成分を配合した健康食品は、ドラッグストア、漢方相談薬局、医療機関などをメインに最近では、動物病院での扱いも増えている。今回、取材したキノコサプライヤーからは「急激な伸びはないものの、免疫賦活のニーズが続いている」「統合医療のドクターから広がり、新規での扱いも増えた」などの声も……

市場活況、3,000億円が射程圏に（特集：血流改善サポート～夏の冷え対策～）

健康メディア.com - 2023/6/5 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17659

血管ケア市場が活況だ——。人体最大の臓器とも称される血管の健康を維持することが、様々な疾病の予防に繋がることが近年、明らかとなってきた。毛細血管の形状や血流量を計測・解析する術、疾病との相関性を導き出す研究の進歩は目覚ましく、毛細血管が健康指標の1つになりつつある。市場では血管ケアに有効な素材・商材の上市が相次ぎ、健康食品・サプリメント分野では、血管・血流系の機能性表示食品がこの1年間で約100品増の約350品に……

中高年女性の骨サポートが鍵に（特集：アクティブシニアサポート）

健康メディア.com - 2023/6/6 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17654

平均寿命が男女共に80歳を超える一方、高齢者の健康寿命延伸が課題となっている。現在、日本の介護費用は10兆円を超え、若年層の負担増となっている。高齢者の介護予防は喫緊の課題で、各業界では様々な取り組みが行われている。健康食品業界でも、高齢者向けに関節の痛み軽減、骨強化や筋肉量の維持をサポートする素材開発や製品の上市が活発に。骨と筋肉は相関関係にあり、フレイル対策にも骨・筋肉の維持が重要とされている。特に、高齢者女性の骨の健康に着目した製品が増えて……

成長続くプロテイン、ブームから定番品に（特集：スポーツニュートリション）

健康メディア.com - 2023/6/6 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17652

スポーツニュートリションの製品開発が活発化している。背景には、運動意識の高まりを背景に、アスリートだけでなく、スポーツ愛好家や、健康美を望む女性、アクティブシニアなど、ユーザーの裾野拡大が挙げられる。市場を牽引するプロテインは今年も新製品ラッシュが続く。粉末品の市場は700億円が射程圏内に入ってきたが、一方で淘汰も始まっている

る。また、プロテインの需要が増す中、アミノ酸に対する関心も高まっており、市場活性化に繋がって-----

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

NTT と味の素(株)、未来社会の食と健康の価値共創に向け合意

～デジタルツインコンピューティングと食と健康を科学するアミノサイエンス®等を組み合わせ、生活者の Well-being 向上と健康寿命延伸の実現への取り組みを推進～

味の素株式会社 - 2023/5/31

https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/presscenter/press/detail/file/2023_05_31_02.pdf

サントリーウエルネス、クオール薬局と顧客開拓 「通販利用しないユーザー」を取り込む

マイナビニュース - 2023/6/1

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230601-2692933/>

「未利用資源活用」「脱プラ」健食・化粧品業界に SDGs 広がる (ZOOM UP : SDGs)

健康メディア.com - 2023/6/5 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17662

SDGs（持続可能な開発目標）は、企業活動や消費のキーワードとして国内外で普及が進んでいる。社会、環境、エネルギーといった SDGs への対応は、企業の取引の際の判断材料の一つとされたり、「ESG 投資」として、投資対象の基準とされたりすることもあるため、重要性が増している。健康食品や化粧品の素材には、従来から食品の未利用部分の活用が行われているが、こうした「アップサイクル原料」は、SDGs の観点から改めて注目を集めている。同じく SDGs の取り組みとして、環境対応型の容器・包装への切り替えは、ブランド向上にも繋がるため、多くの企業が採り入れている。高意識層の消費者は SDGs を付加価値として認めるため、販売戦略としても SDGs への対応が期待-----

■ 消費者意識等の調査・分析

TPC マーケティングリサーチ、血管・血流対策の実態と商品ニーズについて調査、10年前と比較して「悪くなっている」は 38.9%

マイライフニュース - 2023/5/31 <https://www.mylifenews.net/health-medical/19881/>

TPC マーケティングリサーチは、血管・血流対策の実態と商品ニーズについて調査を実施、その結果を発表した。その結果、10年前と比較して血管・血流の状態が「(やや)悪くなっている」という人は38.9%だった。男性に比べて女性の割合が高く、女性高年層は約5割が悪化したと感じていることがわかった……

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

学習や記憶に貢献する神経幹細胞の活性化、転写抑制因子による制御機構を解明－理研

QLifePro 医療ニュース - 2023/6/1

<https://www.qlifepro.com/news/20230601/oscillatory-hes1-p21.html>

▼関連リンク・理化学研究所 プレスリリース

<https://www.qlifepro.com/news/20230601/oscillatory-hes1-p21.html>

まれに活性化して増殖する休眠状態の神経幹細胞、具体的な仕組みは不明点が多い

理化学研究所(理研)は5月31日、マウスの神経幹細胞において、転写抑制因子 Hes1 による発現動態依存的な細胞増殖の制御機構を分子レベルで解明したと発表した。この研究は、理研脳神経科学研究センター神経幹細胞研究チームの前田勇樹リサーチアソシエイト、影山龍一郎チームリーダーらの研究グループによるもの。研究成果は、「Cell Reports」にオンライン掲載されて……

中耳炎発症リスクは「ヨーグルト」摂取頻度が高いほど低下、エコチル調査－東北大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2023/6/1

<https://www.qlifepro.com/news/20230601/yogurt-otitis-media.html>

▼関連リンク・東北大学 プレスリリース

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2023/05/press20230525-01-yogurt.html>

約10万組の親子のヨーグルト摂取頻度と中耳炎罹患を調査

東北大学は5月25日、子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)のデータの解析から、ヨーグルト摂取が高頻度なほど、乳幼児期の中耳炎発症リスクが低下することがわかったと発表した。この研究は、同大病院の土谷忍助教、鈴木淳准教授、有馬隆博教授、八重樫伸生教授、大学院医学系研究科の門間陽樹准教授、大学院医工学研究科の永富良一教授、岩手医科大学の池田怜吉講師、東北福祉大学の土谷昌広教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Probiotics and Antimicrobial Proteins」に掲載されて……

生分解性プラスチック PHB、善玉菌を増やす「ケトバイオティクス」と提唱－東京工科大

QLifePro 医療ニュース - 2023/6/13 <https://www qlifepro.com/news/20230613/phb.html>

▼関連リンク・東京工科大学 東工大ニュース

<https://www.teu.ac.jp/press/2023.html?id=125>

マイルドに酪酸菌を活性化する PHB、増加した酪酸は Treg 活性化で炎症を抑制

東京工科大学は 6 月 8 日、バクテリア由来の生分解性プラスチックであるポリヒドロキシ酪酸 (PHB) が、酪酸菌にケトン体 (3-ヒドロキシ酪酸 : 3HB) を供与し、酪酸菌優位な腸内細菌叢を誘導することを提唱したと発表した。この研究は、同大応用生物学部の佐藤拓己教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Trends in Endocrinology and Metabolism」オンライン版に掲載され-----

98%の日本人がビタミン D 不足、東京慈恵会医科大学が国内初の基準値公表

大学ジャーナルオンライン - 2023/6/12 <https://univ-journal.jp/229304/>

東京慈恵会医科大学の越智小枝教授・斎藤充教授らは、2019 年 4 月から 2020 年 3 月までの期間に東京都内で健康診断を受けた 5,518 人を対象に調査を実施し、98%がビタミン D 不足に該当していたことを明らかに-----

現代日本の食生活において不足しがちな栄養素を茶、コーヒー・ココア、きのこ類、藻類で効率的に補えることが明らかに～第 77 回日本栄養・食糧学会大会にて発表～

株式会社明治 - 2023/5/30

https://www.meiji.co.jp/corporate/pressrelease/2023/0530_01/index.html

株式会社 明治 (代表取締役社長 : 松田 克也) は、現代日本の食生活において不足しがちな栄養素を評価した結果、たんぱく質、食物繊維、ビタミン 7 種、ミネラル 5 種が不足しがちであることを明らかにしました。さらに、これらの栄養素に着目して食素材※1 を評価した結果、茶、コーヒー・ココア、きのこ類、藻類が現代日本の食生活で不足しがちな栄養素を効率的に補う食素材であることを見出しました。当研究成果を 2023 年 5 月 12~14 日に開催された第 77 回日本栄養・食糧学会大会にて発表-----

酪酸菌を活性化する次世代プレバイオティクスの論文発表 生理学/内分泌学のトップジャーナルに掲載、表紙に採用--東京工科大学応用生物学部

大学プレスセンター - 2023/6/9 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-50824.html>

東京工科大学(東京都八王子市、学長:香川豊)応用生物学部の佐藤拓己教授は、バクテリア由来の生分解性プラスチックであるポリヒドロキシ酪酸(PHB)(注 1)が、酪酸菌にケトン体(3-ヒドロキシ酪酸:3HB)(注 2)を供与し、酪酸菌優位な腸内細菌叢を誘導することを提唱しました。同論文は、生理学および内分泌学のトップジャーナルである「Trends in Endocrinology and Metabolism」(注 3)オンライン版(現地時間 2023年6月2日)に掲載されるとともに、同誌7月(6月14日発売)号の表紙に採用-----

「サトウキビ由来ポリコサノール」HDLを増加・抗酸化機能を強化させ、日本人の血圧・肝機能へ働きを実証。副作用なしの成分として期待

長寿ファクターHDL研究会 - 2023/5/22 https://note.com/hdl_research/n/n2c15f0faeb0e

長寿ファクターHDL研究会は、サトウキビから抽出された天然由来成分のキューバ産ポリコサノールが、血圧・脂質・肝機能への有益な影響があることの実証結果を日本で初めて正式に公開しました。韓国の脂質代謝・動脈硬化研究の第一人者 Cho Kyung-Hyun(チヨ・キョンヒョン)博士により発表されたもので、論文は国際的な医学ジャーナルで受理され-----

認知症予防にさらなる朗報！

FPP(パパイヤ発酵食品)によるパーキンソン病患者の運動・認知機能に関する改善効果が明らかに。

大里研究所 - 2023/5/31 <https://www.ori-japan.com/news/results/fpp-8.html>

【京都産業大学】小胞体のカルシウムイオンチャネル IP3 受容体の酸化還元状態に依存した新たな制御メカニズムを解明 -- 加齢性の疾患への治療法開発に期待 --

大学プレスセンター - 2023/6/1 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-50775.html>

京都産業大学 永田 和宏名誉教授、大学院生命科学研究科潮田 亮准教授、大学院生の藤井 唱平らの研究グループは、小胞体のカルシウムイオンチャネル IP3 受容体の酸化還元状態に依存した新たな制御メカニズムを解明した。このことは老化やアレルギー疾患、神経変

性などさまざまな疾患によって生じる細胞内環境の変化とカルシウムを介したシグナル伝達の異常を結びつける重要な発見であり、病態理解から治療法解明に新たな知見をもたらすことが期待-----

-SMC UK

食事からのフラバノールと高齢者の記憶喪失への専門家の反応

食品安全情報 blog2 - 2023/5/31

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/05/31/174135>

追記：5月31日分の下の方の見出しです。同日配信の英文記事情報で紹介した米国科学アカデミー紀要掲載論文についての専門家のコメントが紹介されています。肯定的に捉えた意見もありますが、全体的には批判的な論調です。

月桂冠と甲南大、発酵食品に含まれる麹菌由来成分に抗がん作用を発見

マイナビニュース - 2023/6/8 <https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230608-2699774/>

以下の1件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2023年5月31日～6月13日）から選定したものです。

スケソウダラの速筋タンパク質を毎日食べると高齢女性のサルコペニアの予防になる？ 乳清タンパク質との比較で骨格筋量などに有意差

<https://sndj-web.jp/news/002295.php> (2023/6/9)

■ その他の食品関連科学・技術情報

今回は特に見当たりませんでした。

■ その他の科学・技術情報

プレスリリース 初めて全国の医療機関で老化のマーカーNAD⁺が測定可能に 血中NAD⁺検査開始のお知らせ

株式会社ミルテル - 2023/6/1

NOMON 株式会社

<https://www.mirtel.co.jp/fwp/wp-content/uploads/2023/06/20230601press.pdf>

株式会社ミルテル(本社：広島市南区、代表取締役社長 加藤俊也) (以下、「ミルテル」) と帝人グループの NOMON 株式会社 (本社：東京都千代田区、代表取締役 CEO 山名慶) (以下、「NOMON」) は、2023 年 6 月より、医療機関向け血中ニコチンアミドアデニンジヌクレオチド(以下、NAD⁺)測定サービス「NAD⁺Test」、および受託研究向けの血中 NAD⁺測定サービスを開始-----

AI 技術でデータを自動解析、数百成分の農薬測定を正確かつ迅速に実行 GC-MS/MS 向け AI ソフトウェア「Peakintelligence for GCMS Ver.2」発売

島津製作所 - 2023/6/1 https://www.shimadzu.co.jp/news/2023/n3723rhmen-s1_fb.html

島津製作所は、6 月 1 日にトリプル四重極型ガスクロマトグラフ質量分析計 (GC-MS/MS) 用ソフトウェア「Peakintelligence for GCMS Ver.2」を発売します。本ソフトウェアは、独自開発した AI アルゴリズムにより誰でも簡単に GC-MS/MS 分析結果の解析が可能です。昨年 5 月発売の Ver.1※1 で対応した「Smart Metabolites Database」※2 に加え「Quick-DB GC/MS 残留農薬分析用データベース」※3 および「Smart Pesticides Database」※4 に対応しました。食品中の残留農薬は各国の法律 (日本は食品衛生法) で農薬成分ごとに基準値が定められています。規制対象である数百成分の農薬測定データは、目的成分のピーク※5 が重なり判断が困難かつ大量の解析処理が必要でした。本ソフトウェアは複雑なデータ処理を正確かつ迅速に行い、食の安全にかかわる合否判定でのデータ改ざんリスクも低減-----

擬似的なヒト腸内細菌群集を作製し様々な解析手法を評価

理化学研究所 - 2023/5/31 https://www.riken.jp/press/2023/20230531_1/index.html

日立が取り組む香りのデジタル化、ソフトウェア活用で複数の成分を同時計測

MONOist - 2023/6/7 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2306/07/news091.html>

日立グローバルライフソリューションズは「FOOMA JAPAN 2023」において、日立製作所と共同で数年前から開発中の香りセンシングソリューションを参考出展した。2024 年度以降の事業化を目指して-----

以上

健康食品等に関する 日本語記事情報（2023年6月号 No.2）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 注目記事

～科学的根拠に基づき、一人ひとりに合わせた健康改善策を提供～

味の素(株)、東京大学と社会連携講座「栄養疫学・行動栄養学講座」を開設
味の素株式会社 - 2023/6/23

https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/presscenter/press/detail/2023_06_23.html

味の素株式会社(社長：藤江 太郎 本社：東京都中央区)はこの度、国立大学法人 東京大学(総長：藤井 輝夫 所在地：東京都文京区)の大学院医学系研究科に、同大学と共同して「人々の健康寿命の延伸とウェルビーイングの実現への貢献」に取り組む東京大学社会連携講座※1「栄養疫学・行動栄養学講座」を開設……

不二製油・日清オイリオ、国内企業で最高評価：パーム油格付け

「株式会社オルタナ/オルタナオンライン」（無断転載を禁じます） - 2023/6/15

<https://www.alterna.co.jp/85466/>

記事のポイント

- NGOがパーム油利用企業112社にアンケート調査し、回答をもとに格付けした
- A評価の企業は今年も1社もなく、最高は不二製油・日清オイリオの2社だった
- 一方、製パン・マーガリン業界はアンケートに回答すらしない企業が多かった

パーム油生産が熱帯林を破壊するといわれて久しい。企業の環境意識が向上している最近では、どうなのだろうか。熱帯林関連のNGO7団体が運営するプランテーション・ウォッチ（東京・渋谷）が、パーム油を利用する日本企業の取組状況を評価する「企業格付け2023」を発表した。パーム油はパンや洗剤、バイオマスプラスチックなどに使われる植物油脂だ。A評価の企業はなく、不二製油グループ本社と日清オイリオグループがA評価に次ぐBBB評価だった。（オルタナ編集委員・栗岡理子）

代替肉・代替牛乳の消費が拡大すると、ビタミンB12、亜鉛などの不足が増える可能性

スポーツ栄養 WEB - 2023/6/15 <https://sndj-web.jp/news/002308.php>

近年、環境保護対策の一環として、温室効果ガス排出量の少ない植物性食品を素材として用い、肉や牛乳などの動物性食品を模倣した食品が開発・消費されてきている。環境保護という視点では文句のつけようのない対策だが、栄養価はどうなのだろうか？ このような視点でシミュレーションを行った研究結果が報告された。ビタミンB12や亜鉛などの微量栄養素が不足する人の割合が増加する可能性がある-----

■ 安全性関連情報

[EFSA]2020年の新興リスクに関するEFSAの活動

食品安全情報 blog2 - 2023/6/19

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/06/19/171115>

6月19日分の上から2番目の太字見出しです。同定された主な新興リスク（化学物質ハザード、その他）が列挙されています。これらの中で目に付いたものは以下の通りです。

- ・ フードサプリメント中のステロイド系選択的アンドロゲン受容体修飾薬(SARMs)
- ・ コラーゲンパウダーの大量摂取に関連する潜在的な健康リスク
- ・ ホライズンスキヤニング

コラーゲンパウダーの大量摂取による健康リスク

ダイズ油の摂取による健康リスク

ダイエタリーサプリメントの塩素化パラフィン
強化配合食品トウモロコシ/ダイズミール（スーパーシリアル）のアトロピン
ビンポセチン含有フードサプリメントの安全性リスク
フードサプリメントに含まれる高濃度のビタミンDによる中毒
細胞ベースの乳の開発

[FDA]PFAS 活動に関して最新情報を提供する

食品安全情報 blog2 - 2023/6/21

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/06/21/175036>

6月22日分の2番目の太字見出しです。下の食品安全情報（化学物質）No. 13でも注目情報として挙げられています。

なお、6月22日分の最後の「その他」の見出しで、IARC（国際がん研究機関）のアスパルテーム報告書に対するコメント記事が紹介されています。リスクを評価するJECFA（FAO/WHO 合同食品添加物専門家会議）とハザード評価をするIARCのスタンスの違いに言及すると共に、後者のスタンスを利用する「活動家科学者」に対して批判的な論調になっています。

食品安全情報（化学物質）No. 13/ 2023（2023. 06. 21）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202313c.pdf>

別添：<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202313ca.pdf>

今回注目情報として挙げられていたのは次の3件です。

【FSA】（英国食品基準庁）小売業者向け通知：竹を使用したプラスチック容器や器具

【FDA】（米国食品医薬品局）PFAS 活動に関して最新情報を提供する

【FSS】（食品基準スコットランド）スラッシュアイス飲料中のグリセロール

このほか、目に付いた見出しは以下の1件です。

【EFSA】（欧州食品安全機関）

1. 食品中のポリ臭化ジフェニルエーテルに関連した健康リスクのパブリックコメント募集を開始

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

株式会社バウムクーヘンに対する景品表示法に基づく措置命令について

消費者庁 - 2023/6/14 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/033617/>

消費者庁は、本日、株式会社バウムクーヘンに対し、同社が供給する「アイズワン」と称するペット用サプリメントに係る表示について、消費者庁及び公正取引委員会(公正取引委員会事務総局九州事務所)の調査の結果を踏まえ、景品表示法に違反する行為(同法第5条第1号(優良誤認)に該当)が認められたことから、同法第7条第1項の規定に基づき、措置命令を行いました。

■ 行政・法令関連情報（その他）

健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブ

2023年度第1回参画事業者の募集を開始いたします。

厚生労働省 - 2023/6/21 <https://sustainable-nutrition.mhlw.go.jp/recruit>

健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブのトップページ：

<https://sustainable-nutrition.mhlw.go.jp/>

本イニシアチブに参画いただける事業者（食品製造、食品流通、メディアをはじめ多様な業種）を、事業者の地域、規模等を問わず、募集-----

健康増進法に規定する特別用途表示の許可等に関する内閣府令の一部改正案に関する意見募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2023/6/22

<https://public-comment.e>

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=235080070&Mode=0](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=235080070&Mode=0)

■ 海外公的機関情報

米カリフォルニア州、食品添加物5種の使用禁止に関する法案審議進む（米国）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2023/6/27

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/06/ecb7f33a826d67c9.html>

追記：赤色3号、二酸化チタン、臭素酸カリウム、臭素化植物油（VBO）、プロピルパラベンの5種類について検討されているとのことです。

以下の5件は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2023/6/15 確認) の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧ください。](#)

1. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、リンゴジュース中の無機ヒ素の措置基準についての業界向けガイダンス最終版を公表](#)

7. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、PFAS への取り組みに関する最新情報を公表](#)

12. [米国環境保護庁\(EPA\)、農薬製品における PFAS の科学的試験を完了したことを公表](#)

20. [世界保健機関\(WHO\)、世界保健総会による「食品の微量栄養素強化の取り組みを加速させる」旨の決議採択を公表](#)

25. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としてのパラミロンの安全性に関する科学的意見書を公表](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回は特に見当たりませんでした。

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

[アフターコロナ、メタボ対策が喫緊の課題に（特集：抗肥満・抗メタボ）](#)

健康メディア.com - 2023/6/19 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17717

ようやく落ち着きをみせた新型コロナウイルスだが、3年にもわたり長引いた感染拡大が落とした影は大きい。運動不足や食生活の乱れによる2次的な健康被害として肥満や生活習慣病リスクの増加といった変化に現れている。日本生活習慣病予防協会が実施した医師を対象にしたアンケート調査では、糖尿病診断の重要数値であるHbA1cの数値が悪化していると回答。民間の統計分析会社が実施した調査でも、コロナ禍で約35%が体重増加と回答……

“エビデンスベースの美肌素材”の提案強まる（特集：美肌）

健康メディア.com - 2023/6/19

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17720

美肌サプリメントの開発が活発化している。背景には、マスク着用の常態化、アルコール消毒の多用による肌トラブル対策、フェムケアサプリの開発などがある。「肌」をヘルスクレームに含む機能性表示食品の受理数はこの1年で200品、累計で700品を超えた。クリニック、エステサロン、フィットネス、理美容室、ネイルサロンなど、販売チャネルも拡大しており、インバウンド需要の復活も市場拡大に拍車をかける。原料サプライヤーでは、保湿、弾力サポート、抗シワ・シミ、紫外線対策、アクネ菌対策など、エビデンスベースの美肌素材の提案を……

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

新しいたんぱく質源として“麴（こうじ）”の可能性を探求 2024年に向けて“麴”の生産・食品加工研究開発を推進

日本ハム株式会社 - 2023/6/14 <https://www.nipponham.co.jp/news/2023/20230614/>

日本ハム株式会社（本社：大阪市北区、代表取締役社長：井川 伸久）は、「5つのマテリアリティ」の「たんぱく質の安定調達・供給」につながる取り組みの一つとして、細胞性食品（培養肉）、藻類に加えて、「第三のたんぱく質」として“麴”に着目した研究開発を推進します。たんぱく質豊富な“麴”そのものを食材とした新たな商品開発を行い、2024年のテスト販売を目指し……

ポリジェニックスコアを用い、遺伝的な健康リスクや体質傾向に関するより高い精度の情報提供をスタート

日本で大規模に一般消費者向け遺伝子検査サービスを行っている会社では初

株式会社ユーグレナ - 023/6/23 <https://www.euglena.jp/news/20230623-2/>

株式会社ユーグレナ（本社：東京都港区、代表取締役社長：出雲充、以下「ユーグレナ社」）は、株式会社ジーンクエストとともに、ユーグレナ社が提供する『ユーグレナ・マイヘルス 遺伝子解析サービス』及びジーンクエストが提供する遺伝子検査サービス『ジーンクエスト ALL』において、ポリジェニックスコア（polygenic score）という手法を用いることで、これまでより高い精度の遺伝的な健康リスクや体質傾向の提供をスタートしたことをお知らせします。

ポリジェニックスコアとは、発症リスクに複数の遺伝子が関わる病気や体質において、数十から数万か所の遺伝子の違いにさまざまな重みづけを行い、総合したスコアのことです。遺伝的な病気の発症リスクをより高い精度で評価できるため、より個人に応じた情報提供が可能となります。本手法による情報提供は、日本で大規模に一般消費者向け遺伝子検査サービスを行っている会社としては初めてのこと……

菌ケアサービスの KINS、独自のポリアミン産生乳酸菌の共同研究パートナーを募集

マイナビニュース - 2023/6/21

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230621-2709742/>

セブン-イレブン、ウェルビーイング食品「サイクルミー」を発売 - 朝・昼・夜の時間帯に合った栄養が摂れるよう設計

マイナビニュース - 2023/6/16

<https://news.mynavi.jp/article/20230616-2705055/>

■ 消費者意識等の調査・分析

サステナビリティの世界的展望：消費者調査を基にしたグローバルレポート 2023

株式会社ミンテルジャパン

<https://japan.mintel.com/sustainability-outlook>

世界 16 か国の消費者調査と国際エネルギー機関（IEA）や気候変動に関する政府間パネル（IPCC）などの信頼ある情報源からのデータを基にしたレポート

2023 年版の最新レポートは、世界 16 か国の消費者の「環境および社会の優先事項」、「購買行動」、「エンゲージメント」、「サステナビリティに関する理解の度合い」を計測しています。

気候変動や環境問題に関する議論がますます高まる中、この世界規模の調査は「サステナビリティ」に焦点を当て、企業の存続可能性を向上させる気づきを提供……

[29801] 乳酸菌入り飲料の飲用に関するアンケート調査（第 11 回）

マイボイスコム https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=29801

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

炭水化物摂取量と死亡リスク、日本人は男女で逆の関係に～J-MICC 研究

ケアネット - 2023/6/16 <https://www.carenet.com/news/general/carenet/56615>

これまで、炭水化物や脂質の摂取量と死亡リスクの関連を検討した研究において、一貫した結果が得られていない。そこで、田村 高志氏（名古屋大学大学院医学系研究科予防医学分野 講師）らの研究グループは、日本多施設共同コホート研究（J-MICC Study）に参加した 8 万 1,333 人を対象として、炭水化物、脂質の摂取量と死亡との長期的な関連について検討した。その結果、男性では炭水化物の摂取量が少ないと死亡リスクが高くなり、女性では炭水化物の摂取量が多いと死亡リスクが高くなる傾向がみられた。本研究結果は、The Journal of Nutrition 誌オンライン版 2023 年 6 月 2 日号に掲載……

資生堂、CBRC との共同研究で、表皮幹細胞の老化制御の可能性を明らかに ～皮ふの幹細胞研究は「量」に加えて「質」へとさらなる進化～

株式会社資生堂 - 2023/6/14

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003636>

資生堂は、マサチューセッツ総合病院皮膚科学研究所（CBRC）※1 との 5 年来の共同研究により、表皮幹細胞の老化を抑制する RNA※2 結合タンパク質 YBX1※3 がリン酸化※4 により機能低下し、細胞老化を引き起こすことを明らかにしました。さらに、YBX1 のリン酸化を抑制することで表皮幹細胞が増加することを明らかにし、表皮幹細胞の量を維持するためには、表皮幹細胞の「質」も重要であることを示しました。本研究成果を応用し、表皮幹細胞の老化抑制を介したさまざまな肌のエイジング悩みへのアプローチを目指し……

老化に向かう引き金は「GDF11 の減少」だった GDF11 が皮膚の細胞で加齢によるさまざまな変化を食い止めることを 解明

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス - 2023/6/22

http://www.pola-rm.co.jp/pdf/release_20230622.pdf

ポーラ・オルビスグループの研究・開発・生産を担うポーラ化成工業株式会社（本社：神奈川県横浜市、社長：釘丸和也）は、皮膚老化の原因に関する研究を進め、以下を発見しました。

1. 複数種の細胞において、「GDF11（補足資料 1）」の減少は、皮膚老化に結びつくさまざまな変化を引き起こす
2. 植物エキスの GDF11 発現促進作用

本知見の一部は、2023年3月25～28日に開催された日本薬学会第143年会にて発表され-----

健全な表皮の形成におけるヒアルロン酸の働きが明らかに

ヒアルロン酸の構成成分 N-アセチルグルコサミンの誘導体を新たに開発

花王株式会社 - 2023/6/22

<https://www.kao.com/jp/newsroom/news/release/2023/20230622-001/>

花王株式会社（社長・長谷部佳宏）は、表皮ヒアルロン酸の産生を高めることにより、十分な厚みがあり、うるおいとハリに満ちた表皮の形成につながることを明らかにしました。さらに、新たに開発した N-アセチルグルコサミンの誘導体が、表皮細胞によるヒアルロン酸産生を促進することを確認しました。

今回の研究成果の一部を、6月4～8日に米国で開催された「第14回国際ヒアルロン酸学会（International Society for Hyaluronan Science・14th International Conference）」にて発表-----

白麹菌成分の新知見 「糖化ダメージ」を抑制する機能を確認/ファンケル

株式会社ファンケル - 2023/6/23

https://www.fancl.jp/news/20230062/news_20230062.html

株式会社ファンケルは、資本業務提携関係にあるキリンホールディングス株式会社との共同研究成果の一つとして、キリンが保有する「白麹菌※1」に含まれる「14-デヒドロエルゴステロール（以降「14-DHE」と表記）」が美肌機能に関わる酵素「アルギナーゼ1※2」を増加させること※3、白麹菌の抽出物を配合した美容液の連続使用で肌老化兆候が改善することを発表してきました※4。

当社において、お客様の肌悩みに合致した製品応用に向け、これまで確認してきた「14-DHE」の美肌機能について、さらに詳細なメカニズム解明を進めました。その結果、「14-DHE」がアルギナーゼ1を増やし、糖化ダメージを抑制するとともに、老化を促進するシグナルを抑制することでアンチエイジングに導くことを見いだしましたので、お知らせします。

なお、本研究成果の一部は第20回日本抗加齢医学会総会（2020年9月25日から27日／WEB開催）で発表して-----

生涯を終えた細胞をスムーズに脱落させる巧妙な仕組み 京都産業大学から解明

大学ジャーナルオンライン - 2023/6/23 <https://univ-journal.jp/231523/>

京都産業大学とシンガポール国立大学などの研究グループは、上皮組織において死にゆく上皮細胞が「細胞脱落」するメカニズムを明らかにした。

これまで知られている細胞脱落のプロセスとして、寿命を迎えた細胞は組織から押し出されて離脱し、そのスペースに速やかに隣接細胞が侵入することがわかっている。しかし、この脱落細胞と隣接細胞との複雑で精妙な協調作用の詳細は明らかとなっておらず、また細胞死（アポトーシス）過程において細胞が断片化して形成される細胞外小胞の一つ、「アポトーシス小体」についても、その役割がよくわかっていなか……

ヒトの初代免疫細胞に一次繊毛が存在、大阪大学など世界初の発見

大学ジャーナルオンライン - 2023/6/23 <https://univ-journal.jp/231793/>

大阪大学大学院薬学研究科の藤田郁尚招へい教授、名古屋市立大学大学院医学研究科の森田明理教授、元医療基盤・健康・栄養研究所の石井健教授（現東京大学医科学研究所教授）らの研究グループは、ヒトの初代免疫細胞に一次繊毛と呼ばれる細胞小器官が存在することを世界で初めて見つけ……

以下の4件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2023年6月14日～27日）から選定したものです。

中高年者の筋力維持にタウリンが寄与する可能性、一方で日本人のタウリン摂取量は減少傾向

<https://sndj-web.jp/news/002314.php> (2023/6/21)

中高年者の筋力維持にタウリンが寄与する可能性が報告された。しかし、その一方で日本人のタウリン摂取量は、魚介類の摂取源に伴い過去8年間で約2割減少していたという。大正製薬発行の2報のニュースリリースを紹介……

炭水化物の摂取量に応じて筋トレの効果が異なる？ 上肢筋力の指標の一部に有意差

<https://sndj-web.jp/news/002313.php> (2023/6/22)

炭水化物の摂取量が多いほうが、レジスタンストレーニング後のアームカールで評価した上肢筋力が、より大きく上昇する可能性を示唆するデータが報告された。日常的にトレーニングを行っている男性を対照とした遡及的研究によるもの。ただし、ベンチプレスやスクワットなどの評価結果は、炭水化物摂取量の多寡による有意差が観察されなかった……

ビタミンDサプリメントで癌死亡率が12%減の可能性も、日本人の日本人の98%がビタミンD不足の現実

<https://sndj-web.jp/news/002317.php> (2023/6/24)

日本人の98%がビタミンD不足に該当するというデータが報告された。東京慈恵会医科大学などの研究グループの研究結果であり、「The Journal of Nutrition」誌に論文が掲載された。一方、同大学も参加した国際共同研究のメタ解析からは、ビタミンDサプリメント摂取によって癌による死亡率が12%低下する可能性が示唆され、「Ageing Research Reviews」誌に論文が掲載された。

両研究の成果の要旨が先頃、同大学のサイトにプレスリリースとして掲載されている。それらを紹介-----

追記：前号でも取り上げましたが、関連した国際共同研究も含めて詳しく紹介されていますので改めてのご紹介です。

大豆製品の摂取頻度が高い高齢女性はADL障害の発生リスクが低い 4年間の縦断的研究

<https://sndj-web.jp/news/002322.php> (2023/6/26)

5歳以上の日本人女性を4年間追跡した研究から、大豆製品の摂取量が多いほど、日常生活動作（ADL）障害の発生リスクが低く、交絡因子調整後もこの関連が有意であることがわかった。東京都健康長寿医療センター研究所 自立促進と精神保健研究チームの小島成実氏らが行った縦断的研究によるもので、「Women's health reports」に論文が掲載-----

■ その他の食品関連科学・技術情報

容器の厚みで飲み物の味が変わる？ 厚いグラスで甘いお茶、薄いグラスで苦いお茶

スポーツ栄養 WEB - 2023/6/27 <https://sndj-web.jp/news/002318.php>

飲み物を飲むときのグラスの厚みによって、緑茶の味が変化する可能性が報告された。中央大学などの研究グループの研究によるもので、「Food and Humanity」に論文が掲載されるとともに、同大学のサイトにプレスリリースが掲載-----

阪大が味覚感度を数値として推定する手法を開発 個人間での比較が可能に

マイナビニュース - 2023/6/20

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230620-2708780/>

デンソーウェーブが高速協働ロボットで総菜自動化、AI活用で不定形物も巧みに把持

MONOist - 2023/6/16 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2306/16/news082.html>

デンソーウェーブは「FOOMA JAPAN 2023」（2023年6月6～9日、東京ビッグサイト）において、協働ロボット「COBOTTA PRO」を活用した総菜工程の自動化ソリューションなどを披露-----

入れ損ねても仲間がカバー、2台の人型協働ロボットが食材盛り付け連携

MONOist - 2023/6/14 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2306/14/news082.html>

アールティは「FOOMA JAPAN 2023」（2023年6月6～9日、東京ビッグサイト）において、人型協働ロボット「Foodly」を使ったデモンストレーションを披露-----

不定形物認識技術を備える食材ピック&プレースロボット向けビジョンシステム

MONOist - 2023/6/14 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2306/20/news054.html>

アールティは2023年6月5日、ピック&プレースロボット向けビジョンシステム「NEKONOTE Vision（ネコノテビジョン）Ver.1.00」を発表した。不定形物の認識技術を搭載し、バラ積みされた食材をピッキング-----

■ その他の科学・技術情報

ライオン、ハミガキの組成開発期間を約半分に短縮する新たな実験手法を確立

IoTNews - 2023/6/13 <https://iotnews.jp/manufacturing/227492/>

従来、組成開発では、膨大な組み合わせの中から、研究データや研究員の知見に基づいて候補となる組成を考案し、実験を繰り返すことで、目標を満たす組成を絞り込んでいた。しかし、新規成分の配合や品質項目の追加を伴うような開発テーマの場合、検討の初期段階では研究データが不足しているため、一定の検討期間を要していた。そこで、ライオン株式会社は、製品の組成開発での活用を目的に、機械学習などの情報科学の技術を用いて、組成・材料開発の効率化を図る技術「マテリアルズインフォマティクス（MI）」を用い、同社研究員の知見を取り入れたデータ駆動型の実験計画手法を新たに確立し、運用を開始-----

腸管上皮細胞と腸内細菌を同一環境で培養、ヒト腸管を人工的に再現

「腸内細菌共培養デバイス」のテスト販売を開始

島津製作所 - 2023/6/22 https://www.shimadzu.co.jp/news/2023/ptvyp21r7kyw_6fh.html

島津製作所は、6月22日に「腸内細菌共培養デバイス」のテスト販売を開始します。本製品は、ヒトの腸内環境を再現した細胞培養装置です。有酸素、無酸素空間を一つの培養容器内に実現し「酸素が必要な腸管上皮細胞」と「酸素のない環境を好む腸内細菌」の共培養*1を可能としました。本製品の基礎技術は、京都大学生命科学研究科 片山高嶺教授との共同研究の成果です。本製品を試用した森永乳業株式会社の研究成果は4月13日に科学雑誌「Frontiers in microbiology」に掲載されました。当社は、6月27日～28日開催の第27回腸内細菌学会学術集会で京都大学 片山教授、慶応義塾大学薬学部 長谷耕二教授、金倫基教授らとの共同研究の成果と併せ本製品を発表予定-----

聴覚的な注意が細かな目の動きの中に現れることを発見

MONOist - 2023/6/14 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2306/14/news028.html>

NTTは、瞳孔反応など目の細かな動きの中に、どの音声に関心を寄せているかといった聴覚的注意の状況が現れることを明らかにした。人の興味や注意などが聴覚的にどこに向いているのかを、微細な目の動きから読み取れる可能性が-----

生体分子モーターを試験管内で簡単に合成 ナノテク分野など応用に弾み 京大ら

財経新聞 - 2023/6/24 <https://www.zaikei.co.jp/article/20230624/726629.html>

京都大学、九州大学などは20日、生体分子モーター「キネシン」を試験管内で簡単に合成することに成功したと発表した。今回研究グループが用いた方法によれば、その構造・機能を改変することも容易だ。細胞が機能する仕組みの理解を深めるために役立つだけでなく、ナノテクノロジーなどの工学分野でも研究開発に弾みがつくことが期待-----

さまざまな種が存在する「きのこ」 多様化のきっかけは白亜紀の出会い？

マイナビニュース - 2023/6/15

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230615-2705041/>

熊本大、あらゆるバイオ化合物で高い細胞内導入効率を示す変幻自在ポリマーを開発

マイナビニュース - 2023/6/14

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230614-2703829/>

■ その他

英文情報サイト *Foodnavigator-asia* に 6 月 15 日付けで、英文記事の和訳版が掲載されましたのでご紹介いたします。タイトルのクリックで記事本文が閲覧できます。

代替タンパク質：ラボグロウンミートの命名、ANEW 植物性ランチョンミート、Nestle Malaysia の植物性の進歩

ブラン ニュー：Nestle、Kraft Heinz、Taokaenoi などのビッグブランド

ポリシー ピック：フィリピン研究開発食品ガイドライン、シンガポールのニュートリグレード分析、インドネシアの食品安全基準など

サイエンス ショート：細胞系食品」のネーミング、明治の乳酸菌研究、食品貿易のための電子商取引など

ジャパン フォーカス：サッポロの AI 開発アルコール飲料、麒麟の機能性飲料への注目、食品貿易の国際協力、パンデミック後の青果物販売ブームなど

武田譲りの「創薬エンジン」強みに、臨床開発から創薬研究に軸足転換 —スコヒアファーマ・渡部正教社長 | ベンチャー巡訪記

AnswersNews - 2023/6/22 <https://answers.ten-navi.com/pharmanews/25870/>

製薬業界のプレイヤーとして存在感を高めるベンチャー。注目ベンチャーの経営者を訪ね、創業のきっかけや事業にかける想い、今後の展望などを語ってまいります。

今回訪ねたスコヒアファーマは、武田薬品工業の腎・代謝・循環器領域の研究者とパイプラインアセットをもとに、INCJと武田薬品、メディカルホールディングス（HD）の出資を受けて2017年に設立されたカーブアウトベンチャー。これまで武田から持ち出したアセットの臨床開発を進めてきましたが、昨年それが一段落し、現在は創薬研究に軸足を移して

以上